

平成30年度業務実績報告書

令和元年6月
独立行政法人国立美術館

目 次

| | |
|--|----|
| I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上 | 3 |
| 1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開 | 3 |
| (1) 多様な鑑賞機会の提供 | 3 |
| ① 所蔵作品展 | 3 |
| ② 企画展 | 4 |
| ③ 国立映画アーカイブの映画上映会・展覧会 | 6 |
| ④ 巡回展・巡回上映 | 6 |
| (2) 美術創造活動の活性化の推進 | 7 |
| ① 新しい芸術表現への取組 | 7 |
| ② 公募団体等への展覧会会場の提供（国立新美術館） | 8 |
| (3) 美術に関する情報の拠点としての機能の向上 | 9 |
| ① 情報通信技術（ICT）を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等 | 9 |
| ② 美術情報の収集、記録の作成・蓄積、デジタル化、レファレンス機能の充実 | 11 |
| ③ インフォメーションデータセンター（IDC）の確立 | 13 |
| (4) 教育普及活動の充実 | 13 |
| ① 幅広い学習機会の提供（講演会、ギャラリートーク、アーティスト・トーク等） | 13 |
| ② ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業 | 15 |
| (5) 調査研究の実施と成果の反映・発信 | 18 |
| ① 調査研究一覧 | 18 |
| ② 調査研究成果の発信 | 19 |
| (6) 快適な観覧環境の提供 | 20 |
| ① 高齢者、障害者、外国人等を含めた入館者本位の快適な観覧環境の形成 | 20 |
| ② 入場料金、開館時間等の弾力化 | 22 |
| ③ キャンパスメンバーズ制度の実施 | 25 |
| ④ ミュージアムショップ、レストラン等の充実 | 25 |
| 2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承 | 28 |
| (1) 作品の収集 | 28 |
| (2) 所蔵作品の保管・管理 | 30 |
| (3) 所蔵作品の修理・修復 | 31 |
| (4) 所蔵作品の貸与 | 33 |
| 3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与 | 35 |
| (1) 国内外の美術館等との連携・協力等 | 35 |
| (2) ナショナルセンターとしての人材育成 | 36 |
| (3) 国内外の映画関係団体等との連携等 | 37 |
| II 業務運営の効率化 | 42 |
| 1 業務運営の取組 | 42 |
| 2 組織体制の見直し | 44 |
| 3 契約の点検・見直し | 44 |
| 4 共同調達の推進 | 45 |
| 5 給与水準の適正化等 | 46 |
| 6 情報通信技術を活用した業務の効率化 | 46 |

| | |
|--|----|
| Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画等..... | 47 |
| 1 自己収入の確保..... | 47 |
| 2 保有資産の有効利用・処分..... | 47 |
| 3 予算..... | 47 |
| 4 収支計画..... | 48 |
| 5 資金計画..... | 49 |
| 6 貸借対照表..... | 50 |
| 7 短期借入金..... | 50 |
| 8 重要な財産の処分等..... | 50 |
| 9 剰余金..... | 50 |
| Ⅳ その他主務省令で定める業務運営に関する事項..... | 52 |
| 1 内部統制・ガバナンスの強化..... | 52 |
| 2 施設・設備に関する計画..... | 53 |
| 3 人事に関する計画..... | 53 |
| 4 関連公益法人..... | 55 |
| 5 東京国立近代美術館工芸館の移転に向けた準備..... | 55 |
| 別表 1 所蔵作品展..... | 56 |
| 別表 2 企画展..... | 56 |
| 別表 3 映面上映会（国立映画アーカイブ）..... | 58 |
| 別表 4 展覧会（国立映画アーカイブ）..... | 59 |
| 別表 5 地方巡回展・巡回上映等..... | 59 |
| 別表 6 調査研究一覧..... | 60 |
| 別表 7 展覧会図録における執筆..... | 67 |
| 別表 8 研究紀要における執筆..... | 69 |
| 別表 9 館ニュースにおける執筆..... | 70 |
| 別表 10 館外の学術雑誌、学会等における調査研究成果の発信..... | 74 |
| 別表 11 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催..... | 93 |
| 別表 12 シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築..... | 94 |

（別紙 1）独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上

1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

(1) 多様な鑑賞機会の提供

平成 30 年度は、各館が多彩な企画展を開催するとともに、所蔵作品展において企画展と連動した特集展示を積極的に開催し、また、開催時期やテーマなど利用者のニーズにこたえる時宜にかなったイベントを開催するなど工夫をこらした結果、総入館者は過去最高を記録した平成 29 年度に次ぐ実績となり、特に所蔵作品展の入館者は過去最高となったことが特徴である。

① 所蔵作品展

所蔵作品展は、研究成果、利用者のニーズ等を踏まえ、別表 1 のとおり実施した。

各館の取組の特徴は以下のとおりである。

ア 東京国立近代美術館

(本館)

特集「明治後期の美術」では、平成 30 年度新たに重要文化財に指定された和田三造《南風》(1907 年)をはじめ、明治期の作品を特集し、政府の「明治 150 年」施策の関連イベントとしても位置づけられた。また、「瀧口修造と彼が見つめた作家たち」や「遠くへ行きたい」などコレクションを活用した小企画展を実施し、研究成果の発表を行ったほか、「生誕 150 年 横山大観展」や「アジアにめざめたら：アートが変わる、世界が変わる 1960-1990 年代」などの企画展と連動した特集を継続して開催することで、館内の回遊性を高めつつ、多くの来館者を獲得した。

(工芸館)

夏季の「こどもとおとなのアツアツこうげいかん」では、制作にかかる「熱さ」と「圧力」のプロセスを切り口として、工芸におけるフォルムの生成や豊かな質感への興味をかきたてることを企図した。対象年齢別に二種類のセルフガイドを作成、配布したほか、小学生以下や子供連れの家族を対象とした教育普及事業を積極的に実施したところ、平成 29 年度同時期の展覧会と比べて中学生以下の来館者数が増加した。また「近代工芸の名品一囊にまつわるエトセトラ」では、身近な茶道具の一つとなっている囊を特集し、近代の漆芸家や木工芸作家が手がけた囊を特集陳列し、色、形、様式、装飾方法などさまざまな視点から紹介した。

イ 京都国立近代美術館

特集展示「日本の洋画―藤田嗣治の同時代人―」では、企画展「没後 50 年 藤田嗣治展」の内容と連動し、藤田嗣治の同時代に日本の洋画壇で活躍していた作家を紹介することで、来館者のニーズを捉え、回遊性をもたらす成果を上げた。そのほか、「没後 50 年 マルセル・デュシャン特集」や「W. ユージン・スミスの写真」など、作家の周年を記念する特集展示を積極的に実施したところ、時宜を捉えたテーマ設定として、来館者の関心も高く、国民の関心に応えることができた。以上の取組を実施した結果、所蔵作品展においては目標の 3 倍以上の入館者を獲得することができた。

ウ 国立西洋美術館

ルーカス・クラナハ(父)《ホロフェルネスの首を持つユディト》(1530 年頃)など、新規収蔵作品の紹介・展示を積極的に行ったほか、平成 29 年度に寄託を受けた林忠正書簡等の公開を行う小企画展「林忠正―ジャポニスムを支えたパリの美術商―」など、研究成果の発表としての小企画展を開催した。そのほか、展示室の一角を使った特別展示「リヒター／クールベ」では国立西洋美術館館所蔵のギュスターヴ・クールベと現代作家のゲルハルト・リヒターの絵画を比較展示し、所蔵作品を新たな視点から見る機会を提供した。

エ 国立国際美術館

所蔵作品展「コレクション 2：80 年代の時代精神から」及び「コレクション 3：見えないもののイメージ」では、それぞれ同時開催の企画展「ニュー・ウェイブ 現代美術の 80 年代」及び「クリスチャン・ボルタンスキー - Lifetime」に関連付けた内容とすることで、所蔵作品展と企画展との相乗効果を生み出し、その結果多くの来館者を獲得する成果を上げた。

② 企画展

企画展は、来館者のニーズに対応しつつ、以下の観点に留意して別表2のとおり実施した。

- イ 国際的視野に立ち、アジア諸地域を含め海外の主要美術館と連携し、確固たる評価を得ている世界の美術を紹介するとともに、我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介する展覧会等に積極的に取り組む。
- ロ 展覧会テーマの設定や他の芸術文化との連携による展示方法等について方向性を提示することに取り組む。
- ハ メディアアート、アニメ、建築、ファッションなど我が国が世界から注目される新しい領域の芸術表現を積極的に取り上げ、最先端の現代美術への関心を促す。
- ニ 過去の埋もれていた作家・作品・動向の発見や再評価に取り組む。
- ホ その他

各館の取組の特徴は以下のとおりである。

ア 東京国立近代美術館

(本館)

「生誕150年 横山大観展」では、生誕150年、没後60年という節目に、横山大観の代表作を通じて作家の画業をたどることができるよう構成したほか、近年個展で展示されたことのない作品を出品することで、画業の多面性を紹介した。広報戦略として、ゲームアプリとのコラボレーションをしたほか、会員制動画コミュニティサイト「ニコニコ動画」の「ニコニコ生放送」で横山大観展を紹介した結果、これまで横山大観になじみのなかった若い層の関心も取り込み、多くの入館者を獲得した。

「アジアにめざめたら：アートが変わる、世界が変わる 1960-1990年代」では、韓国、シンガポールの国立美術館との5年におよぶ共同研究の成果を反映させ、研究史の浅いアジアの戦後美術を、国を超えて比較考察し、国民に美術を通してアジア諸国の現代史や文化を深く知る機会を提供した。また、本展の研究の結果、日本の国立美術館の研究能力の高さと国際的な発信力をアピールすることができたことは大きな成果である。さらに、本展は東京会場ののち、ソウルに巡回し、翌年度にシンガポールに巡回を予定しており、アジアにおける日本の美術を海外に紹介する機会ともなった。

(工芸館)

「日本・スウェーデン外交関係樹立 150 周年 インゲヤード・ローマン展」では、日本とスウェーデンの外交関係樹立 150 周年の機運を捉え、世界的に高く評価され、現在も第一線で活躍するスウェーデン人デザイナーであり陶芸家のインゲヤード・ローマンを紹介し、文化の面から国交を深めることに寄与した。作品理解を深めるため、世界的に注目される建築デザイナーグループ「クラソン・コイヴィスト・ルーネ」に会場デザインを依頼したことで、工芸館の建物の特徴や構造を生かした展示空間となり、明治時代の重要な建造物としての工芸館の魅力を来館者に伝える貴重な機会ともなった。

「The 備前—土と炎から生まれる造形美—」では、「備前焼」に焦点を絞り、創作の原点となる古陶磁から近代の物故作家による作品、さらに現代作家による創作性を重視した作品へと歴史的な流れを見せることで、その繋がりやの深さや「備前」あるいは「備前焼」という一つの地域性に特化した技術・技法の中における表現の多様性を示した。日本的なやきものとしてのイメージが強い「備前焼」を取り上げた展覧会を、桜が咲く時期に開催することで、竹橋周辺の観光客にアピールし、入館者を獲得した。また、現代陶芸家のコーナーの作品の撮影を撮影可とした結果、SNS 等での発信による広報効果が得られた。

イ 京都国立近代美術館

「明治 150 年展 明治の日本画と工芸」では、平成 30 年が明治元年から 150 年の節目の年にあたることを記念し、明治時代の美術作品や工芸作品を紹介した。明治時代の工芸作品は海外での人気が高く、これまで国内での鑑賞の機会が限られていたが、京都国立近代美術館では、平成 28 年度から明治時代の工芸作品を継続的に収集してきたことで、本展覧会において、それらの貴重な作品を国民に公開することができた。このことは、希少な美術作品の海外流出を防ぎ、国民に多様な鑑賞機会を提供するという国立美術館の役割を果たしたといえる。また、明治時代の工芸品は近年「超絶技巧」というキーワードで注目を集めており、そうした作品を多く展示することで来館者のニーズを捉え、国民の関心に応えることができた。

「生誕 110 年 東山魁夷展」では、生誕 110 年という節目に、京都では 30 年ぶりの本格的な大回顧展を開催し、東山魁夷の作品に親しむ貴重な機会を提供した。国内の美術館から代表作を借用し、唐招提寺御影堂の障壁画を再現展示することによって東山魁夷の代表作が多数揃う質の高い回顧展となり、多くの来館者を獲得する成果を上げた。また、京都市交通局とタイアップし、展覧会と出品作品に縁のある場所とを結びつけるスタンプラリーを企画したところ、参加者にも好評で、大きな広報効果が得られた。

ウ 国立西洋美術館

「ルーベンス展—バロックの誕生」では、17 世紀フランドルを代表する画家ルーベンスの作品を、イタリアの古代、ルネサンス、バロックの美術作品とともに展示し、作家がイタリア美術から受けた影響と、イタリアに残された彼の作品が同地の芸術家たちに及ぼした影響を紹介した。日本において認知度の高い作家を取り上げたことで、美術になじみのない層の来館を促進し、多くの入場者を迎える成果を上げた。

「国立西洋美術館開館 60 周年記念 ル・コルビュジエ 絵画から建築へ—ピュリスムの時代」では、国立西洋美術館本館の設計者ル・コルビュジエの 1920 年代パリにおける多彩な活動を、絵画・素描、建築・都市計画関連資料（模型、図面、写真、映像）、家具、出版物等によって紹介するとともに、彼が交流をもったパリの芸術家たちの絵画・彫刻作品をあわせて展示した。ル・コルビュジエ建築と同時代の美術との関係を示すことにより、世界遺産に登録されている国立西洋美術館本館の価値の再認識を促す機会となった。また、ル・コルビュジエへの関心が高い建築・デザイン関係者への周知に重点を置いて広報を展開した結果、大学生入場者の割合が 1 割を超えるなど、新たな来館者層の開拓につながったことも成果といえる。

エ 国立国際美術館

「視覚芸術百態:19 のテーマによる 196 の作品」では、国立国際美術館の所蔵作品 196 点を、全館展示というかつてない規模で展示することによって、現代の美術作品を継続的に収集している国立国際美術館の活動を広く国民にアピールした。ピカソやウォーホルなど国際的に著名な作家とともに、日本を代表する作家の作品を多数展示し、ホームページなどで宣伝したことにより、外国人入館者を呼び込むことに成功した。また、初公開の新収蔵作品約 50 点を展示することにより、国立国際美術館の所蔵作品展に慣れ親しんだ人にとっても新たな発見がある展示構成としたことで、幅広い鑑賞者の期待に応えることができた。

「ニュー・ウェイブ 現代美術の 80 年代」では、日本の現代美術にとって大きな転換期となった 1980 年代の美術作品を、広範な視点から展観した。日本国内において 1980 年代の現代美術に焦点を当てた大規模な展覧会は、ほとんど開催されておらず、今後の同分野の研究発展に端緒を開いたという点で、意義深いものであった。また、平成の最終年度に、昭和最後の 10 年間に回顧する展覧会を開催することで、時宜を捉えた企画として、来館者のニーズに応えることができた。

オ 国立新美術館

「こいのぼりなう！須藤玲子×アドリアン・ガルデール×齋藤精一によるインスタレーション」では、国立新美術館の、2000 m²の企画展示室を活かし、様々な分野で活躍する三人のクリ

エイターによる大型インスタレーションを展示した。通常は美術館に足を運ばない層にアピールするため、入場無料の展覧会としたほか、展示にあわせた常設の教育普及プログラムを用意し、展覧会を多面的に楽しむことができるよう努めた結果、幅広い鑑賞者の期待に応えることができ、多数の来館者を獲得した。また会場内では、動画も含めてすべての撮影を許可したほか、会場内に展覧会ハッシュタグを掲示し SNS でも展覧会を共有できるようにしたところ、大きな広報効果が得られた。

「荒木飛呂彦原画展 JOJO 冒険の波紋」では、平成 30 年度文化庁芸術選奨メディア芸術部門文部科学大臣賞を受賞した荒木飛呂彦による、マンガシリーズ「ジョジョの奇妙な冒険」の誕生 30 周年を記念し、これまでにない規模でモノクロ、カラー原画を展示したほか、他のジャンルのアーティストとのコラボレーションにより、マンガというコンテンツの可能性を示し、美術館になじみの薄い層を呼び込むことに成功した。展覧会の開催期間に六本木周辺の店舗や施設で関連イベントを行い、街全体を JOJO でジャックすることで、国立新美術館のみならず、六本木周辺での周遊性を高め地域の活性化にも寄与した。なお、本展覧会は日時指定制のチケットを導入し、入場者数とショップの待機列をコントロールしながらチケットを発売するなど、展覧会運営の面でも実験的な試みを行い、今後の展覧会運営につながる成果を残した。

③ 国立映画アーカイブの映画上映会・展覧会

国立映画アーカイブの映画上映会・展覧会は、別表 3 及び別表 4 のとおり実施した。

取組の特徴は以下のとおりである。

上映会「国立映画アーカイブ開館記念 映画を残す、映画を活かす。」では、日本における映画アーカイブの歩みをふり返り、8 万本を超える所蔵フィルムの中から、日本映画史上の代表的な映画人の作品やトピックをおさめた映像を、近年の復元作とあわせて紹介した。日本映画の歴史を通観する視点をもって、尾上松之助、阪東妻三郎、小津安二郎、衣笠貞之助、黒澤明、稲垣浩、五所平之助、成瀬巳喜男、マキノ雅弘らを、その代表作と存在が知られていなかったメイキング映像やプライベート映像を通して顕彰を行ったほか、可燃性オリジナルネガから新たにプリントを作成し、『生きものの記録』（黒澤明監督、1955 年）や『煙突の見える場所』（五所平之助監督、1953 年）の本来の映像美を甦らせた。映画人の貴重なプライベート映像や発掘映像に関しては、鑑賞に来られたご遺族や関係者からその映像と映画人について上映前に紹介をいただき、鑑賞者の理解をより深め、歴史的文化遺産として映画保存の大切さと必要性を訴えることができた。

上映会「シネマ・エッセンシャル 2018」では、日本映画の重要な監督から黒澤明、小林正樹、今村昌平、相米慎二の 4 名を取り上げて上映した。過去の名作は映像ソフトを通じて観ることが主流になっており、その本来の姿であるフィルムによるスクリーン上映の機会はますます稀少になっている。本企画はその機会を保証するものとして、国立映画アーカイブの役割を果たしたといえる。

展覧会「国立映画アーカイブ開館記念 没後 20 年 旅する黒澤明 榎田寿文ポスター・コレクションより」では、世界 30 か国にわたる黒澤映画のポスター 84 点並びに海外の映画資料を展示し、黒澤映画の卓越した国際性に光を当てた。各国のポスター文化の特徴を比較的に捉えることができる国際性の高い企画として、外国からの来場者にも強くアピールでき、また黒澤映画の輸出史についても新たな知見を加えることができた。広報の面では、監督黒澤明の、その国際性を直接示すポスターや資料のアピール力が、多くの新聞やウェブ媒体での取材に結びつき、広い関心呼び起こした。

また、文化庁補助金事業として、デジタル化した映画ポスターほか映画関連資料の、館外での展示事業を実施した。会場としては一般の人々の散策が可能な場所を選び、平成 30 年度は、東京ではアーツ千代田 3331、京都では京都国立近代美術館 1 階ロビーで開催した。

④ 巡回展・巡回上映

地方巡回展及び巡回上映等は、別表 5 のとおり実施した。

(2) 美術創造活動の活性化の推進

① 新しい芸術表現への取組

新しい芸術表現への取組については、各館以下のとおり実施した。

| ア 東京国立近代美術館 | | |
|---|----------------------------|--|
| (本館) | | |
| 事業(展覧会等)名 | ジャンル | 取組内容 |
| 企画展「ゴードン・マッタークラーク展」 | 映像, 建築 | 多くの映像や、本展のために制作した大型建築模型を用いた先駆的な展示により、多領域におよぶマッタークラークの活動を紹介した。 |
| 企画展「アジアにめざめたら：アートが変わる，世界が変わる 1960-1990年代」 | 映像 | アジア諸国の先駆的な映像表現及びパフォーマンスの記録映像を多数紹介した。また関連する上映会を5回実施した。 |
| 所蔵作品展「MOMAT コレクション」 | 映像 | ビデオ・アート草創期の作品であるブルース・ナウマン《コーナーで跳ねる》(1968年)、リンダ・ベンギリス《ナウ》(1973年)や、近年の映像作品から高嶺格、田中功起らの作品を展示した。 |
| イ 京都国立近代美術館 | | |
| 事業(展覧会等)名 | ジャンル | 取組内容 |
| 企画展「バウハウスへの応答」 | メディアアート | インドの国民的詩人ラビンドラナート・タゴール(Rabindranath Tagore)が目指した教育の在り方と現在を主題に、イギリスを拠点に活動するオトリス・グループ(The Otolith Group)が本展のために制作した映像作品を公開した。 |
| 企画展「世紀末ウィーンのグラフィック デザインそして生活の刷新にむけて」 | デザイン | ウィーン分離派を中心とするデザインコレクションというテーマによって、世紀末ウィーンを扱った他の展覧会と一線を画す展示を開催した。 |
| 所蔵作品展「ウィリアム・ケントリッジ《俺は俺ではない、あの馬も俺のではない》」 | メディアアート | ゴーゴリの短編小説を原作としたショスタコーヴィチのオペラ『鼻』の舞台監督を手がけたケントリッジによる8面映像インスタレーションを展示した。 |
| ウ 国立映画アーカイブ | | |
| 事業(展覧会等)名 | ジャンル | 取組内容 |
| 「こども映画館」(地方巡回含む) 「映画の教室」 | アニメーション | 「こども映画館」(地方巡回含む)と「映画の教室」で、日本のアニメーションを対象にプログラムを作成・上映した。 |
| エ 国立国際美術館 | | |
| 事業(展覧会等)名 | ジャンル | 取組内容 |
| 企画展「開館40周年記念展「トラベラー:まだ見ぬ地を踏むために」」 | 映像, パフォーマンス, メディアアート(映像)ほか | 開館40周年を記念し、過去40年のコレクションとパフォーマンスやメディアアートなどの新たな分野の作品を関連づけて紹介することで美術館活動の可能性を探った。特にパフォーマンスについては、作品を展覧会の中に組み込むために、プログラムを理解し、演技指導を受けた複数のパフォーマーに協力を得て、会期中毎日来館者がそのパフォーマンス作品を見ることができるようにした。 |
| 所蔵作品展 | 映像 | 「コレクション1:2014→1890」において加藤翼のビデオ・インスタレーション作品《言葉が通じない》(2014年)を展示した。これは国を超えたコミュニケーション・ディスコミュニケーションという社会問題をテーマにした作品であり、映像作品ならではの表現の在り方を鑑賞者に提示する機会を創出した。 |

| オ 国立新美術館 | | |
|--|---|---|
| 事業（展覧会等）名 | ジャンル | 取組内容 |
| 企画展「こいのぼりなう！—須藤玲子×アドリアン・ガルドール×齋藤精一によるインスタレーション」 | インスタレーション, デジタル・インスタレーション, デザイン, ファッション, 映像, 音楽 | 国内の産地で製造された 300 種以上の個性的な布を用いてこいのぼりを制作し、コンピュータ制御により、布の一部を動かし光と連動させる先駆的なインスタレーションを実現した。アートナイト 2018 の期間には、ライブ・パフォーマンスも行った。 |
| 企画展「第 21 回文化庁メディア芸術祭受賞作品展」 | メディアアート, アニメーション, マンガ | 多様な表現形態を含む受賞作品と、功労賞受賞者の功績を一堂に展示するとともに、シンポジウムやトークイベント、ワークショップ等の関連イベントを実施し、国内外の多彩なクリエイターやアーティストのメディア芸術作品を展示した |
| 企画展「彼女と。」 | ファッション | 展覧会タイトルを「彼女と。」とし、現代社会における「新しい女性像」がどのようなものであるかを提示することをねらいとして、「シネマ」をテーマにした劇の中に鑑賞者が参加・体験する実験的なインスタレーション展示とした。 |
| 企画展「荒木飛呂彦原画展 JOJO 冒険の波紋」 | マンガ, アニメーション, 映像, 特殊素材, ファッション, インスタレーション | さまざまな分野で活躍する現代のクリエイターとマンガというコンテンツのコラボレーションによる斬新な展示を実施した |
| 企画展「イクムラレイコ 土と星 Our Planet」 | インスタレーション, 映像, 音楽 | 彫刻と映像のインスタレーション、宇宙から採取した音と版画とのインスタレーションなど、伝統的なメディアに新しいメディアを組み合わせた先駆的な展示を行った。 |
| 企画展「未来を担う美術家たち 21st DOMANI・明日展 文化庁新進芸術家海外研修制度の成果」 | メディアアート, 映像, インスタレーション | 絵画やインスタレーション、メディアアートなど、多様な素材と表現の作家を選定し、様々なジャンルの新しい芸術の創出に取り組む現代美術家たちを紹介した。また、森美術館が日本の現代美術家を集めるシリーズ展「六本木クロッシング 2019」と連携した講演会のほか、出品作家やゲストによるトーク等を計 8 回実施した。 |
| 「国立新美術館 国際展 ジャポニスム 2018 公式企画 『MANGA⇔TOKYO』」 | マンガ, アニメーション, ゲーム, 特撮 | 国立新美術館が主導して企画した、マンガ、アニメ、ゲームに関する大規模な展覧会をパリで開催し、日本が誇る文化の発信に寄与した。 |
| イベント「TOKYO ANIMA!2018」, 「インターカレッジアニメーションフェスティバル (ICAF) 2018」, 「イントウ・アニメーション」 | アニメーション | 若い世代による新しい表現を紹介すると同時に、若手が作品を発表する場の創出に貢献した。 |
| イベント「六本木アートナイト 2018」 | インスタレーション, パフォーマンス, 音楽 | 様々な施設が集積する六本木の街に、多様な作品を点在させ、非日常的な体験を作り出すアートの祭典。生活の中でアートを楽しむという新しいライフスタイルの提案に寄与した。メインプログラムアーティストの鬼藤健吾による大規模なインスタレーションをはじめ、オノ・ヨーコのバナー展示、DUNDU《～光の巨人～》のパフォーマンス、「こいのぼりなう！」展に音楽を提供した Softpad によるライブパフォーマンスや、アニメーションの特集上映「TOKYO ANIMA!2018」を開催した。 |
| イベント「ここから 3—障害・年齢・共生を考える 5 日間」 | マンガ, アニメーション, メディアアート | 「障害・年齢・共生を考える」をテーマとし、障害のある方の作品や、メディアアート作品、文化庁メディア芸術祭の受賞作などから選ばれたマンガ、アニメーション作品を展示したほか、音楽家の大友良英氏によるサウンドイベントや監修者によるギャラリートーク（手話通訳付き）を実施した。 |
| | | 計 19 件 |

② 公募団体等への展覧会会場の提供（国立新美術館）

公募展団体数：計 75 団体

年間利用室数：延べ 3,436 室／年

稼働率：98%（目標：100%）

入館者数：1,212,730 人

- 1 公募団体等から寄せられた意見や要望も参考としつつ、公募展の効率的な開催準備と円滑な運営を図るため、以下の取組を実施。
 - ・作品搬入出時の車両の入退館時間の指定や駐車場の割振りを団体ごとに実施。
 - ・作品用エレベータの使用時間割振りや使用備品の事前配置等の徹底。
 - ・審査、展示等に必要な備品の充実。
 - ・展示作品の素材や陳列方法等について、施設の管理運営上問題の生じる可能性のある公募団体等との事前協議の徹底。
 - ・公募展運営サポートセンターにおいて、使用公募団体等に関する電話（国立新美術館公募展案内ダイヤル）への問い合わせ対応の実施。
 - ・公募展のポスター掲示や公募展開催案内チラシの作成及び配布による広報の実施。
 - ・館ホームページの公募展紹介ページに、文字情報に加えポスター等の画像情報を掲載することにより広報を充実。
 - ・公募展と企画展の観覧料の相互割引について、実施団体の情報を館内で周知。
- 2 館を使用する公募団体等が実施する教育普及活動に対し、講堂及び研修室の提供や運営管理上必要な助言、参加者の動線の確保等のサポートを実施。また、館ホームページへの情報掲載、館内でのチラシの配布及びポスターの掲示等により、普及・広報の支援を実施。
- 3 令和2年度に公募展示室を使用する74団体（野外展示場のみ使用団体を含む。）を決定。

（3）美術に関する情報の拠点としての機能の向上

① 情報通信技術（ICT）を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等

ア ホームページアクセス件数

| 館名 | アクセス件数（ページビュー） | |
|-------------------|-------------------|-------------------|
| | 実績 | 目標 |
| 本部 | 910,990 | 5,952,350 |
| 東京国立近代美術館（本館・工芸館） | 5,262,835 | 11,613,099 |
| 京都国立近代美術館 | 6,129,622 | 2,360,880 |
| 国立映画アーカイブ | 1,465,418 | — |
| 国立西洋美術館 | 25,941,606 | 10,242,595 |
| 国立国際美術館 | 2,648,466 | 2,547,497 |
| 国立新美術館 | 16,971,718 | 10,701,915 |
| 計 | 59,330,655 | 43,418,336 |

イ 所蔵作品データ等のデジタル化と公開

| 館名 | 画像データ | | | | | テキストデータ | | | | | |
|-----------|---------|------------|---------------|---------------|--------------|--------------|---------------|----------------|---------------|--------------|--------------|
| | デジタル化件数 | | 累積公開件数 | 公開率 | | デジタル化件数 | | 累積公開件数 | 公開率 | | |
| | 新規 | 累計 | | 実績 | 目標 | 新規 | 累計 | | 実績 | 目標 | |
| 東京国立近代美術館 | 本館 | 366 | 11,407 | 7,637 | 57.3% | 57.2% | 92 | 12,314 | 11,527 | 86.4% | 87.4% |
| | 工芸館 | 150 | 4,681 | 3,387 | 87.7% | 33.7% | 70 | 5,207 | *14,422 | 114.5% | 98.4% |
| 京都国立近代美術館 | | 105 | 8,533 | 7,519 | 59.6% | 18.2% | 583 | 15,210 | *14,589 | 115.6% | 100.9% |
| 国立映画アーカイブ | | — | — | — | — | — | 10,313 | 184,783 | — | — | — |
| 国立西洋美術館 | | 1 | 19,239 | 206 | 3.3% | 3.8% | 1 | *26,108 | 4,851 | 78.5% | 85.7% |
| 国立国際美術館 | | 23 | 8,299 | 4,761 | 59.8% | 49.8% | 20 | 9,153 | *18,290 | 104.1% | 98.7% |
| 計 | | 645 | 52,159 | 23,510 | 53.5% | 35.2% | 11,079 | 232,775 | 43,679 | 99.3% | 94.0% |

- 【注1】「デジタル化件数」は、各館のローカルシステムにおける画像及びテキストデータの登録件数である（国立映画アーカイブについては、ローカルシステムである NACD への映画フィルム及び映画関連資料のテキストデータ登録件数を掲載している。）。
- 【注2】「累計公開件数」は、「独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム」（<http://search.artmuseums.go.jp/>）における画像及びテキストデータの公開件数である。
- 【注3】上表のほか、国立映画アーカイブでは「国立映画アーカイブ所蔵映画フィルム検索システム」（<http://nfad.nfaj.go.jp/>）において日本劇映画のテキストデータ 7,551 件を、国立西洋美術館では「国立西洋美術館所蔵作品データベース」（<http://collection.nmwa.go.jp/artizeweb/>）において作品のテキストデータ 5,707 件及び画像データ 5,554 件を、国立新美術館では「ANZAI フォトアーカイブ」（<http://db.nact.jp/anzai/>）においてアーカイブズ資料のテキストデータ 3,217 件を公開している。
- ※1 工芸館、京都国立近代美術館、国立国際美術館では、複数で一揃いの作品を個別に掲載している場合があるため、テキストデータの公開率が高くなっている。
- ※2 国立西洋美術館では、1 作品当たり複数画像データを登録している例があるため、画像データ件数がテキストデータ件数を上回っている。

ウ 各館の特徴

（ア）法人全体

平成 26 年 6 月に策定した「国立美術館のデータベース作成と公開の指針」に基づき、理事長のもとに国立美術館 6 館の情報担当者により組織する「国立美術館のデータベース作成と公開に関するワーキンググループ」を設置しており、各館の課題の整理と今後の事業について継続的に協議を行っている。平成 30 年度は、関西 2 館が図書資料のデータを一般公開した。また、各館収蔵作品の歴史的データを蓄積する方法（入力仕様）の検討及び国立美術館の公開情報資源を一元的に検索・閲覧できるゲートウェイシステム試行版の開発を進めている。

「独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム」については、新収蔵作品のテキストデータ・画像データを追加するとともに、著作権者に画像掲載の許諾を得る必要のある所蔵作品のうち、許諾を得た平成 18 年度以降の新収蔵作品の作家の作品 1,644 点について画像データを新規登録するとともに、平成 27 年度以降の収蔵作品の作家について、著作権者情報の整備を行い、画像掲載許諾申請手続を開始した。また、所蔵作品の歴史情報（来歴・展覧会歴・参考文献歴）について、日英二か国語で順次公開し、国立美術館が所有する美術情報を国内外へさらに広く発信することに努めた。そのほか、所蔵作品情報の国立国会図書館「ジャパンサーチ」への提供を試行的に実施し、令和 2 年度の「ジャパンサーチ」の正式公開に向けて、検討を進めた。

なお、法人ホームページのページビュー数が目標件数（第 3 期中期目標期間平均実績）を大幅に下回っているが、これはアクセスの内容を精査し、近年急激に増加しているウェブページの自動巡回プログラム等によるアクセスを除外したことによるものであり、これによってホームページのより正確な閲覧状況を把握することができるよう改善された。

（イ）東京国立近代美術館

情報発信機能の強化のため「東京国立近代美術館リポジトリ」を構築し、令和元年度の一般公開に向けて出版物等のデータ整理を進めた。

（ウ）京都国立近代美術館

平成 30 年 11 月 3 日に図書資料のデータ（OPAC）を公開し、さらに事前予約制による資料閲覧を開始したことに伴い、オンラインによる予約受付フォームを同時に公開した。これにより、閲覧希望者と館内の担当者双方にとって利便性の高い予約閲覧を実現した。

(エ) 国立映画アーカイブ

平成 25 年度に開始したホームページ上での所蔵資料公開事業「NFAJ デジタル展示室」については、平成 30 年度中に「無声期日本映画のステル写真」シリーズの 2 回（第 7、8 回）の特集展示を行った。

映画関連資料については、平成 30 年度は文化庁補助金事業として所蔵する大型の映画ポスターや、ステル写真・アルバム等のデジタル化作業を実施した。

(オ) 国立西洋美術館

インターネット上で公開している「国立西洋美術館出版物リポジトリ」において『国立西洋美術館研究紀要』22 号（平成 30 年 3 月）に掲載されている論文の PDF 版を公開し、学術情報のオープンアクセス化に努めた。また、所蔵作品に関する情報資産の安全な運用のため、所蔵作品データのバックアップ・コピーの作成及び遠隔地での保管を実施した。

(オ) 国立国際美術館

開館 40 周年記念展「トラベラー:まだ見ぬ地を踏むために」において、Youtube を利用した各出品作家インタビュー動画の公開を実施（計 10 名、うち平成 29 年度中公開 3 名、平成 30 年度中公開 7 名）し、視聴者が展覧会への理解をより深める機会を提供した。

平成 30 年 11 月 3 日に図書資料のデータ（OPAC）を公開し、さらに事前予約制による資料閲覧を開始したことに伴い、オンラインによる予約受付フォームを同時に公開した。これにより、閲覧希望者と館内の担当者双方にとって利便性の高い予約閲覧を実現した。

(カ) 国立新美術館

日本国内の美術館、画廊、美術団体から継続的に展覧会情報を収集し、検索できる「アート commons」では、平成 30 年度は約 3,000 件の展覧会情報を約 1,000 か所から収集し、累計で約 46,000 件の展覧会情報を収集・提供した。

また、スマートフォンやタブレット端末にも対応したホームページの運用を引き続き行い、国立新美術館の活動をわかりやすく伝える工夫に努めている。運用に当たっては、インターネットからのサイバー攻撃を避けるため、攻撃の糸口となる脆弱性を極力なくすようなシステム構成とした。

また、展覧会の開催にあわせて、展覧会会場において QR コードを利用した多言語ガイド（日本語・英語・中国語・韓国語）の提供を行い、来場者が自身のスマートフォン等の機器で QR コードを読み込み、展覧会の各種パネルの記述を各国語で閲覧できるようにした。

② 美術情報の収集、記録の作成・蓄積、デジタル化、レファレンス機能の充実

ア 図書資料等の収集

| 館名 | | 収集件数 | 累計件数 | 図書室等利用者数 | |
|-----------|-----|--------|---------|----------|--------|
| | | | | 実績 | 目標 |
| 東京国立近代美術館 | 本館 | 3,280 | 143,992 | 2,225 | 2,263 |
| | 工芸館 | 1,710 | 29,645 | 265 | 306 |
| 京都国立近代美術館 | | 1,401 | 31,167 | 0 | — |
| 国立映画アーカイブ | | 1,001 | 48,920 | 3,475 | 3,681 |
| 国立西洋美術館 | | 1,052 | 52,746 | 323 | 383 |
| 国立国際美術館 | | 1,462 | 52,149 | 2 | — |
| 国立新美術館 | | 4,042 | 154,877 | 29,990 | 24,392 |
| 計 | | 13,948 | 513,496 | 36,280 | 31,025 |

【注1】東京国立近代美術館は本館4階、京都国立近代美術館は4階、国立西洋美術館は1階、国立国際美術館は地下1階に図録等を閲覧できる情報コーナーを設けているが、入館者が自由に閲覧できるようにしているため、当該コーナーについては利用者数を把握していない。

【注2】平成30年11月3日より京都国立近代美術館及び国立国際美術館では事前予約制による資料閲覧を開始したため、予約閲覧利用者数を「図書室等利用者数」の欄に記載している。なお本事業には、業務運営に関する目標は設定されていない。

イ 特記事項

(ア) 東京国立近代美術館

(本館)

本館アートライブラリの利用案内を一新し、国立美術館、国立博物館、東京都歴史文化財団の美術館、博物館や図書館関連イベント等での配布を通して、利用促進に取り組んだ。また、平成30年度開催の企画展「アジアにめざめたら」の関連企画として国際交流基金アジアセンターとの共催による資料展示「“めざめ”のその後——1990年以降のアジアの美術を巡って」（平成30年11月16日～12月22日）を本館アートライブラリで行い、1990年以降、同時代のアジア美術を紹介してきた国際交流基金の刊行物を中心に様々な資料を展示した。そのほか、国会図書館が提供しているデジタル化資料送信サービス（図書館送信）を導入し、平成31年1月より本館アートライブラリでの提供を開始した。

(イ) 京都国立近代美術館

平成29年度に引き続き、京都国立近代美術館所蔵展覧会カタログの書誌情報公開に向け、館内で図書データベースへの登録作業を行い、11月3日付で約13,000件の書誌をOPACにて外部公開し、閲覧窓口を設置した。

また、所蔵作品データベースにおける貸与情報についても独自件名を用いて展覧会カタログ書誌に紐づける作業を行い、資料へのアクセスを向上させた。

教育普及事業として進めている視覚障害者との鑑賞プログラム開発のために、点字資料及びユニバーサルミュージアム関連資料4点の収集を行い研究利用した。特に点字資料については、「さわるコレクション」（触察シートと点字シートからなる、京都国立近代美術館所蔵作品の紹介シート）の作成における参考資料として活用した。

(ウ) 国立映画アーカイブ

図書所蔵情報の公開については、これまで進めている新着本の登録のほか、平成29年度に開始した図書室内の映画雑誌のオンライン目録への登録に着手し、主要な映画雑誌の所蔵情報を公開した。

(エ) 国立西洋美術館

国立西洋美術館における松方コレクション研究の長年の蓄積をまとめた、『松方コレクション：西洋美術全作品』第2巻を編纂した。

(オ) 国立国際美術館

企画展「クリスチャン・ボルタンスキー - Lifetime」開催に伴い、作家の関連資料を重点的に収集し、会場内の資料閲覧スペースにて、これら収集資料を展示した。

また、11月3日より約50,000件の図書資料のデータ（OPAC）の公開と、事前予約制による資料閲覧を開始した。

(カ) 国立新美術館

近現代美術に関する図書・逐次刊行物・展覧会カタログの収集を行った。特に日本の展覧会カタログについては網羅的、遡及的収集に努め、国内約400、国外約100の美術館・博物館・図書

館と展覧会カタログの相互寄贈関係を維持した。さらに、平成 30 年度までに寄贈された大口寄贈資料についても整理作業を進めた。中でもスクラップブック、写真といった非図書資料を多く含む田中千代関係資料、秋山画廊関係資料、ときわ画廊関係資料、瀬木慎一関係資料等については一括でアーカイブズ資料として扱い、物理的整理、保存処置、編成記述を進めた。国際交流事業としては、海外拠点 4 か所に日本で開催された展覧会のカタログを送付する JAC プロジェクトを実施した。加えて平成 30 年度は、アメリカのゲッティ研究所にも約 2,600 冊の日本の展覧会カタログを寄贈した。

③ インフォメーションデータセンター (IDC) の確立

平成 20 年度に、国立美術館 5 館 (当時) 全体において VPN (Virtual Private Network : 暗号化された通信網) を導入して以降、情報ネットワークの安定化・高速化を実現している。また、平成 28 年度から外部データセンターが提供するサーバ機能の利用、多重化光回線による VPN の二重化などネットワーク構成を刷新し、ネットワークの、より安定した稼働が可能となった。あわせて、電子メールやウェブ閲覧の際の情報セキュリティの確保についても外部データセンターが提供するセキュリティ機能を積極的に利用し、より安全な運用の実現に努めた。

(4) 教育普及活動の充実

① 幅広い学習機会の提供 (講演会, ギャラリートーク, アーティスト・トーク等)

| 館名 | | 実施回数 | 参加者数 | |
|-----------|-----|-------|---------|--------|
| | | | 実績 | 目標 |
| 東京国立近代美術館 | 本館 | 479 | 10,826 | 9,520 |
| | 工芸館 | 207 | 4,493 | 2,671 |
| 京都国立近代美術館 | | 73 | 4,282 | 3,431 |
| 国立映画アーカイブ | | 251 | 21,168 | 13,801 |
| 国立西洋美術館 | | 455 | 13,599 | 17,073 |
| 国立国際美術館 | | 92 | 4,466 | 3,296 |
| 国立新美術館 | | 123 | 42,211 | 15,823 |
| 計 | | 1,680 | 101,045 | 65,615 |

各館の特徴

(ア) 東京国立近代美術館

(本館)

文化庁の補助金 (平成 30 年度文化芸術振興費補助金「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」) により、英語による異文化交流プログラム「Let's Talk Art!」の構築と、プログラムを担う英語ファシリテータの養成を行った。本プログラムは、一般的な作品解説とは異なり、ファシリテータと参加者 (訪日外国人) が会話をしながら作品理解を深める体験型プログラムであり、留学生対象のトライアルを重ねて、3 月 22 日より定期的な実施を開始した。

また、東京都高校美術工芸教育研究会と連携して研修を行い、高校生へのギャラリートークや教員研修を行ったことで、これまで手薄であった高校生向けの鑑賞教育の充実を図った。

そのほか、企画展「ゴードン・マッタ＝クラーク展」において、小学生の図画工作教育に詳しい大学教授の監修を得て、小学生向けプログラムを展開した。これにより、やや難解な企画展のコンセプトを活かし、小学生の表現と鑑賞の力を伸ばすプログラムを実施することができた。

さらに、平成 30 年 3 月 23 日から 4 月 8 日まで、全館イベント「美術館の春まつり」を行った。周辺地域に集まる花見客を取り込むべく、MOMAT コレクションにおいて春にちなんだ作

品を展示した他、前庭を活用し、床几台の設置、飲食の提供等を実施した。また「千代田のさくらまつり」（主催：千代田区観光協会）と連携し、巡回バスの停留所を設置した。

(工芸館)

新たな事業として、中学生の職場体験受入れを実施した。中学生が美術館の業務の理解を深めることができ、美術館の教育普及担当者にとっても中学生の発達段階をより深く知る機会となった。

また、ポーラ伝統文化振興財団製作の映画と工芸館の鑑賞スタイルを連携させたプログラムは反響が大きく、映画を見た直後に鑑賞プログラムを実施することで、工芸の複雑な制作工程や作家の造形思考への理解を深める機会を提供した。

(イ) 京都国立近代美術館

来館者に向けたイベントの実施と、美術館に馴染みのない層に対する普及活動のバランスを意識しながら、展覧会関連プログラムとして講演会、ギャラリートーク、ワークショップ等を実施した。企画展「生誕 110 年 東山魁夷展」の会期中に若手の日本画家を講師に招いて、ワークショップを実施し、参加者が自分で作った岩絵具で絵を描く活動を通して、日本画をより身近なものとして感じられる機会を提供した。

また、視覚障害のある方と協働しながら、新しい美術館体験や作品鑑賞のありかたを探る「感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業」（平成 30 年度文化芸術振興費補助金「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」）の一環で、京都国立近代美術館の所蔵作品を手で触れ、対話をしながら鑑賞を深めるプログラムを継続的に開催したことで、多様な感覚を用いる鑑賞活動の可能性について、障害の有無を超えて考える機会を提供した。

さらに、京都市図画工作教育研究会と連携し、市内の小学 4～6 年生を対象とした「第 20 回子ども美術館鑑賞教室」を実施した。美術館の建築や展示空間にも注目できるようなプログラムを実施し、子供たちに美術館の楽しさや作品鑑賞の様々な方法を楽しんでもらうことができた。

(ウ) 国立映画アーカイブ

OZU ホール・小ホール合わせて計 82 回のトーク・イベント（講演会、舞台挨拶を含む）を行った。教育普及を目的とする上映イベントでは、「ユネスコ『世界視聴覚遺産の日』記念特別イベント」や、ヴィシエグランド 4 カ国（V4；ポーランド、ハンガリー、スロバキア、チェコ）のアニメーション作品を日本に紹介する中学生以下を対象としたイベントである「V4 中央ヨーロッパ子ども映画祭」を開催した。また、前年度から開始したこども映画館の巡回上映プログラム「F シネマ・プロジェクト こども映画館 スクリーンで見る日本アニメーション！

（一般社団法人コミュニティシネマセンターと共催）を 2 館から 10 館へ拡大し、より多くの子供たちに映画鑑賞の魅力を体験する機会を提供した。その他、デジタル復元の披露上映として「“日本映画の父” 牧野省三 × “日本最初の映画スター” 尾上松之助 最古の『忠臣蔵』 [デジタル復元・最長版] 特別上映会」を実施したほか、若手クリエイターを支援する新企画として「Rising Filmmakers Project 次世代を拓く日本映画の才能を探して」を開催した。特に『2001 年宇宙の旅』70mm を上映した「ユネスコ『世界視聴覚遺産の日』記念特別イベント」や「“日本映画の父” 牧野省三 × “日本最初の映画スター” 尾上松之助 最古の『忠臣蔵』 [デジタル復元・最長版] 特別上映会」, 「Rising Filmmakers Project 次世代を拓く日本映画の才能を探して」は、新しい観客層を開拓し、多くの参加者を獲得した。

相模原分館では、相模原市及び国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）と締結した文化事業等協力協定により、相模原市内の小・中学生並びに相模原市及び JAXA との共催事業の参加者を対象に、無料で映画上映を実施した。また、映画フィルムの受入・検査・収納までの工程を見学する機会を設けるなど、映画フィルムの保存についての普及にも努めた。

このほか、関西における国立映画アーカイブ所蔵フィルムの定期的な上映拠点を形成するため、京都国立近代美術館及び国立国際美術館において共催事業として、京都国立近代美術館においては、映画上映「NFAJ 所蔵作品選集 MoMAK Films 2018」4回、国立国際美術館においては「第17回中之島映像劇場」を開催し、いずれも好評を得た。

(ウ) 国立西洋美術館

児童生徒を対象とする「スクール・ギャラリートーク」や「どようびじゅつ」、一般の来館者が自由に参加できる「美術館でクリスマス」「ボランティアアート」は、例年同様多くの参加があった。

また、台東区教育委員会が主催する「学びのキャンパスプランニング」（平成25年度より連携）と連携し初の学校団体向け建築ツアーを開催した。

(エ) 国立国際美術館

企画展に関連した作家自身による講演やアーティスト・トーク、ワークショップ等を積極的に実施したほか、担当研究員によるギャラリー・トークを複数回実施し、作品や展覧会に対する来館者の理解や関心をより深める機会を提供した。ギャラリー・トークについては特に夜間開館の周知も兼ねて夜間開館時間帯での実施も積極的に行った。

低年齢層に向けた活動として、0歳児とその保護者向けのツアーを新たに開催したところ非常に大きな反響があり、新たな入館者層の開拓につながった。

教育関係者向けには、教職員研修として「鑑賞学習を通じた学びを考える会」を開催したほか、大阪府・大阪市との連携により美術教育関係者向けの夏季研修を実施することで、より多くの教職員等に対して美術作品の鑑賞機会や鑑賞教育について考える機会を設け、鑑賞教育への理解を広めるとともに、新たな学校からの児童の来館にもつなげることができた。

このほか、鑑賞補助ツールとして、学校団体向けに『アクティビティ・ブック』を継続して配布したほか、コレクション展観賞用として『ジュニア・セルフガイド』を制作・配布し、観覧者が主体的に鑑賞体験を持てるよう環境を整備した。

(オ) 国立新美術館

平成29年度に定員を大きく超える応募があった「夏休みこどもたんけんツアー」においては回数を増やして3回実施し、平成29年度よりも多くの児童を受け入れることができた。また、例年反響の大きい「建築ツアー」は、春と冬の2度開催したほか、夜の美術館を紹介するナイトコースを設けるなど内容を工夫したところ、こちらも平成29年度よりも多くの参加者を受け入れることができた。

また、企画展「こいのぼりなう！須藤玲子×アドリアン・ガルデール×齋藤精一によるインスタレーション」では鑑賞と学びを一連の流れとして経験してもらうこと目的とし、インスタレーション空間の奥にワークショップのスペースを設けた。通常のワークショップは会期中の限られた日程のなかで行うことが一般的だが、会場内に常設としたことで、普段ワークショップになじみのない観客も含めて多くの入場者を迎えることができた。

② ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業

ア ボランティアによる教育普及事業

| 館名 | | ボランティア登録者数 | ボランティア参加者数(延べ人数) | 教育普及事業参加者数 |
|-----------|-----|------------|------------------|------------|
| 東京国立近代美術館 | 本館 | 41 | 627 | 7,374 |
| | 工芸館 | 29 | 338 | 2,261 |
| 京都国立近代美術館 | | 39 | — | — |
| 国立西洋美術館 | | 65 | 1187 | 8,396 |
| 国立国際美術館 | | 15 | 9 | 351 |

| | | | |
|--------|-----|-------|--------|
| 国立新美術館 | 63 | 67 | 891 |
| 計 | 252 | 2,228 | 19,273 |

各館の特徴

(ア) 東京国立近代美術館

本館では、ボランティアガイドスタッフによる所蔵品ガイド、スクールプログラム、団体対応、親子や小学生向けのワークショップを実施した。また、夏季夜間開館時の「フライデー・ナイト・トーク」を行ったことで、仕事帰りのビジネスパーソンなどの来館を促進した。

工芸館では、ボランティアガイドスタッフに対し年10回以上のフォローアップ研修を実施し、知識の向上を図った。

(イ) 京都国立近代美術館

京都市内博物館施設連絡協議会及び京都市教育委員会が主催する「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」の受講・修了者が所属する京都市博物館ふれあいボランティア「虹の会」から継続してボランティアを受け入れており、来館者へのアンケート調査回収、集計に携わってもらうことでボランティアの経験の蓄積、知識の向上等に協力した。

(ウ) 国立西洋美術館

ボランティアにより「スクール・ギャラリートーク」「どようびじゅつ」「美術トーク」「金曜ナイトトーク」「建築ツアー」「ボランティアアート」等のプログラムが実施された。

(エ) 国立国際美術館

ボランティアを大学生・短期大学生から広く募り、主に教育普及プログラムのサポート（スクールプログラムの準備、個人向けプログラムの運営補助、資料発送等）など美術館運営の補助業務に従事することを通じて、美術館活動に関するボランティアの経験の蓄積、知識の向上等に協力した。

(オ) 国立新美術館

ボランティアであるサポート・スタッフは、平成30年度63名の学生が登録し、講演会、ワークショップ、コンサート等の運営補助に携わった。特に「国立新美術館建築ツアー」では、平成29年度同様、有志のサポート・スタッフが研修を受け、ツアーでのガイド役を務めた。大人数を受け入れるワークショップ等では、サポート・スタッフが制作の手助けをするなど積極的に参加者と交流し、美術館の普及活動の一翼を担った。

イ 支援団体等の育成と相互協力による事業

(ア) 東京国立近代美術館

(本館)

- ・三菱商事株式会社との連携により、障害者のための鑑賞プログラムとして、休館日に所蔵作品展「MOMAT コレクション」・企画展「イメージコレクター・杉浦非水展」の障害者特別鑑賞会を実施した（1件1回、参加人数55人）。

(工芸館)

- ・ボルボ・カー・ジャパン株式会社との連携により、企画展「インゲヤード・ローマン」展において、トークイベントを実施した（1件1回、参加人数91人）。
- ・イケア・ジャパン株式会社との連携により、企画展「インゲヤード・ローマン」展において、トークイベントを実施した（1件1回、参加人数60人）。

(イ) 京都国立近代美術館

- ・京都市立芸術大学との共催によるコンサート「京都国立近代美術館ホワイエコンサート」を実施した（1件2回，参加人数293名）。
- ・OKAZAKI LOOPS 実行委員会と連携し，京都岡崎音楽祭2018「OKAZAKI LOOPS」を開催した。京都国立近代美術館ではコンポーザー・ピアニストの中村天平による，新曲や，クラシック・既存曲のカヴァーの生演奏ステージを実施した。（1件1回，参加人数50人）
- ・京都市及びアンスティチュ・フランセが実施する「ニューイ・ブランシュ KYOTO 2018」の共催として，ビデオインスタレーションとパフォーマンスのイベントを実施した（1件1回，参加人数500名）。
- ・京都市内4館連携協力協議会「京都ミュージアムズ・フォー」の連携事業として，講演会「明治工芸に魅せられて」を実施した（1件1回，参加人数100人）。

(ウ) 国立西洋美術館

- ・文化庁主催「上野の森バレエホリデイ2018」に協力し，東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団の演奏によるコンサート及びNAKEDの協力によるアート・プロジェクションマッピングを実施した。（2件9回，参加人数12,000人）
- ・東京都交響楽団メンバー（弦楽四重奏）によるナイト・ミニコンサートを実施した（2件4回，参加人数550人）。
- ・「西洋版画を視る—エングレーヴィング：ビュランから生まれる精緻な世界」の開催にあわせ，プレミアムフライデー・トーク「版画ってどうみればいい？—版画はこんなにおもしろい！」を実施した（1件1回，参加人数95人）。
- ・「ミケランジェロと理想の身体」の開催にあわせ，展覧会イメージソングを制作した園田涼さん率いるソノダオーケストラのミニコンサートを実施した（1件2回，参加人数245人）。
- ・東京文化会館との共催により，「まちなかコンサート 芸術の秋，音楽さんぽ」を実施した（1件2回，参加人数207人）。
- ・台東区教育委員会主催「学びのキャンパスプランニング」を実施した。
- ・国立科学博物館主催「教員のための博物館の日2018」に協力して，参加者向けに所蔵作品展の観覧を無料とした（1件1回，参加人数53人）。
- ・映画配給会社との協力により上映会を行った。（2件4回，参加人数合計503人）。
- ・東京都美術館等が主催する「Museum Start あいうえの」に協力して，保護者を対象とした建築ツアーを行った（1件1回，参加人数31人）。
- ・三菱商事株式会社との連携により，障害者のための鑑賞プログラムとして，閉館後に企画展「ルーベンス展 — バロックの誕生」の障害者特別鑑賞会を実施した（1件1回，参加人数181人）。
- ・現代アートを扱うギャラリーの協力により，プレミアムフライデーイベント「クラーナハの誘惑，ふたたび——森村泰昌とユディットを語らう夕べ」を開催した（1件1回，参加人数135人）。

(エ) 国立国際美術館

- ・ダイキン工業現代美術振興財団との共催により，「ミュージアム・コンサート」を実施した（1件1回，参加人数206人）。
- ・ARTLOGUE，大阪市立中央図書館主催の参加型プロジェクト「Wikipedia ARTS」と共催し，企画展「ニュー・ウェイブ 現代美術の80年代」のギャラリー・トークを実施した（1件1回，参加人数17人）。
- ・「中之島まちみらい協議会」との地域連携の一環として，平成30年度文化庁戦略的芸術創造推進事業 都市の地質調査・再耕事業「クリエイティブ・アイランド・ラボ 中之島」に

協力し、企画展「ニュー・ウェイブ 現代美術の 80 年代」のナイトミュージアムツアーとトークを実施（1 件 1 回，参加人数 38 人）。

(オ) 国立新美術館

- ・三菱商事株式会社との連携により、障害者のための鑑賞プログラムとして、休館日に企画展「ルーヴル美術館展 肖像芸術一人は人をどう表現してきたか」の障害者特別鑑賞会を実施した（1 件 1 回，参加人数 288 人）。
- ・企業協賛金を活用して、以下の教育普及事業を実施した。
 - JAC（Japan Art Catalog）プロジェクトにより、海外の日本美術研究拠点（5 箇所）に国内で開催された展覧会図録を寄贈した（鹿島建物総合管理，三井不動産，東レ，三菱電機，住友化学）。
 - ワークショップ，講演会及びシンポジウムを開催，鑑賞ガイドを作成した（株式会社日本設計，キヤノン株式会社）。
 - 館主催のコンサート等を実施した（3 回，922 名）（ダイナトレック）。
 - 佐藤允彦 ピアノソロコンサート
 - 国立新美術館 音楽の楽しみ「弦楽四重奏の魅力」
 - 国立新美術館 音楽の楽しみ ピアソラ《ブエノスアイレスの四季》ほか
 - 託児サービスを提供した（36 回）（三菱商事）。
- ・株式会社日本設計の協力により，国立新美術館建築ツアー（1 件 8 回），夏休みこどもたんけんツアー（1 件 3 回）を実施した。

(カ) その他（各館共通）

東京の美術館・博物館等 92 施設が参加する共通入館券事業「東京・ミュージアムぐるっとパス 2018」及び関西の美術館・博物館等 95 施設が参加する「ミュージアムぐるっとパス・関西 2018」に参加し，所蔵作品展覧料の無料化又は割引や，企画展覧料の割引などを実施し，全体の利用者は延べ 14,015 人であった。

(5) 調査研究の実施と成果の反映・発信

① 調査研究一覧

各館において，下記のとおり調査研究を実施した。個々の調査研究については別表 6 を参照。

| 館 名 | | 調査研究件数 |
|-----------|-----|--------|
| 東京国立近代美術館 | 本館 | 36 |
| | 工芸館 | 14 |
| 京都国立近代美術館 | | 11 |
| 国立映画アーカイブ | | 27 |
| 国立西洋美術館 | | 21 |
| 国立国際美術館 | | 13 |
| 国立新美術館 | | 21 |
| 計 | | 143 |

特記事項

ア 東京国立近代美術館

- ・平成 29 年度に開催した「没後 40 年 熊谷守一 生きるよろこび」展のカタログ（デザイナー：菊地敦己）が，「第 60 回全国カタログ展」において，すぐれたデザイン，作品図版の再現性等充実した内容が評価され，図録部門日本商工会議所会頭賞を受賞した。
- ・唐澤昌宏（工芸課長）が，平成 26 年度に担当し 4 会場で開催した展覧会「青磁のいま—受け継がれた技と美 南宋から現代まで」における調査研究，展覧会の企画及び図録作成等について

て、「日本陶磁史研究を背景に、近現代の陶芸様相を『造形性の構築』に焦点を絞り、その多様性を論じた研究業績」と評価され、平成 30 年度第 39 回小山富士夫記念賞（褒賞の部）を受賞した。

イ 国立映画アーカイブ

- ・三浦和己（研究員）が『映画テレビ技術』第 782 号に執筆した記事「日本映画のデジタル化の変遷」により、一般社団法人映画テレビ技術協会 第 47 回（2017 年度）優秀執筆賞を受賞した。

ウ 国立西洋美術館

- ・平成 29 年度に開催した「北斎とジャポニスム HOKUSAI が西洋に与えた衝撃」が第 6 回ジャポニスム学会展覧会賞を受賞した。

② 調査研究成果の発信

ア 館の刊行物による調査研究成果の発信

各館において、下記のとおり展覧会図録，研究紀要，館ニュース等を刊行し，研究成果を発信した。それぞれの項目における研究員の執筆事項については別表 7～9 を参照。

| 館名 | | 展覧会図録 | | 研究紀要 | 館ニュース | パンフレット・ガイド等 | その他 |
|-----------|-----|-------|--------|------|-------|-------------|-----|
| | | 実績 | 目標 | | | | |
| 東京国立近代美術館 | 本館 | 4 冊 | 5 冊程度 | 1 | 4 | 2 | 2 |
| | 工芸館 | 3 冊 | 4 冊程度 | | | 2 | 0 |
| 京都国立近代美術館 | | 7 冊 | 6 冊程度 | 0 | 5 | 2 | 1 |
| 国立映画アーカイブ | | 0 冊 | 1 冊程度 | 0 | 4 | 10 | 1 |
| 国立西洋美術館 | | 4 冊 | 4 冊程度 | 1 | 4 | 4 | 2 |
| 国立国際美術館 | | 6 冊 | 4 冊程度 | 0 | 6 | 0 | 3 |
| 国立新美術館 | | 6 冊 | 6 冊程度 | 1 | — | 2 | 1 |
| 計 | | 30 冊 | 30 冊程度 | 3 | 23 | 22 | 10 |

【注】「パンフレット・ガイド等」には、小企画展の内容や所蔵作品の解説を掲載したパンフレット，子供向けの鑑賞ガイド等が含まれる。

イ 館外の学術雑誌，学会等における調査研究成果の発信

各館において、下記のとおり学会，学術雑誌等において研究成果を発信した。それぞれの項目における研究員の執筆事項については別表 10 を参照。

| 館名 | | 学会等発表件数 | 論文等発表件数 | | | |
|-----------|-----|---------|----------------|---------------|---------------|-----|
| | | | 学術書籍，研究報告書等の発行 | 学術誌論文掲載【査読有り】 | 学術誌論文掲載【査読無し】 | その他 |
| 東京国立近代美術館 | 本館 | 34 | 6 | 1 | 28 | 24 |
| | 工芸館 | 27 | 5 | 0 | 11 | 8 |
| 京都国立近代美術館 | | 12 | 1 | 1 | 11 | 19 |
| 国立映画アーカイブ | | 18 | 0 | 2 | 3 | 8 |
| 国立西洋美術館 | | 22 | 7 | 3 | 7 | 19 |
| 国立国際美術館 | | 10 | 2 | 0 | 5 | 8 |
| 国立新美術館 | | 11 | 1 | 3 | 5 | 16 |
| 計 | | 134 | 22 | 10 | 70 | 102 |

ウ インターネットによる調査研究成果の発信

(ア) 東京国立近代美術館

- ・『研究紀要』の収録論文及び美術館ニュース『現代の眼』をホームページ上で公開した。

(イ) 国立映画アーカイブ

- ・「NFAJ デジタル展示室」において、「無声期日本映画のステル写真」シリーズの第7, 8回となる、第17回公開「帝国キネマ篇②」、第18回公開「新興キネマ篇①」を行った。

(ウ) 国立西洋美術館

- ・『研究紀要』の収録論文をインターネット上の機関リポジトリ（『国立西洋美術館出版物リポジトリ』）を通じて公開した。

(エ) 国立国際美術館

- ・『国立国際美術館ニュース』の収録論文をホームページ上で公開した。

(オ) 国立新美術館

- ・『平成29年度活動報告』をホームページ上で公開した。

エ 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催

| 館名 | | 開催回数 |
|-----------|-----|------|
| 東京国立近代美術館 | 本館 | 0 |
| | 工芸館 | 5 |
| 京都国立近代美術館 | | 0 |
| 国立映画アーカイブ | | 2 |
| 国立西洋美術館 | | 0 |
| 国立国際美術館 | | 0 |
| 計 | | 7 |

※詳細については別表11を参照。

(6) 快適な観覧環境の提供

| 館名 | | 観覧環境に対する満足度調査における「良い」以上の回答率 |
|-----------|-----|-----------------------------|
| 東京国立近代美術館 | 本館 | 78.7% |
| | 工芸館 | 77.5% |
| 京都国立近代美術館 | | 69.1% |
| 国立映画アーカイブ | | 96.8% |
| 国立西洋美術館 | | 81.0% |
| 国立国際美術館 | | 76.0% |
| 国立新美術館 | | 78.0% |

① 高齢者、障害者、外国人等を含めた入館者本位の快適な観覧環境の形成

※多言語化に向けた取組件数：61件（施設ごとにカウント。以下、多言語化に向けた取組には下線を付する。）

〈平成 30 年度の新規実施事項〉

- ・ QR コード決済サービス（訪日外国人向け）による観覧券の窓口販売を開始【東京国立近代美術館（本館・工芸館），国立国際美術館】
- ・ 所蔵作品展において，スマートフォンアプリによる 4 ヶ国語（日本語・英語・中国語・韓国語）の章解説・作品解説を提供【東京国立近代美術館（本館）】
- ・ 企画展において，スマートフォンアプリによる 3 ヶ国語（英語・中国語・韓国語）の章解説・作品解説を提供【国立西洋美術館】
- ・ 訪日外国人に向けた，国内初の英語による鑑賞・異文化交流プログラム「Let's Talk Art！」の実施【東京国立近代美術館（本館）】
- ・ 長瀬記念ホール OZU での企画上映について，前売券の販売【国立映画アーカイブ】

〈各館共通の継続実施事項〉

- ・ 多言語による館案内表示
- ・ 多言語による館内リーフレット，ミュージアムカレンダー等の配布
- ・ 英語による館内放送の実施（一部の放送を除く）
- ・ 所蔵作品展・企画展における展示解説（章解説パネル・キャプション・作品リスト等）の多言語化（日本語・英語・中国語・韓国語に対応）
- ・ 所蔵作品展・企画展における音声ガイドの多言語化（原則として日本語のほか英語・中国語・韓国語に対応）
- ・ 多目的（身体障害者用）トイレ，エレベータ（エスカレータ），スロープ（手摺り）の設置
- ・ 車椅子の貸出，ベビーカー（国立西洋美術館は除く）の貸出
- ・ 身体障害者用駐車スペース（国立国際美術館は除く）の提供
- ・ 自動体外式除細動器（AED）の設置
- ・ 盲導犬，介助犬の同伴による観覧
- ・ 観覧者の休憩のための椅子を展示室に配置
- ・ オストメイト（人工肛門，人工膀胱保有者）対応の設備を設置
- ・ 無料Wi-Fiの提供

〈各館ごとの継続実施事項〉

- ・ 国立美術館 6 館紹介パンフレットの多言語化（日本語・英語・中国語・韓国語）【法人本部】
- ・ 電話による展覧会情報案内（ハローダイヤル）の多言語化（日本語・英語・中国語・韓国語・ポルトガル語・スペイン語）【東京国立近代美術館，国立映画アーカイブ，国立西洋美術館，国立新美術館】
- ・ クレジットカード及び電子マネー（Suica 及び PASMO 等）による観覧券の窓口販売【東京国立近代美術館，国立西洋美術館，国立新美術館】
- ・ クレジットカードによる観覧券の窓口販売【京都国立近代美術館，国立国際美術館】
- ・ 多言語対応の案内用デジタルサイネージの設置【東京国立近代美術館（本館），京都国立近代美術館，国立西洋美術館，国立新美術館】
- ・ 東京都が実施する「ウェルカムカード」に参加し，外国人来館者の所蔵作品展観覧料を割引【東京国立近代美術館，国立映画アーカイブ，国立西洋美術館】
- ・ 地下鉄の対象の乗車券の提示により割引等を実施するサービス「ちかとく」の英語版に参加【東京国立近代美術館，国立西洋美術館】
- ・ インフォメーションカウンターに筆談ボードを設置【京都国立近代美術館，国立西洋美術館，国立新美術館】
- ・ 授乳室の設置【京都国立近代美術館，国立国際美術館，国立新美術館】
- ・ 常設の電子アンケート（日本語・英語）を設置【東京国立近代美術館】
- ・ 館内サインの拡大，所蔵作品展における「重要文化財」のキャプション表示の追加，ホームページ上の重要文化財作品の特設解説ページ設置，所蔵作品展・企画展における小中学生向けこども

セルフガイドの配布、所蔵作品展における iPad による中国語・韓国語の作品解説（音声・文字）サービスの提供、自主企画展における、無料音声ガイドアプリの提供【東京国立近代美術館（本館）】

- ・作品名・作家名にふりがなを入れた会場キャプションの設置及び作品リストの配布、夏季所蔵作品展における児童生徒を対象とした「セルフガイド」（日本語・英語）及び一般観覧者向けの「鑑賞カード」の作成・配布【東京国立近代美術館（工芸館）】
- ・特集展示「NFAJ コレクションでみる 日本映画の歴史」における児童生徒向けの「ジュニア・セルフガイド」の配布、所蔵作品上映におけるバリアフリー上映を 1 作品において実施（視覚障害者向け音声ガイドの使用、聴覚障害者向け字幕投影及び磁気ループシステム使用）、企画上映における整理券制度の導入【国立映画アーカイブ】
- ・美術館ニュース『見る』の配布、免震装置付有機 EL 照明による展示ケースの設置【京都国立近代美術館】
- ・企画展における児童生徒向けの「ジュニア・パスポート」を配布、館広報物（館ニュース『Zephyros』の最新号及びバックナンバー）の配布及びホームページ掲載、「建築探検マップ」を全面改定版した「世界遺産パンフレット」（日本語・英語・中国語・韓国語）の作成・配布、「Google Arts&Culture」アプリによる主要所蔵作品解説（日本語・英語・中国語・韓国語）の無料配信の実施、建築音声ガイドの多言語化（日本語・英語・中国語・韓国語）【国立西洋美術館】
- ・安全仕様のキッズルーム（地下 1 階）の設置、同所における幼児向け絵本常設【国立国際美術館】
- ・点字ブロック（正門から正面入口、地下鉄口から西入口（インターホンを設置））及び点字表示（エレベータ内ほか）の設置、補聴器等への磁気誘導無線システムの講堂内への設置（専用受信機 10 台）、ロビー等の館内ディスプレイでの展覧会や講演会等の情報表示、託児サービスの実施、文字を大きくし見易くしたフロアガイド「大きな文字の利用案内」の館内配布、企画展における児童生徒向け鑑賞ガイドの配付及び子供向け施設ガイド『てくてくマップ』の配布及びホームページ掲載、地域の学校を対象として休館日の展示室を無料で開放する「かようびじゅつかん」を実施、中央インフォメーションにおける外国人来館者向けの翻訳サービス「SMILE CALL」を導入、講演会・シンポジウム等における手話通訳の実施【国立新美術館】

② 入場料金、開館時間等の弾力化

〈平成 30 年度の新規実施事項〉

- ・2 月 24 日に、天皇陛下御在位 30 年を記念して全館無料開館を実施【東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立国際美術館、国立新美術館】
- ・2 月 24 日に、天皇陛下御在位 30 年を記念して所蔵作品展の観覧料を無料化【国立西洋美術館】
- ・千代田区ミュージズ&シアターマップ 2018 の提示による所蔵作品展の観覧料（個人一般）割引を実施【東京国立近代美術館】
- ・第 66 回全国博物館大会東京大会の期間中（平成 30 年 11 月 28 日～12 月 2 日）に、所蔵作品展及び自主企画展の観覧料を無料化【東京国立近代美術館】
- ・アートフェア東京 2019 特別協力美術館の期間中（平成 31 年 3 月 7 日～3 月 10 日）に、所蔵作品展の観覧料割引を実施【東京国立近代美術館】
- ・通訳案内士の所蔵作品展及び企画展の観覧料を無料化【東京国立近代美術館】
- ・企画展「ゴードン・マッタ＝クラーク展」の期間中（平成 30 年 6 月 19 日～9 月 17 日）に、金曜・土曜の夜間開館を 21 時まで延長【東京国立近代美術館（本館）】
- ・MIHO MUSEUM の友の会と相互割引を実施【京都国立近代美術館】
- ・企画展「生誕 150 年 横山大観展」及び企画展「生誕 110 年 東山魁夷展」において、共通チケットを販売し、観覧料割引を実施【京都国立近代美術館】
- ・企画展「ミケランジェロと理想の身体」の期間中（平成 30 年 6 月 19 日～9 月 24 日）に、金曜・土曜の夜間開館を 21 時まで延長【国立西洋美術館】

- ・全館無料開館を実施（6月2日）【国立国際美術館】
- ・大阪観光局が発行する「大阪周遊パス」による所蔵作品展の観覧料無料化及び企画展観覧料割引を実施【国立国際美術館】
- ・企画展「プーシキン美術館展——旅するフランス風景画」開催期間において夜間開館の延長（毎週金・土曜日 21 時まで）を実施【国立国際美術館】
- ・企画展「生誕 110 年 東山魁夷展」において、公募展「改組 新 第 5 回 日展」との前売セット券を販売し、観覧料割引を実施【国立新美術館】
- ・企画展「生誕 110 年 東山魁夷展」及び「オルセー美術館特別企画 ピエール・ボナール展」の前売ペアチケット（各展 1 枚・計 2 枚のチケット）を販売し、観覧料割引を実施【国立新美術館】

〈各館共通の継続実施事項〉

- ・国際博物館の日（5月18日）における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・文化の日（11月3日）における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・所蔵作品展、自主企画展及び国立映画アーカイブの展覧会における高校生以下及び 18 歳未満の観覧料を無料化
- ・所蔵作品展及び企画展における夜間開館（毎週金・土曜日 20 時まで）を実施

〈各館ごとの継続実施事項〉

ア 東京国立近代美術館

- ・毎月第一日曜日における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・東京都が実施する「家族ふれあいの日」に参加し、毎週土曜、日曜に優待券を提示した高校生以下の子供を連れた家族に所蔵作品展の観覧料割引を実施
- ・地下鉄の対象乗車券提示で割引等を実施するサービス「ちかとか」による所蔵作品展の観覧料割引を実施
- ・「東京マラソン 2018」イベントガイド持参者に対する所蔵作品展・自主企画展の観覧料（個人一般）割引を実施
- ・JAF 会員証提示による観覧料（個人一般）割引を実施
- ・企画展（「生誕 150 年 横山大観展」，「ゴードン・マッタ＝クラーク展」，「アジアにめざめたら：アートが変わる，世界が変わる 1960-1990 年代」，「福沢一郎展 このどうしようもない世界を笑い飛ばせ」）において、各種観覧料割引を実施。
- ・年始は 1 月 2 日から開館し、所蔵作品展の観覧料を無料化、図録やオリジナルグッズをプレゼント
- ・所蔵作品展における夜間開館時の観覧料を割引
- ・以下のとおり臨時開館及び開館時間延長を実施
 - 桜花期に臨時開館を実施（4月2日，平成 31 年 3 月 25 日）
 - ゴールデンウィークに臨時開館を実施（4月30日）
 - 一年始に臨時開館を実施（1月2日）
 - 平成 30 年秋季皇居乾通り一般公開に合わせ臨時開館を実施(12月3日)

イ 京都国立近代美術館

- ・企画展を開催しない土曜日における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・「関西文化の日」（11月17～18日）における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・京都国立博物館，京都市美術館，京都文化博物館とで組織する「京都ミュージアムズ・フォー」において、各館の友の会と相互割引を実施
- ・奈良国立博物館，国立民族学博物館の友の会と相互割引を実施
- ・近隣の京都市美術館，細見美術館と連携し，相互割引を実施
- ・JAF 会員証提示による企画展及び所蔵作品展の観覧料（個人一般）割引を実施

- ・朝日新聞グループ 朝日友の会, 京都新聞 トマト倶楽部, 阪急阪神カード及び京阪カードの情報誌・ホームページに展覧会情報を掲載するとともに観覧料割引を実施
- ・上記割引のほか, 企画展（「生誕 150 年 横山大観展」, 「生誕 110 年 東山魁夷展」 「没後 50 年 藤田嗣治展」）において, 各種観覧料割引を実施
- ・所蔵作品展及び自主企画展における夜間開館時の観覧料を割引
- ・7月6日から10月6日までの夜間開館（毎週金・土曜日）を21時まで延長

ウ 国立映画アーカイブ

- ・東京都が実施する「家族ふれあいの日」に参加し, 毎週土曜, 日曜に優待券を提示した高校生以下の子供を連れた家族に展覧会観覧料割引を実施
- ・上映会において原則平日 19 時からの夜間上映を実施
- ・「国立映画アーカイブ開館記念 第 40 回びあフィルムフェスティバル」において各種割引を実施

エ 国立西洋美術館

- ・第二・第四土曜日における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・東京都が実施する「家族ふれあいの日」に参加し, 毎月第三土曜, 日曜に優待券の提示による所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・地下鉄の対象乗車券提示で割引等を実施するサービス「ちかたく」による所蔵作品展の観覧料割引を実施
- ・「UENO WELCOME PASSPORT—上野地区文化施設共通入場券—」を発行し, 各種観覧料の割引と無償化を実施（平成 30 年 4 月 1 日～9 月 30 日。総販売部数 4,517 冊（うち国立西洋美術館販売部数 386 冊）, 平成 30 年 10 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日。国立西洋美術館販売部数 225 冊）。
- ・上記のほか, 企画展（「日本スペイン外交関係樹立 150 周年記念 プラド美術館展 ベラスケスと絵画の栄光」「ミケランジェロと理想の身体」, 「ルーベンス展—バロックの誕生」, 「国立西洋美術館開館 60 周年記念 ル・コルビュジエ 絵画から建築へ—ピュリスムの時代」）において, 各種観覧料の割引を実施
- ・以下のとおり臨時開館を実施
 - ゴールデンウィーク（5 月 1 日）
 - お盆期間（8 月 13 日）
 - 会期末の会場内の混雑緩和（9 月 18 日）
 - 年末の会場内の混雑緩和（12 月 25 日）
 - 桜花期（3 月 25 日）

オ 国立国際美術館

- ・所蔵作品展及び自主企画展における夜間開館時の観覧料割引を実施
- ・企画展「開館 40 周年記念展「トラベラー：まだ見ぬ地を踏むために」」においてリピーター割引を実施
- ・原則毎月第一土曜日における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・「関西文化の日」（11 月 17～18 日）における所蔵作品展の観覧料を無料化
- ・京都国立博物館, 奈良国立博物館及び国立民族学博物館の友の会等と相互割引を実施
- ・近隣の大阪市立東洋陶磁美術館及び大阪大学適塾記念センターと連携し, 相互割引を実施
- ・朝日新聞グループ 朝日友の会, 大阪市高速電気軌道株式会社, 大阪大学カード, OSAKA メセナカード, 京阪カード, 阪急阪神カード及びみずほプレミアムクラブの情報誌・ホームページに展覧会情報等を掲載するとともに観覧料割引を実施
- ・近隣ホテルとの連携を強化し, ホテル利用者に入場割引券を配布し, 展覧会広報を行うとともに観覧料割引を実施。また, 提携ホテルでの展覧会の半券持参等による特典を提供

- ・上記割引のほか、企画展「プーシキン美術館展——旅するフランス風景画」において、各種観覧料割引を実施
- ・以下のとおり臨時開館を実施
 - ゴールデンウィーク（5月1日）
 - お盆期間（8月13日）
 - 秋季の連休期間（9月18日、10月9日）

カ 国立新美術館

- ・六本木アート・トライアングル参加館との観覧料の相互割引及び共通マップの作成・配布
- ・共催展において、高校生無料観覧日を設定（「生誕110年 東山魁夷展」11月23日～25日、計3日間）
- ・共催展において、政府による美術品補償制度の還元策として、高校生の無料観覧を実施（「ルーヴル美術館展 肖像芸術一人は人をどう表現してきたか」7月14日～29日、計14日間、「オルセー美術館特別企画 ピエール・ボナール展」11月14日～26日 計12日間）
- ・公募団体展と企画展の観覧料の相互割引を実施（特に自主企画展において、65歳以上の割引料金として大学生団体料金を適用し、高齢者の観覧料を低廉化）
- ・隣接する政策研究大学院大学との連携を深めるため、自主企画展において同大学の学生の観覧料の無料化若しくは学生証の提示による観覧料の弾力化を実施
- ・上記割引のほか、企画展において、各種観覧料割引を実施
- ・以下のとおり臨時開館及び開館時間延長を実施
 - 会場内の混雑緩和を図るため、臨時開館を実施
5月1日、8月14日
 - 会場内の混雑緩和を図るため、開館時間を20時まで延長
4月29日、4月30日、5月1日、2日、3日、6日（企画展「至上の印象派展 ビュール・コレクション」, 「こいのぼりなう！ 須藤玲子×アドリアン・ガルデール×齋藤精一によるインスタレーション」展）
 - 会場内の混雑緩和を図るため、開館時間を21時まで延長
8月27日、29日、30日、9月2日（企画展「ルーヴル美術館展 肖像芸術一人は人をどう表現してきたか」）
 - 「六本木アートナイト2018」（5月26日～5月27日）の開催に伴い、開館時間を22時まで延長（5月26日、企画展「こいのぼりなう！ 須藤玲子×アドリアン・ガルデール×齋藤精一によるインスタレーション」展）

③ キャンパスメンバーズ制度の実施

国立美術館全体の事業として平成18年12月から実施している、大学、短期大学、高等専門学校及び専修学校等を対象とした会員制度「国立美術館キャンパスメンバーズ」については、平成30年度は6校の新規加盟があり、総入会校数は87校となり、前年度比で5校の増加となった。また、キャンパスメンバーズ通信と題した美術館の新たな活用方法等を伝えるチラシを作成し、学校向け募集案内に同封し、学校への広報を強化した。

④ ミュージアムショップ、レストラン等の充実

ミュージアムショップについては、企業との連携等により各館所蔵作品の図版等を活用したオリジナルグッズの開発に努め、ホームページにおいて展覧会図録やグッズの情報を紹介するなどの広報宣伝を行った。レストランについては、企画展にちなんだ特別メニュー等を提供した。平成30年度の各館の特徴的な取組は以下のとおりである。

ア 東京国立近代美術館

(本館)

- ・ミュージアムショップにおいて、春季に展示される作品等をモチーフとした商品を新たに制作・販売した。商品記載のキャプションなどを日英併記にするなどして外国人来館者にも配慮した。「美術館の春まつり」期間中はエントランスホールに特設ショップを出店し、新商品(メモ帳、さくら茶、缶バッジ、マグネット、トートバッグなど)を中心に販売を行った。
- ・レストランにおいて、「ラー・エ・ミクニ」プロデュースのキッチン・カーを前庭に配置し、「美術館の春まつり」の期間中は、特製お花見弁当や軽食、ワイン・ビールなどの各種ドリンクを提供し、前庭に桜を眺めながら休憩ができる床几台を設置した。「MOMAT サマーフェス」の期間中は、金曜・土曜の夜もオープンし、各種ドリンクや軽食の提供に加え、夜はビアバーとしても来館者に楽しんでもらえるようにした。また、「MOMAT サマーフェス」終了後も、金・土・日の週末(金・土は夜間開館時間も対応)はキッチン・カーを前庭に配置し、手軽なメニューを来館者に提供した。

(工芸館)

- ・ミュージアムショップにおいて、企画展「インゲヤード・ローマン展」にあわせ、オリジナルのポストカード(大判1種、ハガキ判2種)を制作・販売した。また、国内では取り扱いが少ないインゲヤード・ローマン氏のデザインによるガラスの器も販売し、作家のデザイン思想を身近に感じてもらう機会を提供した。そのほか、企画展「The 備前」展において、現役作家9名の内8名の小品(徳利・ぐい呑等)や工房の製品を販売したところ、個展等でも入手が困難な陶芸家の作品も含まれていたため、販売が好調で追加注文を行った。

イ 京都国立近代美術館

- ・ミュージアムショップにおいて、企画展「世紀末ウィーンのグラフィック デザインそして生活の刷新にむけて」にあわせ、京都国立近代美術館所蔵作品のオリジナルグッズとして絵はがきやしおり、一筆箋、マスキングテープ、トートバッグを開発し、所蔵作品の知名度を高めた。また、企画展において、それぞれの内容に合わせ関連書籍及びグッズのコーナーを設け、来館者の知的関心に応えた。
- ・レストランにおいて、企画展にあわせた期間限定メニューを実施したほか、周辺地域のライトアップイベントへの協力やワークショップ(8月は着古したTシャツを使って親子で作る布草履教室、9月はテラスでテラリウム作り及び植木と絵はがきのマルシェ)を実施したほか、文化庁補助金事業(感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業)に関連して、視覚に障害のある方向けの点字メニューブックを作成し、常時利用可能にした。

ウ 国立西洋美術館

- ・ミュージアムショップをリニューアル・オープンし、ショッパーを一新する等、サービスの向上に努めた。新商品の開発を引き続き行い、所蔵作品をあしらったグッズ(シースルー靴下、飾りタイル、ダブルリングメモ、ブックマーク)を販売した。
- ・レストランにおいて、夜間開館日の営業時間を展覧会終了時間から1時間延長した。また、企画展「ミケランジェロと理想の身体」、「ルーベンス展—バロックの誕生」、「ル・コルビュジエ 絵画から建築へ—ピュリスムの時代」にちなんだ特別メニューを提供した。

エ 国立国際美術館

- ・ミュージアムショップにおいて、企画展「クリスチャン・ボルタンスキー—Lifetime」にあわせ、関連グッズ及び関連書籍の特設コーナーを設置した。
- ・レストランにおいて、企画展「開館40周年記念展「トラベラー:まだ見ぬ地を踏むために」」、「プーシキン美術館展—旅するフランス風景画」、「ニュー・ウェイブ 現代美術の80年

代」，「クリスチャン・ボルタンスキー - Lifetime」にちなんだ特別メニューを開発・提供した。

オ 国立新美術館

- ・ミュージアムショップにおいて、展覧会やイベントに合わせたワークショップ，トークイベントを実施したほか，SNS やメールマガジンによるイベントや入荷情報の配信を積極的に行った。
- ・レストランにおいて，「至上の印象派展 ビュールレ・コレクション」，「ルーヴル美術館展 肖像芸術一人は人をどう表現してきたか」，「オルセー美術館特別企画 ピエール・ボナール展」にちなんだ館内 4 店舗コラボメニューを実施したほか，「ルーヴル美術館展 肖像芸術一人は人をどう表現してきたか」において 3 階レストランが提供する「ルーヴル美術館展特別コース」と前売観覧券のセット券販売を実施した。

2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承

(1) 作品の収集

| 館名 | 購入点数 | 購入金額(円) | 寄贈点数 | 年度末所蔵作品数 | 年度末寄託品数 | |
|-----------|------|---------------|-------------|----------|---------|-----|
| 東京国立近代美術館 | 本館 | 61 | 476,266,406 | 64 | 13,338 | 192 |
| | 工芸館 | 20 | 144,004,600 | 41 | 3,863 | 95 |
| 京都国立近代美術館 | 106 | 690,158,000 | 35 | 12,622 | 910 | |
| 国立西洋美術館 | 110 | 945,003,061 | 11 | 6,180 | 249 | |
| 国立国際美術館 | 6 | 1,742,425,196 | 8 | 7,965 | 112 | |
| 計 | 303 | 3,997,857,263 | 159 | 43,968 | 1,558 | |

| 館名 | 平成30年度の収集方針 |
|-----------|---|
| 東京国立近代美術館 | <ul style="list-style-type: none"> ・1970年代以降の日本と海外の作品の収集 ・日本の美術に多大な影響を与えた海外作家の作品の収集 ・1900-1940年代の日本画作品の収集 |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・日本工芸の近代化を示す作品の補充 ・戦後から現代にいたる伝統工芸や造形的な表現、クラフト等の重要作品の収集 ・近・現代の欧米の工芸及びデザイン作品の収集 |
| 京都国立近代美術館 | <ul style="list-style-type: none"> ・美術・工芸作品について、近・現代日本美術史の骨格を形成する代表作及び作家の各時期において重要な位置を占める記念的作品、我が国の美術史に組み込まれていくことになる現代美術の秀作の積極的収集、優れた写真作品の収集、前衛的傾向を示す海外の美術作品の収集 ・京都を中心とする関西ないし西日本の地域性に立脚した所蔵作品の充実 |
| 国立西洋美術館 | <ul style="list-style-type: none"> ・15～20世紀ヨーロッパ絵画の収集 ・ドイツ・フランドル・イタリア・フランスを中心としたヨーロッパ版画のコレクションの充実 ・国内に残る旧松方コレクション作品の情報収集 |
| 国立国際美術館 | <ul style="list-style-type: none"> ・1945年以降の日本の現代美術作品の系統的収集の継続 ・国際的に注目される国内外の同時代の美術作品の収集の継続 |

特記事項

ア 東京国立近代美術館

(本館)

<購入>

近代日本画を代表する画家横山大観の《白衣観音》(1908年)を購入した。東京国立近代美術館では重要文化財の《生々流転》(1923年)をはじめ横山大観の代表作を所蔵しているものの、明治期の作例を欠いていた。今回の収蔵で大観の画業を初期から晩年までたどることが可能となった。また、戦後イギリスを代表する彫刻家であるアンソニー・カロの《ラップ》(1969年)を購入した。戦後の新しい彫刻の可能性を切り開いた、国際的な影響力の高い作家であり、日本への影響も大きいため、さまざまな作品との比較展示が可能となった。国内の美術館に収蔵されているアンソニー・カロの作品は大半が1980年代以降の作品であり、60年代の重要作品を国立美術館が収蔵できた意義は大きい。

<寄贈>

東京国立近代美術館で比較的手薄だった女性作家の作品の調査・収集をすすめ、丸木俊(赤松俊子)、アン・トルーイット、吉川静子らの作品を受贈した。また、1970年前後に活動し、近年国際的な評価の高い「もの派」の作品として吉田克朗《Cut-off 18》(1970年)を受贈した。制作当時のオリジナルが現存する例が少ない「もの派」の貴重な作例である。このほか、

戦後版画を代表する作家の浜田知明や、1960年代に独自の抒情的な水彩を描いた難波田史男の作品をご遺族から受贈した。東京国立近代美術館のコレクションの中で、欠けている時期の作品を受贈できたことで、それぞれの作家の画業を通観する展示が可能になった。写真については深瀬昌久の代表作である《鴉》（1975年）の連作18点等を受贈した。

(工芸館)

〈購入〉

日本近代陶芸の確立に先駆的な活躍を示した板谷波山の《氷華彩磁唐花文花瓶》（1929年）を収蔵した。近代陶磁を代表する板谷波山の特質が十分に現れた代表的な作品で、釉薬研究の多彩な側面を展示で示すことができるようになった。また、近代の漆芸を代表する作家・松田権六の《秋野泥絵平卓》（1932年）を購入した。本作は、現存しているものが極めて少ない貴重な戦前の作品であり、松田権六の初期活動を展示で示すことが可能となった。近代の漆工品に関しては、海外からの注目度も高く、散逸・海外流出を防いだ点で国立の美術館としての役割を果たせたといえる。

〈寄贈〉

重要無形文化財「瀬戸黒」の保持者に認定された加藤孝造の《瀬戸黒茶盃》（2016年）と、その他瀬戸黒及び志野等の茶碗7点の寄贈を受け入れた。荒川豊藏に師事した加藤は、桃山時代の古窯跡が残る可児市久々利に工房と窯を移して、志野・瀬戸黒・黄瀬戸など、桃山陶器の伝統的技法による作品制作に長年にわたり取り組んできた。受贈をした8点は、いずれも加藤の典型作で、これにより加藤の制作を作品で示すことができるようになった。また、テキスタイル・デザインを刷新した本野東一による《Line A, B》（1989年）とその他11点を受け入れた。すでに所蔵されている本野作品8点とあわせて、今後、絵画・デザイン・工芸が互いに影響を与えあった時代の研究を進めることが可能となった。

イ 京都国立近代美術館

〈購入〉

涛川惣助《柳燕図花瓶》（明治期）を含む、主に明治時代に制作された超絶技巧の工芸作品42件を購入した。七宝をはじめ、明珍の金工作品《自在置物 蛇》（明治期）、染織、漆工などの作品群は、明治の輸出工芸を示す代表的な作品である。平成28年度から継続して超絶技巧といわれる作品が収蔵できていることは、コレクションの充実に繋がるとともに、優れた工芸作品の散逸・海外流出を防いだ点で国立美術館としての役割を果たせたといえる。また平成29年度に開催した「岡本神草展」の出品作である岡本神草《五女遊戯》（1925年）を購入した。岡本神草の数少ない貴重な本画であり、京都国立近代美術館の所蔵する同作家の作品と比較展示をすることで、創作活動を展観することが可能となった。

〈寄贈〉

平成29年度に開催した「絹谷幸二 色彩とイメージの旅」の出品作である絹谷幸二《うずもれしは砂の愛》（1984年）を受贈した。絹谷幸二は安井賞を受賞した現代の美術界における主要な作家であり、関西に縁のある同氏の作風展開を展示によって示すことができるようになった。また、京都出身の日本画家として長年にわたって収蔵してきた作家、西村五雲の《虎》（1938年）を受贈した。西村門下には、京都出身の日本画家で京都国立近代美術館のコレクションにおいて重要な作家の一人である山口華楊がおり、西村と山口の関係性を展示によって示すことができるようになった。さらに、超絶技巧を代表する作家である安藤緑山の《牙彫林檎置物》（大正一昭和初期）と《牙彫胡瓜置物》（大正一昭和初期）を受贈した。京都国立近代美術館が明治工芸の購入を続けてきたことが評価され、寄贈の申し出を受けたもので、収集活動の積み重ねの成果であるといえる。

ウ 国立西洋美術館

〈購入〉

16世紀ドイツ・ルネサンスを代表する画家ルカス・クラナハ（父）の油彩《ホロフェルネスの首を持つユディト》（1530年頃）を購入した。この画家の典型的な主題を扱った質の高い小品で、優れた質と状態を兼ね備えており、ルカス・クラナハ（父）の最もよく人気を呼んだ制作の一面を紹介することが可能になった。また、継続的に収集しているスペイン版画の重要作品としてラモン・カザス《アニス・デル・モノ》（1898年）を購入した。本作はラモン・カザスが手掛けた作品の中でも、バルセロナのムダルニズマ美術を代表するイメージのひとつに数えられる重要な作品である。

〈寄贈〉

平成24年に、国立西洋美術館に約800点の指輪コレクションを寄贈された橋本貫志氏から、新たにティファニー製《指輪「アルジェリア」》（1920年代頃）を受贈した。また、14世紀初頭のフランス、トゥールーズで制作された作者不詳《ラテン語グリアヌス法令集断片：司教に訴え出る巡礼者》（1320年頃）など写本挿絵8点を受贈した。

エ 国立国際美術館

〈購入〉

20世紀芸術を代表する作家の1人に数えられるアルベルト・ジャコメッティが、日本の哲学研究者矢内原伊作をモデルにした彫刻作品《ヤナイハラ I》（1960-61年）を購入した。ジャコメッティの晩年の代表作であり、国立国際美術館が所蔵するジャコメッティの油彩作品《男》（1956年）と併せて展示することによって、アルベルト・ジャコメッティが異なる媒体で実践してきた芸術表現を示すことが可能となった。また、国立国際美術館の開館40周年記念展「トラベラー:まだ見ぬ地を踏むために」のために制作された、ジャネット・カーディフ&ジョージ・ビュレス・ミラー《大阪シンフォニー》（2018年）を購入した。館内の廊下を展示場所とした作品であり、鑑賞者は貸し出された携帯端末を用いて、大阪の様々なサウンド・スケープを楽しむことができるもので、来館者に新しい芸術表現を体験する機会を提供することが可能になった。

〈寄贈〉

終戦間際の広島に生まれ、1980年代後半以降、大量の古タイヤを用いたインスタレーションを制作したことによって知られる殿敷侃のペーパーワーク《線の集積》（1984年頃）を受贈した。被爆体験と欧米の新しい潮流からの影響という、日本の戦後作家に課せられた課題を体現してきた殿敷侃の作品は、日本の戦後美術の典型的なスタイルでもあり、今回の受贈により、戦後美術のコレクションをより充実させることができた。

（2）所蔵作品の保管・管理

① 収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応

ア 法人全体

収蔵庫等保管施設の狭隘・老朽化の抜本的な改善を図るため、各館で横断的に活用が可能な形態や方法について、既存の施設との連携を図りながら検討を進め、法人及び各館ごとの対応方針を策定した。

イ 東京国立近代美術館

（本館）

収納率：約160%

従来どおり、館外の倉庫2か所に作品の一部を預け、年間約200点の作品貸与と年間約800点の所蔵作品展示により作品を収蔵庫外に出すことで収蔵スペースを確保した。平成30年度は外部に借用している民間倉庫の作品配置を整理して若干の空間を捻出した。

(工芸館)

収納率：約 185%

収蔵庫ごとに作品を管理できるようにデータベースの機能を強化し、外部倉庫を含めた収蔵庫内の管理作業を円滑化させ、保存環境改善に努めた。

ウ 京都国立近代美術館

収納率：約 185%

民間倉庫を引き続き利用するほか、収蔵作品保存環境等整備事業により十分な収蔵スペースの確保に努めている。大型作品については引き続き民間倉庫で一時保管しているが今後、中型作品も民間倉庫へ移行していく予定である。

エ 国立西洋美術館

収納率：約 80%

収蔵庫内の状況の確認・記録を行った。平成 30 年度に刊行した松方コレクション絵画・板絵の目録作成に伴い、従来写真がなかった作品に関して撮影を行った。これにより、全ての作品の状態がデジタルデータ上で確認できるようになり、収蔵庫内の管理作業に活用できるようになった。

オ 国立国際美術館

収納率：約 120%

限られた空間において作品を収納するため、収納棚の棚板を調整しスペースを確保した。また、隙間を有効活用するため、絵画ラックの配置換えを行い、可能な限り多くの作品を収納するよう努めた。過密な収納状態による作品への負担を軽減するため、劣化を抑制する梱包材を活用して適切な保管環境を保っている。

② 保存環境の整備等と防災対策の推進・充実

東京国立近代美術館本館では、平成 30 年 11 月 21 日に地震発生を想定した消防訓練を実施した。工芸館では、平成 31 年 3 月 7 日に火災発生を想定した避難訓練を実施した。

京都国立近代美術館では、平成 31 年 1 月 21 日に火災発生を想定した消防避難訓練を実施した。

国立映画アーカイブでは、平成 30 年 9 月 4 日に京橋本館の地下 3 階収蔵庫に設置されている二酸化炭素消火設備の操作方法について訓練をおこなった。相模原分館においては、平成 30 年 11 月 27 日に火災発生を想定した避難訓練を実施した。

国立西洋美術館では、平成 30 年 12 月 3 日に水バケツ・水消火器・屋内消火栓を用いた消火訓練を実施した。

国立国際美術館では、平成 30 年 9 月 10 日～11 日、平成 31 年 3 月 4 日～5 日に収蔵庫の消火設備の点検を行った。また、平成 30 年 5 月 31 日に隣接する大阪市立科学館と合同で津波発生を想定した避難訓練を実施した。このほか、平成 31 年 1 月 15 日に火災発生を想定した避難訓練を実施した。

国立新美術館では、平成 30 年 9 月 18 日に地震及び火災発生を想定した避難訓練と、屋内消火栓の放水訓練及びイーバックチェア（階段避難車）の操作訓練を実施した。また、平成 31 年 3 月 5 日に地震及び火災発生を想定した避難訓練を実施した。

(3) 所蔵作品の修理・修復

| 館 名 | | 修理・修復点数 |
|-----------|-----|--|
| 東京国立近代美術館 | 本館 | 31 点（絵画 28 点、版画 1 点、彫刻 1 点、資料・その他 1 点） |
| | 工芸館 | 6 点（工芸 6 点） |

| | |
|-----------|--|
| 京都国立近代美術館 | 73点（絵画8点、素描10点、書55点） |
| 国立西洋美術館 | 171点（絵画12点、水彩3点、素描30点、版画45点、彫刻8点、 工芸5点、書籍68点） |
| 国立国際美術館 | 17点（絵画3点、水彩2点、素描2点、版画4点、写真2点、 資料・その他4点） |

特記事項

ア 東京国立近代美術館

（本館）

東山魁夷作品3点について、画面への鑑賞者の映りこみを防ぐため低反射アクリルへと交換し、併せて、作品に負担のかかる体裁であった額を改修して保全を図った。これにより京都国立近代美術館及び国立新美術館で開催された企画展「生誕110年 東山魁夷展」では鑑賞者に快適な鑑賞の機会を提供することができた。また、岸田劉生の油彩画数点について汚れの除去等の処置を行った。その過程で、《B.L.の肖像（バーナード・リーチ像）》（1913年）の下層に記載された作者自身による書き込みの存在が明らかとなり、作品研究を深めることができた。

（工芸館）

活用頻度の高い喜多川平朗《羅》（1958年）、平良敏子《芭蕉布着物 クワイヤークッカー 番匠》（1970年）等の染織作品のカビや変色、洗い張りの修復を実施し、展示可能な状態とした。また漆工の文化財保存修復に多数の実績を保有する目白漆芸研究所の専門家らと連携し、2年計画で実施した介川芳秀《彫金鹿衝立》（1940年）の修復が完了した。

イ 京都国立近代美術館

井上有一作品55点について修復を行い、うち25点は平成30年度に開催したジャポニスム2018「井上有一 1916-1985・書の解放」(パリ日本文化会館(フランス・パリ)、トゥールーズ・ロートレック美術館(フランス・アルビ))に展示することができた。また、平成29年度に受贈した、入江波光と中村大三郎の下図を修復し、展示できる状態に修復した。洋画については、石井柏亭《室内》(1930年)及び森本紀久子《イエフキア》(1965年)《エバナタウⅢ》(1964年)の3点を修復した。

ウ 国立西洋美術館

平成29年度に寄贈を受けた、クロード・モネ《睡蓮、柳の反映》(1916年)の保存修復作業を行った。また、近年購入した旧松方コレクションのうち、レオン・オーギュスタン・レルミット《牧草を刈る人々》(1900年)ほか多数の作品について、作品の保存修復と新規額への額装を行った。また、昭和34年の開館以来、保存修復がされていなかった、ウジェーヌ＝ルイ・ジロー《裕仁殿下のル・アーブル港到着》(1921年)の表面洗浄と構造強化を行い、展示できる状態に修復をした。これらは、平成31年度企画展「松方コレクション展」に出品予定である。

近年寄贈された彩飾写本144点は、閲覧・展示公開に向けた保存修復作業を段階的に進めており、数点を所蔵作品展に出品した。彫刻に関しては、屋内彫刻の埃払いと作品点検を実施し、継続的なメンテナンスによる作品の長期的視野にたった保全に努めた。

エ 国立国際美術館

パソコンを背後に組み込んだ液晶モニターによって映像を見せる作品であるジュリアン・オピー《イヴニング・ドレスの女》(2005年)について、映像が映らない故障状態が続いていたが、古い型式のパソコンに詳しい専門家を招き、故障していたパソコンのパーツを取り換えるなどの措置を取り、展示可能な状態に修復した。

(4) 所蔵作品の貸与

| 館名 | | 貸出 | | 特別観覧 | |
|-----------|-----|-----|-------|------|-----|
| | | 件数 | 点数 | 件数 | 点数 |
| 東京国立近代美術館 | 本館 | 68 | 267 | 193 | 441 |
| | 工芸館 | 26 | 247 | 28 | 57 |
| 京都国立近代美術館 | | 59 | 960 | 84 | 152 |
| 国立西洋美術館 | | 12 | 26 | 67 | 126 |
| 国立国際美術館 | | 18 | 69 | 25 | 69 |
| 計 | | 183 | 1,569 | 397 | 845 |

特記事項

ア 東京国立近代美術館

(本館)

「藤田嗣治展」(東京都美術館, 京都国立近代美術館, パリ日本文化会館)に戦争画を含む多数の藤田作品を貸し出し, 藤田嗣治の国内外の評価を高めることに貢献した。また萬鉄五郎《裸体美人》(1912年)をノルトライン・ウェストファーレン美術館(ドイツ, デュッセルドルフ)に, 村山知義《コンストルクチオン》(1925年)をハンブルガー・バーンホフ現代美術館(ドイツ, ベルリン)に貸し出し, 各作品の国際的な認知度を高めることができた。また, スペインのマフレ財団での東松照明展に17点を貸与した。国内では「東山魁夷展」(京都国立近代美術館, 国立新美術館)に15点, 「岸田劉生展」(ふくやま美術館ほか1館)に9点, 長谷川利行展(福島県立美術館ほか4館)に4点など, 各作家を回顧する際に欠かせない作品を貸し出し, その開催に協力するとともに地方での鑑賞機会の提供に努めた。

(工芸館)

ウェールズ・ナショナル・ミュージアム(イギリス・カーディフ)で開催された「今・昔日本のアート&デザイン」展で, 富本憲吉《色絵金銀彩染付飾皿 竹林月夜》(1959年)をはじめ, 工芸とデザイン作品併せて23点を貸与し, 日本の文化を紹介した。また国内でも, 石川県立美術館をはじめ計3館を巡回した「URUSHI 伝統と革新展」に対し, 松田権六《秋野泥絵平卓》(1932年)等計24点を, 「人間国宝展」(MOA美術館)に対し勝城蒼鳳《波千鳥編盛籃 溪流》(1983年)等計19点を貸与するなど, 展覧会に欠かせない作品を貸し出し, 近代工芸及びデザインの普及活動に貢献した。

イ 京都国立近代美術館

国内では, 「創立100周年記念 国画創作協会の全貌展」(笠岡市立竹喬美術館, 和歌山県立近代美術館, 新潟県立万代島美術館)に伊藤草白《島》(1918年)等計35点を貸与したほか, 「田村宗立展〜リアリティを追求した画家〜」(南丹市立文化博物館)に田村宗立《涅槃図》(江戸末〜明治前期)等計29点を貸与するなど, いずれの展覧会においても中核となる作品を貸し出した。また, 特別協力として「STV創立60周年記念 京都国立近代美術館名品展 極と巧 京のかがやき」(北海道立近代美術館)に塩川文麟《四季山水》(1867年)等計148点を貸与したほか, 「日本モダンの精華 京都国立近代美術館コレクション」(大分県立美術館)に竹内栖鳳《秋興》(1927年)等計58点を貸与し, 京都国立近代美術館のコレクションを多数紹介することができた。

また, 海外に対しては, 特別協力としてジャポニスム2018「井上有一 1916-1985 -書の解放-」(パリ日本文化会館(フランス・パリ), トゥールーズ・ロートレック美術館(フランス・アルビ))に井上有一《無我A》(1956年)等計25点を貸与し, 国立美術館の国際的な認知度の向上に寄与した。

ウ 国立西洋美術館

アルベルティーナ（オーストリア，ウィーン）で開催された「モネ展」にクロード・モネ《舟遊び》（1887年）を貸与した。貸与作は同展覧会のメイン・ビジュアルとして積極的に広報され、ポスターピースとしてウィーン市内を中心に様々な媒体に露出した。オーストリアにおいて、国立西洋美術館の所蔵作品の認知が広まったことは、国立美術館の国際的な影響力の拡大に寄与したといえる。また「マルティニク島のゴーガンとラヴァル」展を開催したゴッホ美術館（オランダ，アムステルダム）に、ゴーガンが同島で描いた作品《マルティニク島の情景》（1887年），《マルティニク島の牧草地》（1887年）を貸し出し，「ルノワール父子：絵画と映画」展（バーンズ財団（アメリカ，フィラデルフィア）とオルセー美術館（フランス，パリ））に、アンドレ・ドランが描いたルノワールの息子の妻の肖像《ジャン・ルノワール夫人（カトリーヌ・ヘスリング）》（1923年頃）を貸し出した。

エ 国立国際美術館

バイエラー財団（スイス，リーヘン）で開催された展覧会「ピカソ—青とバラ色の時代」に、パブロ・ピカソ《道化役者と子供》（1905年）を貸与した。パブロ・ピカソの初期の作品に焦点を当てた学術的意義の高い展覧会に出品した意義は大きい。国内では「戦後美術の現在形 池田龍雄展 一楢円幻想」（練馬区立美術館）に対し池田龍雄《氏神（「化物の系譜」シリーズより）》（1956年）等計8点を，「辰野登恵子 ON PAPERS: A Retrospective 1969-2012」（埼玉県立近代美術館，名古屋市美術館）に対し辰野登恵子《Untitled 91-21》（1991年）等計4点を貸与した。各作家の活動を検証する学術的意義の高い回顧展へ貢献することができた。

3 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

(1) 国内外の美術館等との連携・協力等

① 国内外の美術館関係者との研究会の開催や研究者との交流等

- シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築

| 館名 | | 国内外の研究者の招へい等に基づく セミナー・シンポジウムの開催回数 |
|-----------|-----|--------------------------------------|
| 東京国立近代美術館 | 本館 | 5 |
| | 工芸館 | 2 |
| 京都国立近代美術館 | | 4 |
| 国立映画アーカイブ | | 1 |
| 国立西洋美術館 | | 1 |
| 国立国際美術館 | | 8 |
| 国立新美術館 | | 6 |
| 計 | | 27 |

※詳細については別表 12 を参照。所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催については 20 ページ及び別表 11 を参照。

特記事項

- ・国立美術館より、ICOM 大会、CIMAM 年次総会等の国際会議へ出席した。

② 我が国の作家、美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力

京都国立近代美術館

パリ日本文化会館（フランス・パリ）及びトゥールーズ・ロートレック美術館（フランス・アルビ）において開催されたジャポニスム2018「井上有一 1916-1985 -書の解放-」（主催：国際交流基金，トゥールーズ・ロートレック美術館（アルビ），会期：7月14日～9月15日（パリ），9月29日～12月17日（アルビ））に対し，特別協力を行った。

③ 全国の美術館等との人的ネットワークの形成等

ア 地方巡回展の開催（再掲）

地方巡回展及び巡回上映等は，別表 5 のとおり実施した。

イ 企画展・上映会等の共同主催・共同研究

| 館名 | | 共同主催件数 | 共同研究件数 |
|-----------|-----|--------|--------|
| 東京国立近代美術館 | 本館 | 2 | 4 |
| | 工芸館 | 7 | 0 |
| 京都国立近代美術館 | | 3 | 6 |
| 国立映画アーカイブ | | 9 | 9 |
| 国立西洋美術館 | | 2 | 2 |
| 国立国際美術館 | | 2 | 2 |
| 国立新美術館 | | 3 | 5 |
| 計 | | 28 | 28 |

ウ 国内外の美術館等との保存・修復に関する連携・協力等

国立西洋美術館において、以下の取組を実施した。

- ・東京文化財研究所や堀場研究所等との間で、カビや使用材料についての調査や意見交換を行った。
- ・平成31年度から放送となる放送大学の「資料保存論」の授業の一環として、国立西洋美術館の日常業務をケーススタディとして盛り込む番組作成の撮影に協力した（保存科学室、保存修復室）。
- ・東京藝術大学大学院美術学部保存工芸専攻や東京国立博物館保存修復室立体物担当と、保存修復材料・方法などの情報交換を行い、専門知識を交換することにより、各機関での作業の効率化に寄与した。
- ・英国ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館が主催する「復元とその修復に関する会議」（平成31年1月17日～19日）に研究員1名が参加し、欧米の情報や知見を収集するとともに、海外他館と修復に関する情報交換を行った。
- ・ロダン石膏像及び電気鑄造ブロンズ像のプロビナンス解明のため、学芸員の調査研究に協力し、リヨン美術館（フランス）、イプスウィッチ美術館（イギリス）、テイト・ブリテン美術館（イギリス）等と情報交換及び実際に像の実見・調査を行った。プロビナンスの解明を進めるとともに、美術的側面からのアプローチを行い、今後とも研究を深めていく予定である。
- ・外部専門家（TTトレーディング）や養成機関（佐賀大学芸術地域デザイン学部、東北芸術工科大学芸術学部文化財保存修復学科、文化庁主催第9回文化財美術工芸品修理技術者講習会受講施設館学）からの保存修復・科学室関連施設見学を複数受入れ、国立西洋美術館での保存修復・科学の作業を紹介し、見学者らと意見・情報交換を行った。

（2）ナショナルセンターとしての人材育成

① 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動

ア 教育普及活動の充実に資する教材やプログラムの開発

鑑賞教材「国立美術館アートカード」について、各館から学校へ貸し出しを行うほか、教員の研修などの機会をとらえて紹介するなど、国立美術館全体として取り組んだ。

イ 美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施等

12年目となる「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」は、平成30年度、国立西洋美術館、国立新美術館で実施し、103名が研修を修了した。また、本研修の記録はウェブサイトで公開しており、平成30年度も研修について、より多くの情報を伝えるとともに、視認性の向上に努めた。なお、本研修は平成30年度「教員免許状更新講習」としても実施した。

- ・修了者数：103名（小学校教諭名23名、中学校教諭30名、高等学校教諭12名、中高一貫校2名、指導主事8名、学芸員23名、その他5名）
- ・会期：平成30年8月6日、8月7日（2日間）
- ・会場：国立西洋美術館（8月6日）、国立新美術館（8月7日）
- ・教員免許状更新講習：受講者23名（全員に履修証明書を授与）
- ・参加者の満足度：99%（目標：96.6%）

東京国立近代美術館工芸館では、工芸館における鑑賞活動を児童生徒の工芸文化への関心及び創造力の育成につなげることをねらいとして、「第12回工芸作品鑑賞研究会」を実施し、20名が参加した。

京都国立近代美術館では、京都市図画工作教育研究会、京都市立中学校教育研究会美術部会と連携して、美術館を活用した鑑賞授業の実践力向上に向けた教員対象の講座を実施し、25名が参加した。また、京都府私立中学高等学校連合会と連携して、京都府私立中学高等学校教育研究大会の分科会を実施し、13名が参加した。そのほか、京都府立盲学校、京都市立芸術大学、京

都教育大学，群馬大学，愛知教育大学等と連携して，盲学校における美術教育の充実に向けた授業及び研究会を実施し，11名が参加した。

国立西洋美術館では，東京都中学校美術教育研究会と連携して，研究会の研修企画担当教員を対象に美術館における鑑賞の実地研修を実施し，15名が参加した。

国立国際美術館では，全国高等学校美術工芸教育研究会，近畿地区府県代表者会議研修会，大阪府教育センター，大阪市中学校教育研究会美術部，大阪市立高等学校教育研究会芸術部会，大阪狭山市教育研究会図工部会と連携して，美術館における鑑賞活動を児童生徒の学びにつなげることをねらいとして，研修会を実施し，計82名が参加した。

国立新美術館では，小金井市小学校図工研究部会の研修会と連携して，鑑賞ガイダンスを実施し7名が参加した。

② 今後の美術館活動を担う中核的人材の育成

| 館名 | | キュレーター研修 受入人数 | インターンシップ 受入人数 | 博物館実習 受入人数 |
|-----------|-----|------------------|------------------|---------------|
| 東京国立近代美術館 | 本館 | 1 | 5 | — |
| | 工芸館 | 2 | 3 | 4 |
| 京都国立近代美術館 | | 1 | 4 | — |
| 国立映画アーカイブ | | — | 1 | 12 |
| 国立西洋美術館 | | 0 | 8 | — |
| 国立国際美術館 | | 2 | 7 | — |
| 国立新美術館 | | 1 | 11 | — |
| 計 | | 7 | 39 | 16 |

(3) 国内外の映画関係団体等との連携等

① 映画フィルムの収集については，国立映画アーカイブにおいて以下のとおり実施した。

| 館名 | 購入本数 | 購入金額（円） | 寄贈本数 | 年度末 所蔵本数 | 年度末 寄託本数 |
|-----------|------|------------|------|-------------|-------------|
| 国立映画アーカイブ | 71 | 93,275,755 | 377 | 80,835 | 19,322 |

| 館名 | 平成30年度の収集方針 |
|-----------|--|
| 国立映画アーカイブ | <p>映画を芸術作品のみならず，文化遺産として，あるいは歴史資料として，網羅的に収集することを目標に，日本映画の収集を優先しながら，時代を問わず散逸や劣化，滅失の危険性が高い映画フィルム等及び上映事業や国際交流事業に必要な映画フィルム等の収集を行う。なお，収集にあたっては，自主製作映画等企業の管理下に置かれない映画の収集にも配慮することとし，受贈については，デジタル素材の受入れも視野に入れながら，映画のデジタル化に伴い散逸の危機に瀕しているプリントやフィルム原版の受入れも重点的に実施することとする。映画資料については，日本映画に関わるものを中心に，映画史の調査研究に資する資料の収集を行う。加えて，本年度は特に次の点について留意する。</p> <p>ア 公開当時の画調を忠実に再現するために，カメラマンの立ち会いの下，フィルム複製を行うとともに，必要なデータを保存する。</p> <p>イ フィルム映画をデジタル化した保存用素材及び上映用素材，デジタル映画から複製された保存用素材，上映用素材及びレコーディングしたフィルム等の収集を行う。</p> |

特記事項

〈購入〉

企画上映に伴う映画フィルム等の購入では，美術監督・木村威夫氏の作品について，デビュー作の『海の呼ぶ聲』（伊賀山正徳監督，1945年）をはじめ，『サンダカン八番娼館 望郷』（熊

井啓監督，1974年），『ツイゴイネルワイゼン』（鈴木清順監督，1980年）や『夢みるように眠りたい』（林海象監督，1986年）等8作品・14本の映画フィルムを，またプロデューサー・黒澤満氏の作品については，『蘇る金狼』（村川透監督，1979年），『死の断崖』（工藤栄一監督，1982年），『カルロス』（きうちかずひろ監督，1991年）等9本の映画フィルムのほか，『ニューヨーク U コップ』（村川透監督，1993年）をデジタル化のうえ購入したことが，平成30年度の特徴である。また，海外フィルム・アーカイブとの情報交換の成果としては，スウェーデン映画協会が所蔵する『スウェーデン皇太子殿下同妃殿下御来朝』（日活，1926年）可燃性35mmプリントからインターネガとプリントを作成し，コレクションに加えることができた。

〈受贈〉

平成30年度は，日本活動写真株式会社（日活，1912年創業）の前身四社のうちの一社にあたる横田商会を設立した横田永之助の御親族より『故横田りか子夫人葬儀之実況 昭和参年五月九日執行』（1928年）の35mm可燃性フィルムの寄贈を受けたのをはじめとして，無声映画保存会より子役時代の高峰秀子が出演している『私のパパさんママが好き』（野村員彦監督，1931年）の9.5mmフィルム，株式会社パル企画より『父と暮せば』（黒木和雄監督，2004年）等のプリント計8本，株式会社プルミエ・インターナショナルより『沙耶のいる透視図』（和泉聖治監督，1986年）等のプリント計5本，武智鉄二監督の御親族より『紅閨夢』（1964年）等の原版とプリント計34本，出光真子監督より『ざわめきのもとで』（1985年）他の原版とプリント計41本をご寄贈いただくなど，失われたと思われた無声映画，また商業映画から実験映画まで広範囲にわたる作品を新たにコレクションに加えることができた。

- ② 映画フィルムの保管・修復・復元については，国立映画アーカイブにおいて以下のとおり実施した。

| 館名 | 修理・修復本数 |
|-----------|--|
| 国立映画アーカイブ | 53本（映画フィルムデジタル復元4本，ノイズリダクション等10本，不燃化作業11本，映画フィルム洗浄28本） |

特記事項

映画フィルムのデジタル復元については，東映株式会社，東映アニメーション株式会社と共同で，日本初のカラー長篇アニメーション映画として知られる『白蛇伝』（薮下泰司監督，1958年）のデジタル復元を行った。また，日本最初の映画スター尾上松之助主演の『忠臣蔵』（牧野省三監督，1910-1917年頃）については長さの異なる3つのバージョン（戦後にアフターレコーディングされた「活弁トーキー版」2種と，平成29年度新たに寄贈を受けた無声映画時代の可燃性フィルム）を比較照合し最長版を作成した。

アナログ・デジタル復元に必要不可欠な技術データの更新と保存を図るために，平成30年度は，『お葬式』（伊丹十三監督，1984年）の再タイミング版作成を行い，同作を担当した前田米造カメラマンの監修と，当時タイミング（色彩補正）を担当した国立映画アーカイブ技術スタッフの助言をもとに，初公開当時の色彩の再現を試みた。

映画関連資料については，国立映画アーカイブ設立に伴って一定の修復予算を確保できるようになり，またデジタル化作業を可能にする目的の修復も含めて，ポスター，雑誌，写真アルバムなどの専門家による修復に着手している。またスタッフによる作業としても，公開・貸出頻度の高いと思われる日本映画ポスターなどへの和紙を用いた簡易修復，脆弱なシナリオ等冊子に対する中性紙保存ケースの作成，接着したスチル写真の剥離作業やクリーニングなど紙資料の保存のための措置を講じている。

③ 映画フィルム等の貸与等については、以下のとおり実施した。

● 映画フィルム

| 館名 | 貸出 | | 特別映写観覧 | | 複製利用 | |
|-----------|----|-----|--------|-----|------|-----|
| | 件数 | 本数 | 件数 | 本数 | 件数 | 本数 |
| 国立映画アーカイブ | 93 | 188 | 70 | 235 | 56 | 109 |

● 映画関連資料

| 館名 | 貸出 | | 特別観覧 | |
|-----------|----|-----|------|-----|
| | 件数 | 点数 | 件数 | 点数 |
| 国立映画アーカイブ | 7 | 137 | 46 | 894 |

特記事項

映画フィルムの貸与については、チネマ・リトロバート映画祭、サンフランシスコ無声映画祭、香港国際映画祭、UCLA 映画テレビアーカイブ、ミュンヘン映画博物館、オーストリア映画博物館、ゴスフィルモフォンズ、ユーゴスロヴェンスカ・キノテカ、中国電影資料館、韓国映像資料院など海外の映画祭やフィルム・アーカイブを中心に、数多くの日本映画のコレクションを提供した。国内では、京都府京都文化博物館や神戸映画資料館、せんだいメディアテーク、アテネ・フランセ文化センター、鎌倉市川喜多映画記念館等の文化施設、新文芸坐、神保町シアター、シネマヴェーラ渋谷、ラピュタ阿佐ヶ谷、横浜シネマリン等の名画座その他の団体に貸与を通して協力を行った。

映画フィルムの特別映写については、日本映画撮影監督協会や日本映画映像文化振興センター等の映画関連団体から申請を受けるとともに、大学等の研究教育機関については、京都大学、桜美林大学、明治学院大学、東京藝術大学、早稲田大学等幅広い機関からの申請に対応した。

映画フィルムの複製利用については、著作権者等によるデジタル化やテレビ番組のための部分使用に加え、愛媛県美術館「川端康成と東山魁夷」、兵庫県立美術館「Oh! マツリ☆ゴト 昭和・平成のヒーロー&ピーポー」、パリ日本文化会館のジャポニスム 2018「藤田嗣治」、長崎歴史文化博物館「映画界の風雲児 梅屋庄吉」等、展示施設での上映展示に対する利用許可も目立った。

映画資料の貸出については、日本でも数少ない常設の映画関連展示施設である鎌倉市川喜多映画記念館への貸出が案件の数として目立っている。また平成 30 年度は、長崎歴史文化博物館にワーウィック撮影機を貸与したことが特筆される。資料の特別観覧については、出版社・教育機関・テレビ局などの要望に対し、資料画像の提供や熟覧などの形で所蔵資料へのアクセスに応じており、平成 30 年度は映画館プログラムへのアクセスが目立った。

「所蔵映画フィルム検索システム」については、平成 30 年度中に日本劇映画の作品情報 146 件を新たに公開し、公開件数は累計 7,551 件となった。

④ 平成 30 年 10 月 6 日～7 日及び 11 日～14 日に、ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別上映会「製作 50 周年記念『2001 年宇宙の旅』70mm 版特別上映」を開催した。

⑤ 海外における共催上映については、以下のとおり実施した。

- ・日仏友好 160 周年にあたる 2018 年の 7 月から 8 か月にわたってパリ内外の 100 近くの会場で開催された「ジャポニスム 2018：響きあう魂」の中で、国際交流基金との共催で、シネマテーク・フランセーズ他各会場の主催による巡回上映事業えお、日本映画の 1920 年代から 2018 年までの約 100 年の歴史を紹介する「ジャポニスム 2018 「日本映画の 100 年」と題して開催した。本プログラムは、「日本映画の発芽」、「日本映画再発見（4K クラシック傑作選）」、

「日本映画再発見（知られざる傑作特集）」、「現代監督特集」の4つのテーマの下、合計119本（うち当館より28本を提供）で構成した。

- ・チネテカ・デル・フリウリとの共催により、第36回ポルデノーネ無声映画祭（会期：平成30年10月6日～10月13日）で、無声映画からトーキーへの移行期に日本で製作されたサウンド版作品を紹介する上映企画「サウンド版—トーキー移行期の日本映画（第二部）」（会場：ジュゼッペ・ヴェルディ市立劇場（イタリア・ポルデノーネ））を開催し、『東京音頭』（野村芳亭監督、1935年）と『折鶴お千』（溝口健二監督、1935年）の2本を上映した。
- ⑥ 映画フィルムの保存・修復等に関する協力等については、『お葬式』（伊丹十三監督、1984年）の再タイミング版作成を行い、同作を担当した前田米造カメラマンの監修と、当時タイミング（色彩補正）を担当した国立映画アーカイブ技術スタッフの助言をもとに、初公開当時の色彩の再現を試みた。また研究員が、文化庁の「アーカイブ中核拠点形成モデル事業（京都映画ノンフィルム資料アーカイブ）」の検討委員として、検討委員会での提言やシンポジウムへの参加を通じ、京都における映画関連資料のアーカイビングについての協力を行った。
- ⑦ 各種映画祭や映画・映像に関する研究会等への協力については、国内団体との連携として、駐日欧州連合代表部及びEU加盟国大使館・文化機関との共催企画「EUフィルムデイズ2018」、ロシア文化フェスティバル組織委員会との共催企画「日本におけるロシア年2018 ロシア・ソビエト映画祭」、一般社団法人PFF、公益財団法人川喜多記念映画文化財団、公益財団法人ユニジャパンとの共催企画「第40回ぴあフィルムフェスティバル」を開催し、館外上映においては、東京国際フォーラムとの共催企画「東京国際フォーラム+国立映画アーカイブ 月曜シネサロン&トーク」を開催した。
- ⑧ 国立美術館キャンパスメンバーズの加盟校（国立映画アーカイブ利用校）が、国立映画アーカイブの所蔵映画フィルムと施設を利用して講義等を行う「国立映画アーカイブ・大学等連携事業」については、計5回の講義を実施した。
- ⑨ 文化庁が実施する「日本映画情報システム」に対しては、公開データベースへの接続に関する協力を行った。
- ⑩ 相模原分館において、相模原市及び独立行政法人宇宙航空研究開発機構（JAXA）と締結した文化事業等協力協定に基づき、相模原市内の小・中学生並びに相模原市及びJAXAとの共催事業の参加者を対象に無料で映画上映を実施した。また、映画フィルムの受入れ・検査・収納までの工程を見学する機会を設けるなど、映画フィルムの保存活動についての普及にも努めた。
- ⑪ FIAFの正会員として、第74回FIAF会議（チェコ・プラハ）に研究員2名が参加した。またFIAF加盟機関であるスウェーデン映画協会との共催企画「日本・スウェーデン外交関係樹立150周年 スウェーデン映画への招待」を開催した。
- ⑫ 映画関連資料に関する情報収集については、研究員が京都市の東映太秦映画村映画文化館やおもちゃ映画ミュージアム、神戸市の神戸映画資料館、長崎市の長崎歴史文化博物館を訪問し、また京都大学人文科学研究所と映画資料の新規収集について話し合うなど、各地の映画資料館・専門図書館・研究機関とノンフィルム資料の保存に関する情報交換を行った。また研究員が文化庁事業「アーカイブ中核拠点形成モデル事業（京都映画ノンフィルム資料アーカイブ）」に参加し、京都における映画関連資料のアーカイビングについて提言を行った。

- ⑬ 東京国立近代美術館からの独立については、通常の業務を着実に執行する一方で独立に向けた内部の機能強化に努め、文化庁ほか関係機関等との調整を進めた結果、東京国立近代美術館フィルムセンターを平成 30 年 4 月 1 日付けで映画専門機関「国立映画アーカイブ」に改組し、東京国立近代美術館から独立して新たな国立美術館の一館として設置した。開館記念上映会を開催し、広く国内外に新機関の周知に努めるとともに、4 月 9 日には記念行事として長瀬記念ホール OZU で式典が行われた。
- ⑭ 映画文化振興のナショナルセンターとしての役割を果たすため、外部有識者による「国立映画アーカイブ機能強化会議」を設置した。同会議の委員は大手 4 映画会社役員他、文化庁、内閣府、外務省、経済産業省、大学教授、国際交流基金、俳優(映画監督)により構成されるこれまでにない産官学連携の試みとなった。平成 30 年度は計 2 回(11 月, 3 月)の会議を開催し、国立映画アーカイブに期待すること等について意見交換が行われ、国立映画アーカイブの機能強化のため映画各社から人的なものを含めた必要な協力をしていく、ということが了承された。

II 業務運営の効率化

1 業務運営の取組

(1) 一般管理費及び業務経費の削減状況

(単位：千円)

| 区分 | 前中期目標期間 最終年度 | 当中期目標期間 | 削減率 |
|-------|-----------------|-----------|-------|
| | 平成 27 年度 | 平成 30 年度 | |
| 一般管理費 | 679,240 | 643,619 | △5.2% |
| 業務経費 | 2,790,837 | 2,843,925 | 1.9% |

特記事項

当中期目標期間終了年度において、前中期目標期間の最終年度と比べて、一般管理費 15%、業務経費 5%を削減することを目標としている。(ただし、美術作品購入費、美術作品修復費、土地借料等の特殊要因経費はその対象外。)

平成 30 年度において、一般管理費については平成 27 年度比で 5.2%削減しているが、業務経費については 1.9%増加している。

(2) 省エネルギー

● 使用量の削減割合 (対平成 27 年度比)

| 館名 | | 使用量 | | |
|---------------|-------|--------|--------|--------|
| | | 電気 | ガス | 合計 |
| 東京国立近代 美術館 | 本館 | 88.6% | 100.7% | 93.4% |
| | 工芸館 | 105.6% | — | 105.6% |
| 京都国立近代美術館 | | 133.3% | 205.6% | 148.3% |
| 国立映画 アーカイブ | 京橋本館 | 81.9% | — | 81.9% |
| | 相模原分館 | 99.6% | — | 99.6% |
| 国立西洋美術館 | | 102.1% | 106.0% | 103.6% |
| 国立国際美術館 | | 100.2% | — | 100.2% |
| 国立新美術館 | | 96.9% | 94.1% | 96.1% |
| 計 | | 98.5% | 101.4% | 99.2% |

※東京国立近代美術館工芸館・国立映画アーカイブ京橋本館・相模原分館及び国立国際美術館は、ガス設備を設置していない。

※使用量は、電気は一般電気事業者からの昼間買電に 9.97GJ/千 kWh、夜間買電に 9.28GJ/千 kWh、特定規模電気事業者からの買電に 9.76GJ/千 kWh を乗じて得た熱量及び都市ガスに 45GJ/千 m³ を乗じて得た熱量の合計に 0.0258kl/GJ を乗じて得た原油換算量を、各施設の延床面積で除した値(原単位)を基礎とする(エネルギーの使用の合理化に関する法律施行規則に基づく)。

特記事項 (増減の理由等)

国立美術館全体においては、業務の特殊性から展覧会場や美術作品収蔵庫において一定の温湿度維持等が必要とされ削減が難しいものの、引き続き、美術作品のない区画における空調機の設定温度の適格化(夏季 28℃、冬季 19℃)、夏季における服装の軽装化、不使用設備機器類の停止及び職員等の意識の啓発によりエネルギーの削減に努めた。

また、エネルギーの使用の合理化に関する法律に基づき、エネルギー管理統括者のもとで、省エネルギー計画策定等を行い、各館において可能な箇所から施設設備の改修を行い、省エネルギー効果を高めた。特に、国立新美術館においては、引き続き、BEMS(Building and Energy Management System)により、詳細なエネルギーの使用量と室内環境の把握を行い、その情報を定例的に開催する省エネルギー推進会議へ報告し、省エネルギー対策に生かすなどの取組を行っている。

さらに、引き続き「夏季の省エネルギーの取組について（30 文科施第 81 号）」及び「冬季の省エネルギーの取組について（30 文科施第 282 号）」を踏まえた節電対策を実施した。具体的内容は以下のとおり。

(1) 設備・機器等の使用抑制

① 空調に係る節電

- ・部分的な運用，時間的な運用など柔軟に対応
- ・設定温度夏季 28℃，冬季 19℃を徹底（展示室及び収蔵庫等を除く）
- ・節電にも役立つ服装の励行
- ・ブラインドを調節し，夏季は直射日光を遮光，冬季は暖気を確保
- ・空調機のフィルター清掃

② 照明に係る節電

- ・執務室の照明は，最低基準の照度を確保しつつ大幅削減
- ・廊下，ロビー，階段等は，安全確保を優先し極力消灯
- ・昼休みの消灯を徹底
- ・白熱電球の原則使用禁止（代替品のない場合を除く）

③ エレベータ，エスカレータ

- ・必要最小限度の運転，階段利用の促進

④ 衛生設備に係る節電

- ・給湯室，洗面台，電気温水器等の利用時間，設定温度の変更
- ・自動販売機の消灯，設定温度の変更
- ・暖房便座，温水洗浄の停止
- ・便所温風器（手乾かし器）の停止

⑤ OA 機器等

- ・一定期間使用しない場合の電源の切断
- ・節電モードでの使用を徹底
- ・プリンタ，コピー機等の使用制限

⑥ その他

- ・ノー残業デーの推進
- ・冷蔵庫，電気ポット等，家電機器の使用制限
- ・冬季のハロゲンヒーター等の暖房機器の個人使用の禁止
- ・各テナントへの節電の協力要請
- ・サーバ室等個別空調機器の適切な温度設定

(2) 夏季休暇等の確実な取得

業務効率の維持等に留意しつつ，次の取組を推進

- ・夏季休暇の完全取得，夏季における年次休暇の計画的長期取得

(3) その他

- ・超過勤務の一層の縮減
- ・中長期の節電にも資する設備の設置等の検討及び着手
- ・夏季及び冬季における全館一斉休業日の実施

京都国立近代美術館の電気及びガス使用量は，平成 27 年度に工事のため 1 ヶ月半休館していたために使用量が少なかったことから，対平成 27 年度では例年増加傾向にある。また，平成 30 年度の京都国立近代美術館の入館者数は，所蔵作品展と企画展を合わせて目標の 89.3%増と多くの来館者があったことから，空調負荷の増加につながり電気及びガスの使用量が増加したと考えられる。

なお，法人全体については，快適な観覧環境の提供等事業の充実を図る一方で，省エネルギーへの取組及び工事休館等により，電気及びガスの使用量は減少し，エネルギー使用量は平成 27 年度に対し 99.2%と横ばいになっている。

2 組織体制の見直し

独立行政法人の業務運営の柔軟性を生かし、より一層のサービス向上及び組織の機能向上を実現するため、適宜組織体制を見直し、その強化に努めた。

3 契約の点検・見直し

(1) 調達等合理化の推進

「独立行政法人における調達等合理化の取組の推進について」（平成27年5月25日総務大臣決定）に基づき、事務・事業の特性を踏まえ、PDCAサイクルにより、公正性・透明性を確保しつつ、自律的かつ継続的に調達等の合理化に取り組むため、平成30年度独立行政法人国立美術館調達等合理化計画を策定した。

① 平成30年度の調達実績

ア 平成30年度の調達全体像

(単位：件、千円)

| | 平成29年度 | | 平成30年度 | | 比較増△減 | |
|--------------|----------------|----------------------|----------------|----------------------|-----------------|----------------------|
| | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 | 件数 | 金額 |
| 競争入札等 | (25.3%) 68 | (29.9%) 2,365,904 | (26.7%) 66 | (19.5%) 1,845,669 | (△2.9%) △2 | (△22.0%) △520,235 |
| 企画競争・公募 | (11.2%) 30 | (2.5%) 198,965 | (13.4%) 33 | (7.4%) 701,876 | (1.0%) 3 | (252.8%) 502,911 |
| 競争性のある契約(小計) | (36.5%) 98 | (32.5%) 2,564,869 | (40.1%) 99 | (26.9%) 2,547,545 | (1.0%) 1 | (△0.7%) △17,323 |
| 競争性のない随意契約 | (63.6%) 171 | (67.6%) 5,341,764 | (59.9%) 148 | (73.1%) 6,918,276 | (△13.5%) △23 | (29.5%) 1,576,511 |
| 合計 | (100%) 269 | (100%) 7,906,633 | (100%) 247 | (100%) 9,465,821 | (△8.2%) △22 | (19.7%) 1,559,188 |

(注1) 計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

(注2) 比較増△減の()書きは、平成30年度の対29年度伸率である。

イ 平成30年度の一者応札・応募状況

(単位：件、千円)

| | | 平成29年度 | 平成30年度 | 比較増△減 |
|------|----|-------------------|-------------------|-------------------|
| 2者以上 | 件数 | 58 (59.2%) | 55 (55.6%) | △3 (△5.2%) |
| | 金額 | 976,694 (38.1%) | 1,291,546 (50.7%) | 314,851 (32.2%) |
| 1者以下 | 件数 | 40 (40.8%) | 44 (44.4%) | 4 (10.0%) |
| | 金額 | 1,588,174 (61.9%) | 1,256,000 (49.3%) | △332,174 (△20.9%) |
| 合計 | 件数 | 98 (100%) | 99 (100%) | 1 (1.0%) |
| | 金額 | 2,564,869 (100%) | 2,547,545 (100%) | △17,323 (△0.7%) |

(注1) 計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

(注2) 合計欄は、競争契約(一般競争, 指名競争, 企画競争, 公募)を行った計数である。

(注3) 比較増△減の()書きは、平成30年度の対29年度伸率である。

複数年度にわたり同一業者による一者応札が継続し、改善が見込めない案件については、慎重に検討のうえ、公募への切替えを実施することとしている。

② 契約監視委員会の審議状況

監事及び外部有識者で構成される契約監視委員会を2回実施（書面審査1回含む）し、平成30年度調達等合理化計画策定及び平成30年における契約の点検見直しを行ったところ、指摘事項はなかった。

- ・一者応札の検証実施件数：61件

③ 調達等合理化検討チームによる点検

新たに随意契約（少額随契を除く。）を締結することになった案件について、本部事務局長を総括責任者とする調達等合理化検討チームにおいて事前点検（緊急の場合は事後点検）を行った。

- ・事前点検：1件

④ 内部監査の実施件数

平成30年度は、本部事務局、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立映画アーカイブ、国立西洋美術館、国立国際美術館及び国立新美術館を対象として監査員による内部監査を行った。

- ・内部監査実施件数：7件

(2) 民間委託の推進

① 一般管理部門を含めた組織・業務の見直しと民間委託の推進

次のとおり民間委託を行い業務の効率化を図った。

- (ア) 会場管理業務、(イ) 設備管理業務、(ウ) 清掃業務、(エ) 保安警備業務、(オ) 機械警備業務、(カ) 収入金等集配業務、(キ) レストラン運営業務、(ク) アートライブラリー運営業務、(ケ) ミュージアムショップ運営業務、(コ) 美術情報システム等運営支援業務、(サ) ホームページサーバ運用管理業務、(シ) 電話交換業務、(ス) 展覧会アンケート実施業務、(セ) 省エネルギー対策支援業務、(ソ) 展覧会情報収集業務、(タ) 映写等請負業務

「競争の導入による公共サービスの改革に関する法律」に則り民間競争入札を行った管理運営業務は、契約事務の軽減、統括管理業務導入による事務と委託業務の効率化、民間事業者の相互連携の推進による円滑な業務の実施とともに、それぞれの業務の専門的知識を生かした適確な提案による施設設備維持管理と観覧環境の向上に寄与した。

引き続き「競争の導入による公共サービスの改革に関する法律」に則り、終了プロセスへの移行が承認されたものについても、一般競争入札を行い、業務の効率化等に努める。

② 広報・普及業務の民間委託の推進

次のとおり民間委託を行い業務の効率化を図った。

- (ア) 情報案内業務、(イ) 広報物等発送業務、(ウ) 交通広告等掲載、(エ) ホームページ改訂・更新業務、(オ) 特設サイト等、(カ) ラジオCM等を利用した総合的な広報宣伝業務、(キ) 講堂音響設備オペレーティング業務、(ク) 画像貸出業務

4 共同調達の推進

国立西洋美術館は周辺の機関と連携し、コピー用紙及びトイレットペーパー、廃棄物処理、古紙等売買契約について共同調達を実施し、東京国立近代美術館、国立映画アーカイブ及び国立新美術館はトイレットペーパーの共同調達を実施した。東京国立近代美術館、国立映画アーカイブ及び国立新美術館は周辺の機関と連携し、コピー用紙の共同調達を実施した。

また、東京国立近代美術館、国立映画アーカイブ及び国立新美術館は新たに電気の共同調達を実施した。

5 給与水準の適正化等

① 人件費決算

決算額 978,610 千円（対平成 29 年度比較 101.9%）

※人件費は常勤職員を対象とし、退職金、福利厚生費を含まない。

② 給与体系の見直し

国家公務員の給与等を考慮して、平成 18 年 4 月から俸給表の水準を全体として平均 4.8%引下げるとともに、級の構成の見直し、きめ細かい勤務実績の反映を行うため号俸の 4 分割を行ったほか、調整手当を廃止し、地域手当を新設するなど、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行った。なお、平成 30 年度においては、国家公務員の給与改定に準拠し、人事院勧告による官民較差等の状況を踏まえ、俸給水準及び諸手当にかかる給与改定を実施した。

また、国立美術館の職員が行う職務は、国の行政職俸給表（一）又は研究職俸給表の適用を受けると同等の職務であるとみなし、給与についても一般職給与法に準拠した給与制度で支給していることを前提に、これらとの比較を行った（「独立行政法人の役職員の給与水準等の公表（平成 29 年度）」総務省公表資料を参照）。

ア 一般職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

（国及び他の独立行政法人との比較）平成 29 年度実績

| 項目 | 国 | 全独立行政法人 | 国立美術館 |
|-------------|----------|----------|----------|
| 平均年間給与額 | 6,275 千円 | 6,973 千円 | 6,254 千円 |
| ラスパイレス指数 ※1 | | 102.5 | 99.7 |

※1 国の行政職俸給表（一）適用者の給与を 100 としたときの給与水準の指数

イ 研究職俸給表の適用を受ける職員の給与水準

（国及び他の独立行政法人との比較）平成 29 年度実績

| 項目 | 国 | 全独立行政法人 | 国立美術館 |
|-------------|----------|----------|----------|
| 平均年間給与額 | 9,320 千円 | 9,301 千円 | 8,863 千円 |
| ラスパイレス指数 ※2 | | 99.6 | 95.1 |

※2 国の研究職俸給表適用者の給与を 100 としたときの給与水準の指数

ウ 常勤役員の年間報酬

平成 29 年度実績

| 項目 | 国立美術館 |
|------|-----------|
| 法人の長 | 18,434 千円 |
| 理事 | 15,417 千円 |

※「独立行政法人の役職員の給与水準等の公表（平成 29 年度）」（総務省公表資料）では常勤役員にかかる平均報酬額が公表されていないため当法人の実績のみ記載。

③ 平成 30 年度の役職員の報酬・給与等について

別紙 1 「独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について」を参照。

6 情報通信技術を活用した業務の効率化

法人内で VPN（Virtual Private Network：暗号化された通信網）を用いたグループウェア及びテレビ会議システムを引き続き採用しており、特にテレビ会議システムについては定期的な会議等に積極的に活用している。

また、外部データセンターが提供するサーバ機能を利用し、多重化した光回線による VPN の二重化等ネットワーク構成を刷新した。これにより安定したネットワーク稼働を維持することを可能とし、併せてネットワーク障害の回避策についてプロバイダーとの調整に努めた。

Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画等

1 自己収入の確保

入場料収入 985 百万円，公募展事業収入 295 百万円，不動産賃貸収入 154 百万円，その他事業収入 132 百万円等により，1,592 百万円の展示事業等収入を獲得できた。

2 保有資産の有効利用・処分

保有する資産について，美術館の事業・運営に影響のない範囲で積極的な講堂等の外部貸出やエントランスロビーの活用に努めた。また，保有する資産のうち不要な資産はない。

3 予算

（単位：百万円）

| 区 分 | 計画額 | 決算額 | 増△減額 |
|----------------------------|---------------|---------------|---------------|
| 収入 | | | |
| 運営費交付金 | 7,539 | 7,539 | 0 |
| 展示事業等収入 【注1】 | 1,295 | 1,592 | 297 |
| 施設整備費補助金 【注2】 | 1,810 | 2,518 | 708 |
| 文化芸術振興費補助金 【注3】 | — | 202 | 202 |
| 受託収入 | | 237 | 237 |
| 寄附金収入 | 650 | 776 | 126 |
| 計 | 11,294 | 12,864 | 1,569 |
| 支出 | | | |
| 運営事業費 | 8,834 | 9,580 | △746 |
| 管理部門経費 | 1,110 | 1,286 | △176 |
| うち人件費 | 540 | 518 | 22 |
| うち一般管理費 【注4】 | 570 | 768 | △198 |
| 事業部門経費 | 7,724 | 8,294 | △569 |
| うち人件費 | 995 | 1,087 | △92 |
| うち美術振興事業費 | 2,714 | 2,551 | 164 |
| うちナショナルコレクション形成・継承事業費 【注5】 | 3,534 | 4,336 | △802 |
| うちナショナルセンター事業費 【注5】 | 481 | 320 | 161 |
| 施設整備費 【注2】 | 1,810 | 2,518 | △708 |
| 文化芸術振興費 【注3】 | — | 202 | △202 |
| 受託事業費 【注6】 | — | 233 | △233 |
| 寄附金事業費 【注7】 | 650 | 441 | 209 |
| 計 | 11,294 | 12,974 | △1,679 |

主な増減理由

【注 1】 入場料収入等の増加による。

【注 2】 前年度予算に係る工事の完了による。

【注 3】 文化庁「美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業」及び「地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」による。

【注 4】 設備等の修繕による。

【注 5】 未達成の運営費交付金の繰越による。

【注 6】 文化庁からの受託事業による。

【注 7】 寄附金を財源とした経費の繰越による。

※金額は単位未満四捨五入のため，合計等が合致しない場合がある。

特記事項

一般管理費、美術振興事業費、ナショナルコレクション形成・継承事業費及びナショナルセンター事業費を合わせた物件費は、設備等の修繕の増加、前年度から繰り越した運営費交付金債務による美術作品購入等により、予算に比べ746百万円の支出増となった。

展示事業等収入は、展覧会の入館者数が目標入館者数を上回ったこと等から、予算に比べ297百万円の収入増となった。

施設整備費補助金は、前年度から繰り越された工事の完了により、計画額より708百万円の支出増となった。

寄附金については、776百万円を獲得した。前年度からの繰越額1,787百万円と合わせた2,563百万円のうち、平成30年度に441百万円を支出した。

4 収支計画

(単位：百万円)

| 区 分 | 計画額 | 決算額 | 増△減額 |
|-----------------------|------------|-------|------|
| 費用の部 | | | |
| 経常費用 | 6,234 | 6,530 | △296 |
| 管理部門経費 | 1,109 | 1,287 | △178 |
| うち人件費 | 【注1】 540 | 517 | 23 |
| うち一般管理費 | 【注2】 569 | 770 | △201 |
| 事業部門経費 | 4,313 | 4,707 | △394 |
| うち人件費 | 【注1】 995 | 1,153 | △158 |
| うち美術振興事業費 | 【注3】 2,682 | 2,947 | △265 |
| うちナショナルコレクション形成・継承事業費 | 【注4】 374 | 351 | 23 |
| うちナショナルセンター事業費 | 【注5】 262 | 256 | 6 |
| 寄附金事業費 | 【注6】 650 | 372 | 278 |
| 減価償却費 | 162 | 164 | △2 |
| 収益の部 | | | |
| 経常収益 | 6,234 | 6,788 | 554 |
| 運営費交付金収益 | 【注7】 4,127 | 4,020 | △107 |
| 展示事業等の収入 | 【注8】 1,295 | 1,566 | 297 |
| 受託収入 | 【注9】 | 237 | 237 |
| 寄附金収益 | 【注10】 650 | 372 | △278 |
| 資産見返負債戻入 | 162 | 165 | 3 |
| 補助金等収益 | 【注11】 | 202 | 202 |
| 施設費収益 | 【注12】 | 200 | 200 |
| 雑益 | | 26 | 26 |
| 経常利益 | | 258 | 258 |
| 臨時損失 | | 2 | |
| 当期純利益 | | 256 | |
| 前中期目標期間繰越積立金取崩額 | | 6 | |
| 目的積立金取崩額 | | 1 | |
| 当期総利益 | | 264 | |

主な増減理由

【注 1】 予定外の職員の採用による。

【注 2】 施設整備費補助金を財源とした経費の増加等による。

【注 3】 自己収入を財源とした経費の増加及び入館者数の増加に伴う経費の増加等による。

【注 4】 運営費交付金による固定資産の取得が見込より少なかったことによる。

【注 5】 運営費交付金による固定資産の取得が見込より少なかったことによる。

【注 6】 寄附金を財源とした経費の繰越による。

【注 7】 運営費交付金債務の繰越による。

【注 8】 入館者数の増加等による。

【注 9】 文化庁からの受託事業による。

【注 10】 寄附金を財源とした経費の支出による。

【注 11】 補助金を財源とした経費の支出による。

【注 12】 施設整備費補助金を財源とした経費の支出による。

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

5 資金計画

(単位：百万円)

| 区分 | 計画額 | 決算額 | 増△減額 |
|-------------------|--------|--------|-------|
| 資金支出 | 11,294 | 12,795 | 1,501 |
| 業務活動による支出 【注1】 | 9,417 | 10,597 | 1,180 |
| 投資活動による支出 【注2】 | 1,877 | 2,198 | 321 |
| 財務活動による支出 | — | — | — |
| 資金収入 | 11,294 | 12,005 | 711 |
| 業務活動による収入 | 9,484 | 9,999 | 515 |
| 運営費交付金による収入 | 7,539 | 7,539 | 0 |
| 展示事業等による収入 【注3】 | 1,295 | 1,519 | 224 |
| 補助金等収入 | — | 164 | 164 |
| 寄附金収入 | 650 | 776 | 126 |
| 投資活動による収入 | 1,810 | 2,007 | 197 |
| 施設整備補助金による収入 【注4】 | 1,810 | 2,007 | 197 |
| 資金増減額 | | △790 | |
| 資金期首残高 | | 4,753 | |
| 資金期末残高 | | 3,963 | |

主な増減理由

【注 1】 運営費交付金の前期繰越額による美術品・収蔵品の購入等による。

【注 2】 平成 29 年度末に竣工した工事等の支払及び平成 30 年度期中の建物等有形固定資産の取得による。

【注 3】 入場料収入等の増加による。

【注 4】 平成 29 年度に竣工した工事に係る施設整備費補助金の精算に伴い一部が平成 30 年度の収入となったこと及び平成 30 年度に予算措置された施設整備費補助金の概算払に伴い一部が平成 30 年度の収入となったことによる。

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

6 貸借対照表

(単位：百万円)

| 資産の部 | | 負債及び純資産の部 | |
|-----------|---------|--------------|---------|
| 資産の部 | | 負債の部 | |
| Ⅰ 流動資産 | 5,192 | Ⅰ 流動負債 | 4,102 |
| Ⅱ 固定資産 | | Ⅱ 固定負債 | 629 |
| 1. 有形固定資産 | 195,044 | | |
| 2. 無形固定資産 | 26 | 負債合計 | 4,732 |
| 固定資産合計 | 195,070 | | |
| | | 純資産の部 | |
| | | Ⅰ 資本金 | 81,019 |
| | | Ⅱ 資本剰余金 | 113,043 |
| | | Ⅲ 利益剰余金 | 1,468 |
| | | 純資産合計 | 195,531 |
| 資産の部 合計 | 200,263 | 負債及び純資産の部 合計 | 200,263 |

※金額は単位未満四捨五入のため、合計等が合致しない場合がある。

7 短期借入金

実績なし。

8 重要な財産の処分等

実績なし。

9 剰余金

(1) 当期末処分利益の処分計画

(単位：円)

| 区分 | 金額 |
|---|-------------|
| Ⅰ 当期末処分利益 | 263,883,236 |
| 当期総利益 | 263,883,236 |
| Ⅱ 利益処分量 | |
| 独立行政法人通則法第44条第3項により 主務大臣の承認を受けようとする額 | 263,883,236 |

平成30年度未処分利益については、中期計画の剰余金の使途において定めた美術作品の購入・修理、展覧会事業の充実、調査研究事業の充実、情報・資料の収集等事業の充実、教育普及事業の充実、研修事業の充実、入館者サービスの充実及び施設・設備の充実に充てるため、独立行政法人通則法（平成十一年七月十六日法律第百三十三号）第44条第3項に定める目的積立金として申請する。

(2) 利益の生じた主な理由

予算額を上回った自己収入があったことによる。

特記事項

国立西洋美術館で開催した「ルーベンス展ーバロックの誕生」（目標175,000人、実績331,302人）、国立新美術館で開催した「ルーヴル美術館展 肖像芸術ー人は人をどう表現してきたか」（目

標 333,000 人、実績 422,067 人) など、多くの展覧会で目標を上回る入館者があったことから入場料収入が増加した。

(3) 目的積立金の使用状況

目的積立金について、平成 30 年度は以下のとおり使用した。

| 区 分 | 金額 (円) | 使用内容 |
|--------------|------------|------------------------------------|
| 前中期目標期間繰越積立金 | 27,900,800 | 教育普及事業に係る経費、ファイナンスリース損益相当額、固定資産の取得 |
| 資料収集事業積立金 | 313,200 | 資料収集事業に係る経費 |
| 施設設備積立金 | 972,240 | 施設の整備に係る経費 |
| 計 | 29,186,240 | |

(4) 積立金 (通則法第 44 条第 1 項) の状況

(単位：円)

| 使途の内訳 | 期首残高 | 当期増加額 | 当期減少額 | 期末残高 |
|--------------|-------------|-------------|------------|-------------|
| 積立金 | 201,730,763 | 107,679,056 | 0 | 309,409,819 |
| 前中期目標期間繰越積立金 | 502,448,198 | 0 | 27,900,800 | 474,547,398 |
| 目的積立金 | 214,640,870 | 207,132,737 | 1,285,440 | 420,488,167 |

平成 30 年度未処分利益については、中期計画の剰余金の使途において定めた美術作品の購入・修理、展覧会事業の充実、調査研究事業の充実、情報・資料の収集等事業の充実、教育普及事業の充実、研修事業の充実、入館者サービスの充実及び施設・設備の充実に充てるため、独立行政法人通則法 (平成十一年七月十六日法律第百三号) 第 44 条第 3 項に定める目的積立金として申請する。

また、平成 29 年度未処分利益 314,811,793 円のうち 207,132,737 円が目的積立金として承認を受けた。

IV その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 内部統制・ガバナンスの強化

(1) 内部統制の充実・強化

① 理事長がリーダーシップを発揮できる環境の整備

理事長がリーダーシップを発揮できる環境を整備するため、前年度に引き続き理事長裁量経費を計上している。また、理事長のガバナンスを強化するため、理事長及び理事をもって組織し、国立美術館の運営に関する基本方針のほか、中期計画・業務評価・予算・人事等の重要事項を審議し、理事長の意思決定を補佐する理事会を6回開催した。

そのほか、平成29年度に制定された「独立行政法人国立美術館内部統制規則」に基づき、国立美術館に対する社会的信頼の確保及び国立美術館における内部統制の推進のため、国立美術館内部統制委員会を2回開催した。本委員会では、国立美術館各館の内部統制実施状況や課題を共有し、内部統制機能の強化に努めた。

更に、外部の有識者で組織し、国立美術館の管理運営に関する重要事項について理事長の諮問に応じて審議し、理事長に対して助言する独立行政法人国立美術館運営委員会を2回開催し、平成29年度事業実績並びに、平成30年度事業の実施状況及び令和元年度事業計画（案）について説明聴取の上、意見交換を行った。また、外部有識者で構成し、国立美術館の単年度ごとの業務の実績に関する評価を行う独立行政法人国立美術館外部評価委員会を2回開催し、平成29年度事業実績について説明聴取の上、審議し外部評価報告書を取りまとめている。外部評価報告書については法人ホームページにて公表している。

② 組織全体で取り組むべき重要な課題（リスク）の把握

法人内の会議（館長等会議，研究系管理職を中心とした学芸課長会議，事務系管理職を中心とした運営管理会議）において情報共有及びリスクの把握に努めているほか、法人全体で取り組むべき重要な課題（リスク）に対応するため、リスク管理委員会を2回開催し、法人として優先して対応するべきリスク4件について、法人としてのリスク管理計画を策定した。今後、それぞれのリスク管理計画を実施するとともに、優先度の低いリスクについても順次管理計画を立ててゆくこととなっている。

そのほか、外部有識者で構成する運営委員会や外部評価委員会の開催を通じて、外部の視点からのリスクの把握に努めるとともに、監事や会計監査人との意見交換を通じて法人運営に影響を及ぼすリスクの把握に努めている。

(2) 情報管理の安全性向上

情報セキュリティに関する事務を統括する責任者として、新たに副CISO（最高情報セキュリティ副責任者）を設置し、情報資産の安全な運用管理のための組織体制を強化した。

CISO及び副CISOは情報資産の安全な運用管理実現のために、平成30年度に改定された「政府機関等の情報セキュリティ対策のための統一基準群」に基づき、本部情報企画室に必要な指示を出して法人の情報セキュリティ体制の整備を進めるとともに、情報セキュリティ委員会を開催し、国立美術館の情報セキュリティ対策実施状況の把握・情報セキュリティ対策実施計画の協議及び推進を行うなど、情報セキュリティの実現に取り組んだ。

本部情報企画室においては、情報セキュリティに配慮して各システム・ネットワークを運用している。また、頻発している情報漏えい、情報改ざん等につながる悪意のあるソフトウェアが添付されたメール等への注意喚起等を適時適切に行うとともに、全職員を対象に情報セキュリティ研修として集合研修及び標的型メール訓練を実施した。

(3) 内部統制・ガバナンスの強化に係る取組状況の検証

① 監事監査

監事 2 名が館長等会議その他重要な会議に出席するほか、役職員から事業の報告を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、財務及び業務についての状況を調査している。また、会計監査人から会計監査人の監査方法及びその結果について説明を受け、会計帳簿等の調査を行い、財務諸表、事業報告書及び決算報告書について検討を加え、いずれも適正であることを確認するとともに、業務の執行に関する法令遵守等の状況についても確認している。

平成 30 年度においては 6 月 20 日に定期監査を実施したほか、各館に対し臨時監査を以下のとおり実施した。

平成 30 年 10 月 4 日：京都国立近代美術館

平成 30 年 11 月 6 日：国立国際美術館

平成 31 年 1 月 9 日：東京国立近代美術館

平成 31 年 1 月 17 日：国立西洋美術館

平成 31 年 1 月 23 日：国立映画アーカイブ、国立新美術館

なお、監査結果報告については速やかに法人内に周知している。また、報告書において意見が付された場合には、各館における対応状況を随時監事に報告している。

このほか、「独立行政法人、特殊法人等監事連絡会」総会及び第 3 部会へ監事 2 名が参加している。

② 内部監査

本部事務局、東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、国立映画アーカイブ、国立西洋美術館、国立国際美術館及び国立新美術館を対象として、契約方法の妥当性、固定資産等の管理、債権・債務の管理、前年度指摘事項のフォローアップ等について、監査員が以下のとおり実地監査に当たった。

平成 30 年 8 月 30 日：本部事務局、東京国立近代美術館

平成 30 年 9 月 5 日：京都国立近代美術館

平成 30 年 8 月 21 日：国立映画アーカイブ

平成 30 年 8 月 22 日：国立西洋美術館

平成 30 年 9 月 27 日：国立国際美術館

平成 30 年 8 月 29 日：国立新美術館

なお、監査結果報告については速やかに理事長、監事、理事及び各館長へ周知している。また、監査結果報告書において意見が付された場合には、改善措置を講じている。

2 施設・設備に関する計画

国立美術館防災減災対策等工事を平成 30 年度に竣工した。また、平成 19 年度から継続している国立新美術館の土地購入を予算措置に応じて行った。

3 人事に関する計画

(1) 職員の研修等

① 職員研修の実施（括弧内は参加人数）

・「平成 30 年度接遇・クレーム対応研修」（29 人）

・「情報セキュリティ研修」（283 人）

・「平成 30 年度メンタルヘルス・ハラスメント研修」（30 人）

このほか、産業医による個別面談により、職員のメンタルヘルスケアを実施した。

② 外部の研修への派遣（括弧内は参加人数）

ア 東京国立近代美術館

・東京大学主催「平成 30 年度東京大学職員階層別研修」（1 人）

- ・国立公文書館主催「平成 30 年度公文書管理研修 I」 (3 人)
- ・一般財団法人公務人材開発協会人事行政研究所主催
「勤務時間・休暇関係実務研修会」 (1 人) , 「給与実務研修会」 (1 人)
- イ 京都国立近代美術館
 - ・奈良先端科学技術大学院大学主催「ビジネスマナー研修」 (2 人)
 - ・日進サイエンティア主催「第 11 回人事・給与統合システム (U-PDS) 研修会」 (2 人)
 - ・近畿管区行政評価局主催「情報公開・個人情報保護制度の運用に関する研修会」 (1 人)
 - ・国立公文書館主催「公文書管理研修 I 独法向け第 2 回」 (1 人)
 - ・奈良先端科学技術大学院大学主催「生産性向上研修」 (1 人)
 - ・京都市主催「京都観光おもてなし講習会」 (1 人)
 - ・ICOM 京都大会 2019 京都推進委員会主催「博物館・美術館向け多言語化対応研修会」 (2 人)
 - ・総務省行政評価局主催「平成 30 年度政策評価に関する統一研修 (中央研修)」 (1 人)
 - ・東京文化財研究所主催「平成 30 年度防災ネットワーク推進事業研修会」 (1 人)
- ウ 国立西洋美術館
 - ・文化庁主催「第 8 回ミュージアムエデュケーター研修」 (1 人)
 - ・文化庁・千葉市主催「平成 30 年度著作権セミナー」 (1 人)
 - ・東京大学主催「平成 30 年度東京大学次世代リーダー育成研修」 (1 人)
 - ・警視庁上野警察署主催「新幹線を利用したテロ対処訓練」 (1 人)
 - ・警視庁上野警察署主催「テロ対処合同訓練」 (1 人)
- エ 国立国際美術館
 - ・人事院近畿事務局主催「第 80 回近畿地区中堅係員研修」 (1 人)
 - ・人事院近畿事務局主催「第 51 回近畿地区係長研修」 (1 人)
 - ・総務省主催「政策評価に関する統一研修」 (e-ラーニングのみ) (1 人)
 - ・文化庁主催「平成 30 年度図書館等職員著作権実務講習会」 (1 人)
 - ・総務省近畿管区行政評価局主催「情報公開・個人情報保護制度の運用に関する研修会」 (1 人)
 - ・国立公文書館主催「平成 30 年度公文書管理研修 I」 (1 人)
 - ・奈良先端科学技術大学院大学主催「生産性向上研修」 (1 人)
 - ・全国美術館会議主催「第 33 回学芸員研修会」 (3 人)
 - ・中之島まちみらい協議会主催「平成 30 年度 中之島都市安全確保促進事業 中之島エリアの防災ワークショップ」 (2 人)
- オ 国立新美術館
 - ・財務省会計センター主催「第 47 回会計事務職員契約管理研修」 (1 人)
 - ・文化庁主催「平成 30 年度図書館等職員著作権実務講習会」 (1 人)
 - ・警視庁麻布警察署主催「テロ対策合同訓練」 (1 人)

(2) 人員に係る指標

職種別人員の増減状況 (過去 5 年分)

(単位：人)

| 職種 | 平成 26 年度 | 平成 27 年度 | 平成 28 年度 | 平成 29 年度 | 平成 30 年度 |
|-------------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 定年制研究系職員 | 50 | 49 | 55 | 54 | 56 |
| 定年制事務系職員 | 47 | 49 | 48 | 50 | 53 |
| 定年制技能・労務系職員 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 |
| 指定職相当職員 | 2 | 2 | 2 | 4 | 5 |

「公務員の給与改定に関する取扱いについて (平成 18 年 10 月 17 日閣議決定)」に基づき、公務員の例に準じて措置、対処している。

事務系職員については、文化庁、国立大学法人及び他の独立行政法人との間で定期的な人事交流を行い、組織の効率化と個々の職員の能力の発揮とその向上を考慮して人事配置を行った。

4 関連公益法人

該当なし

5 東京国立近代美術館工芸館の移転に向けた準備

移転開館後に移転先施設を美術館として活用するための施設整備や、運営協力、移転する作品等について協議を行っている。

また、平成30年4月13日に東京国立近代美術館内に工芸館移転準備室会議を設置した。平成30年度は計10回の会議を開催し、移転に関する課題の検討、整理及び運営方法等の協議を行っている。

さらに、平成31年1月4日に、東京国立近代美術館工芸館の石川県への移転に係る協議の経過について記者発表を行った。報道発表では、移転する工芸作品の概要や、移転後の通称、移転後の組織体制の方向性及び移転の機運醸成のための連携事業の実施等について公表した。

そのほか、東京国立近代美術館工芸館の石川県への移転に向けた機運醸成のため、石川県内の美術館との共催等による連携展覧会を実施し、移転先地域との連携を強化した（再掲）。詳細は別表5②及び③のとおり。

別表1 所蔵作品展

| 館名 | 開催日数 | 展示替回数 | | 出品数 (点) | 入館者数 | | 満足度* | | |
|-----------|------|--------------|-------------|------------|--------------|------------------|----------------|--------------|--------------|
| | | 実績 (回) | 目標 (回程度) | | 実績 | 目標 | 実績 | 目標 | |
| 東京国立近代美術館 | 本館 | 注1 292 | 6 | 4 | 1,590 | 301,889 | 184,000 | 80.8% | 88.4% |
| | 工芸館 | 153 | 2 | 3 | 412 | 49,184 | 40,500 | 88.2% | 88.5% |
| 京都国立近代美術館 | | 注2 285 | 5 | 5 | 824 | 419,725 | 118,000 | 68.5% | 54.8% |
| 国立西洋美術館 | | 290 | 6 | 5 | 1,225 | 546,836 | 321,500 | 92.0% | 89.0% |
| 国立国際美術館 | | 注3 180 | 3 | 3 | 286 | 143,382 | 102,500 | 67.9% | 55.7% |
| 計 | | 1,200 | 22 | 20 | 4,337 | 1,461,016 | 766,500 | 80.3% | 67.4% |

※「満足度」とは、アンケートによる満足度調査における「良い」以上の回答率を指す。以下同じ。

【注1】 臨時開館したため（12月3日）、開催日数が当初予定の291日から変更となった。

【注2】 臨時閉館したため（9月4日、9月30日、2月26～3月3日、3月6日、3月7日）、開催日数が当初予定の295日から変更となった。

【注3】 臨時開館（8月13日、9月18日、10月9日）及び臨時閉館（9月4日、9月30日）をしたため、開催日数が当初予定の179日から変更となった。

別表2 企画展

※以下の表の（ ）内は会期全体の数値、（継続）は平成30年度に継続開催する展覧会を意味する。

| 館名 | 展覧会名 | 開催日数 | 入館者数 | | 満足度 | | 企画観点 | 共催者 |
|--------------------|---|------------|--------------------|--------------------|-------|-------|------|---|
| | | | 実績 | 目標 | 実績 | 目標 | | |
| 東京国立近代美術館 (本館) | ①生誕150年 横山大観展 | 40 | 170,157 | 150,000 | 84.2% | 89.8% | ニ | 京都国立近代美術館, 日本経済新聞社, 毎日新聞社 |
| | ②ゴードン・マッタ＝クラーク展 | 79 | 42,004 | 35,000 | 82.9% | | ロ | — |
| | ③アジアにめざめたら: アートが変わる, 世界が変わる 1960-1990年代【注1】 | 67 | 20,802 | 20,000 | 79.4% | | イロニ | 国際交流基金アジアセンター, 韓国国立現代美術館, ナショナル・ギャラリー・シンガポール |
| | ④福沢一郎展 このどうしようもない世界を笑いとばせ | 19 (69) | 5,104 (継続) | 5,000 | 未実施 | | ニ | — |
| | 計 | 205 | 238,067 | 210,000 | 82.9% | 89.8% | | 開催数4回 (目標: 5回程度) |
| 東京国立近代美術館 (工芸館) | ①日本・スウェーデン外交関係樹立150周年 インゲヤード・ローマン展【注2】 | 76 | 20,382 | 18,000 | 83.0% | 88.0% | イ | スウェーデン国立美術館 |
| | ②イメージコレクター・杉浦非水展 | 45 (94) | 15,620 (継続) | 19,000 (40,000) | 未実施 | | ニホ | — |
| | ③The 備前一土と炎から生まれる造形美 | 34 (67) | 6,745 (継続) | 6,000 (12,000) | 未実施 | | ホ | NHK, NHKプラネット |
| | 計 | 155 | 42,747 | 43,000 | 83.0% | 88.0% | | 開催数3回 (目標: 4回程度) |
| 京都国立近代美術館 | ①明治150年展 明治の日本画と工芸 | 44 (55) | 27,292 (32,219) | 11,000 (14,000) | 93.6% | 77.6% | ニ | 京都新聞 |
| | ②生誕150年 横山大観展 | 39 | 124,965 | 100,000 | 84.8% | | ホ | 東京国立近代美術館, 日本経済新聞社, 毎日新聞社 |
| | ③バウハウスへの応答【注3】 | 55 | 158,969 | 30,000 | — | | イニ | バウハウス協会ベルリン・デッサウ・ヴァイマル, ゲーテ・インスティトゥート, 世界文化の家 |

| | | | | | | | | |
|---------|--|------------|----------------------|----------------------|-------|-------|--------|--|
| | ④生誕 110 年 東山魁夷展【注 4】 | 34 | 152,131 | 120,000 | 88.8% | | ホ | 日本経済新聞社, テレビ大阪 |
| | ⑤没後 50 年 藤田嗣治展 | 51 | 128,283 | 100,000 | 92.6% | | ホ | 朝日新聞社, NHK京都放送局, NHKプラネット近畿 |
| | ⑥世紀末ウィーンのグラフィック デザインそして生活の刷新にむけて | 38 | 21,148 | 10,000 | 79.1% | | ニ | 読売新聞社 |
| | ⑦京都の染織 1960 年代から今日まで【注 5】 | 21 (33) | 6,477 (継続) | 6,000 (10,000) | 80.3% | | ニ | 京都新聞 |
| | 計 | 227 | 460,296 | 347,000 | 87.7% | | 77.6% | 開催数7回 (目標: 6回程度) |
| 国立西洋美術館 | ①日本スペイン外交関係樹立 150 周年記念 プラド美術館展 ベラスケスと絵画の栄光 | 50 (82) | 188,127 (295,517) | 200,000 (328,000) | 83.0% | 79.5% | イ ロ | プラド美術館, 読売新聞社, 日本テレビ放送網, BS日テレ |
| | ②ミケランジェロと理想の身体 | 87 | 196,746 | 220,000 | 88.0% | | ロ | NHK, NHKプロモーション, 読売新聞社 |
| | ③ルーベンス展—バロックの誕生 | 81 | 331,302 | 175,000 | 82.7% | | ホ | TBS, 朝日新聞社 |
| | ④国立西洋美術館開館 60 周年記念 ル・コルビュジエ 絵画から建築へ—ピュリスムの時代 | 37 (80) | 76,154 (継続) | 55,000 (140,000) | 未実施 | | イ | ル・コルビュジエ財団, 東京新聞, NHK |
| | 計 | 255 | 792,329 | 650,000 | 83.6% | | 79.5% | 開催数4回 (目標: 4回程度) |
| 国立国際美術館 | ①開館 40 周年記念展「トラベラー: まだ見ぬ地を踏むために」 | 32 (92) | 14,038 (33,889) | 10,000 (28,000) | 68.5% | 71.0% | ロ | — |
| | ②視覚芸術百態: 19 のテーマによる 196 の作品 | 32 | 14,613 | 8,000 | 84.7% | | ロ | — |
| | ③プーシキン美術館展—旅するフランス風景画【注 6】 | 75 | 174,443 | 138,000 | 87.9% | | イ | 朝日新聞社, 関西テレビ放送, BS朝日, プーシキン美術館, ロシア連邦文化省 |
| | ④ニュー・ウェイブ 現代美術の 80 年代 | 61 | 19,488 | 13,000 | 76.6% | | ニ | — |
| | ⑤クリスチャン・ボルタンスキー — Lifetime | 44 (76) | 25,103 (継続) | 10,000 (18,000) | 未実施 | | イ | 朝日新聞社 |
| | 計 | 244 | 247,685 | 179,000 | 79.5% | | 71.0% | 開催数5回 (目標: 6回程度) |
| 国立新美術館 | ①至上の印象派展 ビュールレ・コレクション【注 7】 | 33 (73) | 207,626 (366,777) | 133,000 (300,000) | 89.0% | 86.6% | ロ | 東京新聞, NHK, NHKプロモーション |
| | ②こいのぼりなう! 須藤玲子×アドリアン・ガルドール×齋藤精一によるインスタレーション | 43 | 84,700 | 90,000 | 92.8% | | ロ | — |
| | ③ルーヴル美術館展 肖像芸術—人は人をどう表現してきたか | 85 | 422,067 | 333,000 | 87.6% | | イ | ルーヴル美術館, 日本テレビ放送網, 読売新聞社, BS日テレ |
| | ④第 21 回 文化庁メディア芸術祭 受賞作品展 | 11 | 27,762 | 45,000 | — | | ハ | 文化庁メディア芸術祭実行委員会 |

| | | | | | | | |
|--|------------|----------------|---------------------|-------|-------|--------|---------------------------------|
| ⑤彼女と。 | 18 | 26,276 | 38,000 | 93.3% | | ロ | エルメス |
| ⑥荒木飛呂彦原画展 JOJO 冒険の波紋 | 36 | 147,413 | 111,000 | 94.5% | | ハ | 集英社 |
| ⑦オルセー美術館特別企 画 ピエール・ボナール展 | 72 | 182,103 | 232,000 | 89.2% | | イ ニ | オルセー美術館, 日本経済新聞社 |
| ⑧生誕 110 年 東山魁夷展 | 36 | 240,623 | 210,000 | 93.9% | | イ | 日本経済新聞社, テレビ東京, BSテレビ東京 |
| ⑨未来を担う美術家たち 21st DOMANI・明日展 文化庁新進芸術家海外 研修制度の成果【注 8】 | 35 | 16,532 | 22,000 | 79.2% | | ハ | 文化庁 |
| ⑩イケムラレイコ 土と 星 Our Planet【注 9】 | 63 (64) | 25,205 (継続) | 19,000 (20,000) | 未実施 | | イ | バーゼル美術館 |
| ⑪トルコ文化年 2019 トル コ至宝展 チューリップ の宮殿 トプカプの美 | 11 (55) | 20,572 (継続) | 23,000 (115,000) | 未実施 | | イ ロ | トルコ共和国大使館, 日本経済新聞社, TBS, BS-TBS |
| 計 | 443 | 1,400,879 | 1,256,000 | 91.1% | 86.6% | | 開催数11回 (目標: 9回程度) |
| 合計 | 1,529 | 3,182,003 | 2,685,000 | 86.3% | 82.1% | | 開催数34回 (目標: 34回程度) |

【注 1】 臨時閉館したため (12月3日), 開催日数が当初予定の 66 日から変更となった。

【注 2】 臨時閉館したため (12月3日), 開催日数が当初予定の 75 日から変更となった。

【注 3】 コレクション・ギャラリーの一部を使って開催した展覧会のため, 開催日数, 入館者数及び目標数はそれぞれの合計に含めない。
また, 同様の理由から, この展覧会に限った満足度調査を実施することが困難であるため, 満足度調査を実施していない。そのほか, 臨時閉館したため (9月4日, 9月30日), 開催日数が当初予定の 57 日から変更となった。

【注 4】 臨時閉館したため (9月4日, 9月30日), 開催日数が当初予定の 36 日から変更となった。

【注 5】 会期が (3月15日~3月31日) から, (3月8日~3月31日) へ変更となったため, 開催日数が当初予定の 15 日から変更となった。

【注 6】 臨時閉館 (8月13日, 9月18日, 10月9日) 及び臨時閉館 (9月4日, 9月30日) をしたため, 開催日数が当初予定の 74 日から変更となった。

【注 7】 臨時閉館したため (5月1日), 開催日数が当初予定の 72 日から変更となった。

【注 8】 会期が (1月12日~3月3日) から, (1月23日~3月3日) へ変更となったため, 開催日数が当初予定の 44 日から変更となった。

【注 9】 会期が (1月23日~3月31日) から, (1月18日~3月31日) へ変更となったため, 開催日数が当初予定の 59 日から変更となった。

別表 3 映画上映会 (国立映画アーカイブ)

| タイトル | 会場 | 上映 日数 | 上映 回数 | 入館者数 | | 満足値 | | 企画 観点 | 共催者 |
|---|------------|----------|----------|--------|--------|-------|-------|----------|-----------------------------------|
| | | | | 実績 | 目標 | 実績 | 目標 | | |
| ①国立映画アーカイブ開館記念 映画を残す, 映画を活かす。 | OZU ホール | 12 | 24 | 3,218 | 4,000 | 97.4% | | ニ | — |
| ②国立映画アーカイブ開館記念 映画にみる明治の日本 | OZU ホール | 36 | 72 | 10,260 | 8,500 | 89.2% | | ニ | — |
| ③EU フィルムデーズ 2018 | OZU ホール | 23 | 55 | 10,037 | 10,500 | 90.1% | 85.4% | ニ | 駐日欧州連合代表 部, EU 加盟国大使 館・文化機関 |
| ④国立映画アーカイブ開館記念 日本におけるロシア年 2018 ロ シア・ソビエト映画祭 | OZU ホール | 24 | 48 | 8,232 | 7,500 | 88.8% | | ニ | ロシア文化フェステ イバル組織委員会 |

| | | | | | | | | |
|--|------------|-----|-----|--------|--------|-------|--------|---|
| ⑤ 国立映画アーカイブ開館記念 第40回ぴあフィルムフェスティバル | OZU ホール | 13 | 46 | 6,567 | 4,500 | 89.1% | ロ ニ | 一般社団法人 PFF, 公益財団法人川喜多 記念映画文化財団, 公益財団法人ユニジ ャパン |
| ⑥ 国立映画アーカイブ開館記念 映画を残す, 映画を活かす。—無 声映画篇— | OZU ホール | 6 | 12 | 1,484 | 1,500 | 95.5% | ニ | — |
| ⑦ NFAJ 所蔵 現代アメリカ映画 選集 | OZU ホール | 10 | 20 | 2,843 | 3,500 | 88.9% | ニ | — |
| ⑧ 国立映画アーカイブ開館記念 生誕100年 映画美術監督 木村 威夫 | OZU ホール | 18 | 42 | 6,023 | 4,500 | 97.0% | ニ | — |
| ⑨ 日本・スウェーデン外交関係樹 立150周年 スウェーデン映画 への招待 | OZU ホール | 23 | 48 | 6,699 | 6,000 | 95.9% | ニ | スウェーデン映画協 会 |
| ⑩ 国立映画アーカイブ開館記念 映画プロデューサー 黒澤満 | OZU ホール | 18 | 41 | 5,387 | 6,000 | 95.4% | ニ | — |
| ⑪ 国立映画アーカイブ開館記念 アンコール特集 | 小ホール | 17 | 24 | 2,325 | 2,500 | 93.2% | ニ | — |
| ⑫ 国立映画アーカイブ開館記念 シネマ・エッセンシャル 2018 | 小ホール | 12 | 24 | 3,170 | 2,500 | 97.1% | ニ | — |
| 計 | | 212 | 456 | 66,245 | 61,500 | 92.1% | 85.4% | 開催数12回 (目標: 13回程度) |

別表4 展覧会（国立映画アーカイブ）

| 展覧会名 | 日数 | 入館者数 | | 満足度 | | 企画 観点 | 共催者 |
|--|-----|--------|--------|-------|-------|----------|---------------------|
| | | 実績 | 目標 | 実績 | 目標 | | |
| ① 国立映画アーカイブ開館記念 没後 20年 旅する黒澤明 植田寿文ポス ター・コレクションより | 128 | 10,333 | 8,000 | 96.7% | 86.4% | ニ | — |
| ② 国立映画アーカイブ開館記念 生誕 100年 映画美術監督 木村威夫 | 81 | 4,490 | 4,500 | 91.2% | | ニ | — |
| 計 | 209 | 14,823 | 12,500 | 95.3% | 86.4% | | 開催数2回 (目標: 3回程度) |

別表5 地方巡回展・巡回上映等

| 企画館 | 展覧会名 | 開催館 | 開催日数 | 入館者数 |
|-----------------------------|-------------------------------------|-----------------------|------|--------|
| 国立美術館 (担当館: 国立 国際美術館) | ① 国立国際美術館コレクション: 美術のみかた 自由自在 | ① 福岡県立美術館 | 37 | 4,745 |
| | ① 国立国際美術館コレクション: 美術のみかた 自由自在 | ② 豊橋市美術博物館 | 32 | 5,336 |
| | 計 | | 69 | 10,081 |
| 東京国立 近代美術館 (工芸館) | ① 東京国立近代美術館工芸館名品展 多彩なる 近現代工芸の煌めき | ① 江別市セラミックア ートセンター | 64 | 2,840 |
| | ① 東京国立近代美術館工芸館名品展 多彩なる 近現代工芸の煌めき | ② まなびあテラス 東根 市美術館 | 48 | 1,824 |

| | ①東京国立近代美術館工芸館名品展 多彩なる近現代工芸の煌めき | ③瀬戸市美術館 | 68 | 2,037 |
|-----------|--|--------------|------|--------|
| | ②東京国立近代美術館工芸館移転連携事業 近代工芸のススメ | ④石川県輪島漆芸美術館 | 45 | 6,777 |
| | ②東京国立近代美術館工芸館移転連携事業 か・た・ちをめぐる冒険 | ⑤小松市立本陣記念美術館 | 44 | 1,599 |
| | ③東京国立近代美術館工芸館名品展 いろいろとすがた ガラス・染織・人形・金工から | ⑥石川県立美術館 | 31 | 6,887 |
| | 計 | | 300 | 21,964 |
| 合計 | | | 369 | 32,045 |
| 企画館 | タイトル | 会場数 | 開催日数 | 入館者数 |
| 国立映画アーカイブ | ① NFAJ 国立映画アーカイブ開館記念 MoMAK Films 2018 | 1 | 8 | 314 |
| | ②平成30年度優秀映画鑑賞推進事業 | 154 | 290 | 64,409 |
| | ③F シネマ・プロジェクト こども映画館 スクリーンで見る日本アニメーション! | 10 | 17 | 2,336 |
| | ④東京国際フォーラム+国立映画アーカイブ 月曜シネサロン&トーク | 1 | 4 | 1,022 |
| | ⑤日本・スウェーデン外交関係樹立150周年 スウェーデン映画への招待【注】 | 1 | 18 | 1,764 |
| | ⑥第17回 中之島映像劇場「回想の岩佐寿弥」 | 1 | 2 | 328 |
| 計 | | 168 | 339 | 70,173 |

【注】プログラムの一部を「①NFAJ 国立映画アーカイブ開館記念 MoMAK Films 2018」として実施しているため、重複する分については会場数、開催日数及び入館者数をそれぞれの合計に含めていない。

別表6 調査研究一覧

| ア 東京国立近代美術館 | | | |
|-------------|-----------------------------------|--|-------------------------------------|
| (本館) | | | |
| | 調査研究テーマ | 美術館活動への反映 | 連携機関 |
| 1 | 横山大観と明治の日本画に関する調査研究 | 企画展「生誕150年 横山大観展」を企画構成、開催、図録を発行 | 京都国立近代美術館 |
| 2 | 1960-1990年代のアジアの美術に関する調査研究 | 企画展「アジアにめざめたら：アートが変わる，社会が変わる 1960-1990年代」展開催および韓国，シンガポールへの国際巡回 | 韓国国立現代美術館，ナショナル・ギャラリー・シンガポール，国際交流基金 |
| 3 | 福沢一郎と戦前の前衛美術に関する調査研究 | 企画展「福沢一郎：このどうしようもない世界を笑い飛ばせ」展開催予定（2019年3月-5月） | 富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館，（財）福沢一郎記念美術財団 |
| 4 | 日本のアニメーション草創期における美術作品の影響についての調査研究 | 企画展「高畑勲展（仮称）」開催予定（2019年7～10月） | ジブリ美術館，叶精二 |
| 5 | 美術における窓についての調査研究 | 企画展「窓展（仮称）」開催予定（2019年11月～2020年2月） | （財）窓研究所 |
| 6 | ピーター・ドイグと1990年代以降の絵画動向に関する調査研究 | 企画展「ピーター・ドイグ展（仮称）」開催予定（2020年3月～2021年5月） | — |
| 7 | 2000年代の建築における公共性についての調査研究 | 企画展「隈研吾展（仮称）」開催予定（2020年7月～10月） | 隈研吾建築都市設計事務所 |

| | | | |
|----|--|--|----------------------------|
| 8 | 美術における夢と眠りについての調査研究 | 企画展「6 館展（仮称）」開催予定（2020 年 11 月～2021 年 2 月） | 各国立美術館 |
| 9 | MOMAT コレクション | 所蔵作品展「MOMAT コレクション」を開催 | — |
| 10 | MOMAT コレクション 特集：美術館の春まつり | 所蔵作品展「MOMAT コレクション 特集：美術館の春まつり」を開催 | — |
| 11 | コレクションによる小企画 瀧口修造の眼差しと思考（仮称） | コレクションによる小企画「瀧口修造と彼が見つめた作家たち」を開催し小冊子を発行 | — |
| 12 | コレクションによる小企画 遠くへ行きたい（仮称） | コレクションによる小企画「遠くへ行きたい」を開催し小冊子を発行 | — |
| 13 | 明治後期の美術 | 所蔵作品展「MOMAT コレクション」内で開催 | — |
| 14 | デイヴィッド・スミスを中心とした戦後彫刻の展開 | 所蔵作品展「MOMAT コレクション」内で開催 | — |
| 15 | 軍用機献納作品展（1942 年）の出品作品 | 所蔵作品展「MOMAT コレクション」内で開催 | — |
| 16 | デジタルカメラによる作品撮影及び画像アーカイブ構築のための撮影機材の比較 | 所蔵作品をサンプルとした撮影データの蓄積と分析 | 西川茂（写真家） |
| 17 | 児童生徒を対象とする所蔵作品の鑑賞教育の推進に関する調査研究 | 東京都の高校生と教員に向けた 1 日研修（2018 年 8 月） | 東京都高校美術工芸研究会 |
| 18 | 国立美術館の公開情報資源を一元的に検索・閲覧できるゲートウェイシステムの開発、ならびに国立国会図書館サーチおよび文化庁文化遺産オンラインとの連携の継続・維持 | 国立美術の公開情報資源の多面的かつ広範な検索可能性の実現 | — |
| 19 | アート・ディスカバリー・グループ目録への参加可能性の検討 | 国立美術館所蔵図書資料等の書誌情報の世界発信 | — |
| 20 | 所蔵作品に関する公開データの拡充（独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムでの公開を目標に） | 国立美術館所蔵作品情報の精緻化と世界標準化 | — |
| 21 | エントランスホール等共用部の環境整備に関する調査 | 発達年齢に沿った教育プログラムの展開 | 西澤徹夫建築設計事務所 |
| 22 | 美術館の非来館者層に関する動向調査 | 分析結果の法人内共有と広報戦略立案及び活動での活用 | 株式会社インテージ |
| 23 | 1968 年の美術 | 所蔵作品展「MOMAT コレクション」内で開催 | — |
| 24 | 英語による対話型異文化交流プログラムの実施に向けた調査研究 | 英語による異文化交流プログラム「Let's Talk Art!」実施予定（2019 年 3 月～） | 大高 幸 |
| 25 | 美術館の所蔵作品を活用した探究的名鑑賞教育プログラムの開発に向けた調査研究 | 所蔵作品による鑑賞教材ウェブプログラムの制作（2019 年度予定） | 科学研究費補助金 |
| 26 | ビジネスパーソン対象鑑賞プログラムの実施に向けた調査研究 | プログラムトライアルの実施 | 山口 周 |
| 27 | 「アジアにめざめたら：アートが変わる，社会が変わる 1960-1990 年代」展開連企画の実施に向けた調査研究 | 資料展示「“めざめ”のその後：1990 年以降のアジアの美術を巡って」（2018 年 11 月 16 日（金）～12 月 22 日（土）於本館アートライブラリ）の開催 | 国際交流基金アジアセンター |
| 28 | ニュースサイトと SNS のモニター分析 | デジタル広報戦略（国内外でのプレスリリース配信やウェブ広告の効果検証および活動計画など）での活用 | メルトウォーター・ジャパン |
| 29 | 夜間開館 PR と複数館連携施策に関する調査研究 | 国立・都立・東京メトロ連携による謎解き鑑賞プログラム「7つの謎解きミステリーラリー」開催（2018 年 7～9 月）と、第 66 回全国博物館大会（2018 年 11 月）分科会における講演（参加者約 80 名） | 東京都歴史文化財団 東京メトロ（公財）日本博物館協会 |
| 30 | 海外向け広報に関する調査 | 海外向けプレスリリース配信及びウェブ広告等での活用 | 共同通信 PR ワイヤー |

| | | | |
|-------|---|--|--|
| 31 | 機関リポジトリ構築に向けた調査 | ウェブ上での刊行物等の公開準備 | — |
| 32 | 国立国会図書館提供の「デジタル化資料送信サービス(図書館送信)」導入に向けた調査 | 2019年1月より本館アートライブラリで利用者への提供開始 | — |
| 33 | 美術館の所蔵作品を活用した探求的な鑑賞教育プログラムの開発(科研費 基盤B 研究代表者: 一條彰子(平成28年~平成30年)) | シンガポール, ロンドン, 台湾の美術館教育調査。スクールプログラム, ウェブ教材への反映。 | 奥村高明(日体大), 東良雅人(国立教育研究所) |
| 34 | 戦後日本の前衛芸術のクロス・レファレンス的研究 1945-1955(科研費 基盤C 研究代表者: 大谷省吾 平成30年~33年) | 資料調査 | 五十殿利治(筑波大学), 西澤晴美(神奈川県立近代美術館) |
| 35 | 「第二次世界大戦下におけるピエール・マティス画廊の役割 —ヨーロッパとアメリカの美術交流を中心に—」(鹿島美術財団: 美術に関する調査研究助成 研究代表者: 長名大地, 平成30年~平成31年) | 資料整理の方法等をライブラリ業務に反映させた。 | — |
| 36 | 「建築の表象とグラフィックデザイン 建築展の分析を中心に」(DNP文化振興財団「グラフィック文化に関する学術研究助成 研究代表者: 保坂健二郎, 平成28年11月~平成31年3月) | ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展の調査, Het Nieuwe Instituut(ロッテルダム)でのアーカイブ調査, 『東京国立近代美術館研究紀要』23号にて研究成果の一部を発表。 | — |
| (工芸館) | | | |
| | 調査研究テーマ | 美術館活動への反映 | 連携機関 |
| 1 | 鈴木長吉と明治工芸 | 所蔵作品展「名工の明治」を企画構成, 開催 | — |
| 2 | 「こども×おとな工芸館」(発達段階に応じた鑑賞プログラムの開発) | 所蔵作品展「こどもとおとなのアツアツ工芸館」関連プログラムの企画構成, 開催, セルフガイド等印刷物の発行 | — |
| 3 | インゲヤード・ローマンとスウェーデンのデザイン | 企画展「インゲヤード・ローマン展」を開催, 図録発行 | スウェーデン国立美術館, スウェーデン大使館 |
| 4 | 杉浦非水と近代の図案 | 企画展「イメージコレクター・杉浦非水展」を企画構成, 開催, 図録発行 | 愛媛県美術館, 国立映画アーカイブ, 多摩美術大学 |
| 5 | 藁 | 所蔵作品展「近代工芸の名品—[特集展示]藁にまつわるエトセトラ」を企画構成, 開催 | — |
| 6 | 備前焼の歴史と作品 | 巡回展「The 備前—土と炎から生まれる造形美—」を企画構成, 開催, 図録発行 | 益子陶芸美術館, 山口県立萩美術館・浦上記念館, MIHO MUSEUM, 兵庫陶芸美術館, 岡山県立美術館, 愛知県陶磁美術館 |
| 7 | 近・現代漆芸の歴史と作品 | 工芸館移転連携事業「近代工芸のススメ」展の企画協力, 開催協力 | 石川県輪島漆芸美術館 |
| 8 | 近・現代陶磁の歴史と作品 | 工芸館移転連携事業「か・た・ち をめぐる冒険」展の企画協力, 開催協力 | 小松市立本陣記念美術館 |
| 9 | 近・現代工芸(ガラス・染織・人形・金工)の歴史と作品 | 工芸館移転連携事業「東京国立近代美術館工芸館名品展 いろどりとすがた ガラス・染織・人形・金工から」を企画構成, 開催 | 石川県立美術館 |
| 10 | 近・現代工芸の歴史と展開 | 工芸館巡回展「東京国立近代美術館工芸館名品展 多彩なる近現代工芸の煌めき」を企画協力, 開催協力 | 江別市セラミックアートセンター, 東根市美術館, 瀬戸市美術館 |
| 11 | 児童を対象とする工芸作品の鑑賞教育の推進 | 所蔵作品展「こどもとおとなのアツアツ工芸館」を企画構成, 開催 | 東京都図画工作研究会 |
| 12 | 工芸館石川移転に伴う環境整備 | 国立工芸館の建設 | 石川県, 金沢市 |
| 13 | 工芸館石川移転後の現工芸館建物利用計画の検討 | 現工芸館の建物利用計画について検討を進めた | — |
| 14 | 近・現代工芸における茶の湯のうつわ | 工芸館移転連携事業「茶の湯の道具 Modern & Classic」展の企画協力, 開催協力 | 金沢市立中村記念美術館 |

| イ 京都国立近代美術館 | | | |
|-------------|---|---|---|
| | 調査研究テーマ | 美術館活動への反映 | 連携機関 |
| 1 | 明治の日本画と工芸作品 | 企画展「明治150年展 明治の日本画と工芸」の開催 | — |
| 2 | 横山大観 | 企画展「生誕150年 横山大観展」の開催 | 東京国立近代美術館 |
| 3 | 日本におけるバウハウス:新建築工芸学院を中心に | 企画展「バウハウスへの応答」の開催 | 国立西洋美術館, 早稲田大学, 武蔵野美術大学美術館・図書館 |
| 4 | 東山魁夷 | 企画展「生誕110年 東山魁夷展」の開催 | 国立新美術館 |
| 5 | 藤田嗣治 | 企画展「没後50年 藤田嗣治展」の開催 | 東京都美術館 |
| 6 | 世紀末ウィーンのグラフィック | 企画展「世紀末ウィーンのグラフィック デザインそして生活の刷新にむけて」 | 目黒区美術館 |
| 7 | 京都の染織 | 企画展「京都の染織 1960年代から今日まで」の開催 | — |
| 8 | 児童生徒を対象とする鑑賞教育の推進 | 展覧会に関連したワークショップの開催 | 京都市図画工作教育研究会 |
| 9 | ユニバーサルな美術館体験プログラムに関する調査研究 | ユニバーサルな美術鑑賞プログラムの企画実施 | 京都教育大学, 京都市立芸術大学, 京都府立盲学校等 |
| 10 | 視覚障害者向け美術鑑賞ツールに関する調査研究および開発 | 所蔵作品紹介ツールの作成など | 京都教育大学, 国立民族学博物館 |
| 11 | 感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業 (「平成30年度文化庁 地域と協働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」採択事業 <実施中核館: 京都国立近代美術館>) | ユニバーサルな美術鑑賞プログラムの企画実施, 盲学校との連携事業, 所蔵品紹介ツールの作成など | 国立民族学博物館, 京都府立盲学校, 京都教育大学, 京都市立芸術大学ほか |
| ウ 国立映画アーカイブ | | | |
| | 調査研究テーマ | 美術館活動への反映 | 連携機関 |
| 1 | 映画の保存と活用 | — | — |
| 2 | 映画にみる明治の日本 | 上映会「映画にみる明治の日本」を企画構成, 開催 | — |
| 3 | ヨーロッパ諸国の映画 | 上映会「EUフィルムデイズ2018」を企画構成, 開催 | 駐日欧州連合代表部及びEU加盟国大使館・文化機関 |
| 4 | ロシア・ソビエトの映画 | 上映会「ロシア・ソビエト映画祭」を企画構成, 開催 | ロシア文化フェスティバル組織委員会 |
| 5 | 日本の自主映画 | 上映会「第40回びあフィルムフェスティバル」を企画構成, 開催 | 一般社団法人 PFF, 公益財団法人ユニジャパン, 公益財団法人川喜多記念映画文化財団 |
| 6 | 1918年, 1928年の劇映画 | 上映会「映画を残す, 映画を活かす。—無声映画篇—」を企画構成, 開催 | — |
| 7 | 1980年代以降のアメリカ映画 (「米国議会図書館所蔵のアメリカ映画」より変更) | 上映会「NFAJ 所蔵 現代アメリカ映画選集」を企画構成, 開催 | — |
| 8 | 美術監督 木村威夫の映画 | 上映会「生誕100年 映画美術監督 木村威夫」を企画構成, 開催 | — |
| 9 | トーキー以後のスウェーデン映画 | 上映会「スウェーデン映画への招待」を企画構成, 開催 | スウェーデン映画協会 |
| 10 | 映画プロデューサー 黒澤満の映画 | 上映会「映画プロデューサー 黒澤満」を企画構成, 開催 | — |
| 11 | 映画史上の映画 | 上映会「シネマ・エッセンシャル 2018」を企画構成, 開催 | — |
| 12 | 黒澤明監督作品とその宣伝美術 | 展覧会「没後20年 旅する黒澤明 榎田寿文ポスター・コレクションより」を企画構成, 開催 | — |
| 13 | 映画美術監督木村威夫 | 展覧会「生誕100年 映画美術監督 木村威夫」を企画構成, 開催 | 京都造形芸術大学芸術学部映画学科, 日本映画・テレビ美術監督協会 |

| | | | |
|------------------|---|---|--|
| 14 | 国際フィルム・アーカイブ連盟 (FIAF) 会員, その他同種機関, 現像所等からの情報に基づく, 未発見の日本映画フィルムの所在調査 | スウェーデン映画協会が所蔵する『スウェーデン皇太子殿下同妃殿下御来朝』(日活, 1926年)の複製購入等に反映された | FIAF 会員, 国内外の同種機関, 現像所 |
| 15 | 可燃性フィルムを含むフィルム映画及びデジタル映画の長期保管・保存・変換・登録, アナログ及びデジタル技術を活用した復元, 及び映写 | 『白蛇伝』(藪下泰司監督, 1958年)のデジタル復元等に反映された | FIAF 会員, 国内外の同種機関, 映画研究教育機関, 美術館・博物館, 映像機器メーカー, 現像所等 |
| 16 | 映画におけるデジタル保存と活用 | NFAJ アーカイブセミナー「ボーンデジタル映画の保存にむけて: 学生映画・大学篇」の開催等に反映された | FIAF 会員, 国内外の同種機関, 映画研究教育機関, IT 関連研究教育機関, 映画製作会社, 映画関連団体, 放送局, 映像機器メーカー, 現像所, IT 関連会社等 |
| 17 | 映画の収集のための原版の所在ならびに権利帰属等の情報収集と調査 | 「生誕 100 年 映画美術監督 木村威夫」等企画上映に伴う収集を含め新規フィルム購入に反映された | 映画製作会社等諸団体 |
| 18 | 映画資料を整理するとともに, その画像をデジタル化し, 活用することを目的とする事業 | 「デジタル資料閲覧システム」の構築, 「NFAJ デジタル展示室」の充実, 館外における 2 展示企画の開催等 | — |
| 19 | 京都を撮った無声劇映画 | 「NFAJ 国立映画アーカイブ開館記念 MoMAK Films 2018 京都で撮影された映画たち 明治からトーキーまで」 | 京都国立近代美術館 |
| 20 | 東京を描いた文化・記録映画とホームムービー | 「月曜シネサロン&トーク 東京 150 年—人々の生活と風景—」 | 東京国際フォーラム |
| 21 | こどもを対象にした映画鑑賞プログラム | 教育普及企画「こども映画館 2017 年の夏休み」 「F シネマ・プロジェクト こども映画館スクリーンで見る日本アニメーション!」 | 一般社団法人コミュニティシネマセンター |
| 22 | 社会人を対象にした映画教室プログラム | 「映画の教室時代から観る日本アニメーション」 「映画の教室 個の紡ぐ物語」 | — |
| 23 | 映写技術をテーマにした教育プログラム | 「NFAJ 映写ワークショップ」 | — |
| 24 | 映画復元に関する技術をテーマにした教育プログラム | 「NFAJ アーカイブセミナー」 | — |
| 25 | 70 ミリ映画のアーカイブにむけた基盤形成 (科研費 基盤 C 研究代表者: 富田美香 平成 28 年~平成 30 年) | ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント 製作 50 周年記念『2001 年宇宙の旅』70mm 版特別上映」にて 70mm 上映実施, および NFAJ ニュースレターの報告に反映 | — |
| 26 | 大正期から昭和初期における「皇室映画」の研究活用に向けた基礎調査 (科研費 基盤 C 研究代表者: 紙屋牧子 平成 30 年~平成 32 年) | 所蔵フィルムのカタログニング, フランスのフィルム・アーカイブの資料デジタル化に関する調査等に反映 | — |
| 27 | 褪色したカラー映画の復元に関する基礎的研究 (科研費 若手 B 研究代表者: 大傍正規 平成 28 年~平成 30 年) | 所蔵フィルムの復元とカタログニングに反映 | — |
| エ 国立西洋美術館 | | | |
| | 調査研究テーマ | 美術館活動への反映 | 連携機関 |
| 1 | ベラスケスと17世紀スペイン絵画 | 展覧会及び講演会等の開催, 図録の刊行 | プラド美術館 |
| 2 | マール画廊と20世紀の画家たち | 展覧会及び講演会等の開催 | — |
| 3 | 古代とルネサンスにおける身体の理想 | 展覧会及び講演会等の開催, 図録の刊行 | — |
| 4 | エングレーヴィング | 展覧会及び講演会等の開催 | — |
| 5 | ルーベンスとバロック美術の誕生 | 展覧会及び講演会等の開催, 図録の刊行 | — |
| 6 | ゲルハルト・リヒターとクールベ | 展覧会及び講演会等の開催 | — |
| 7 | 古代都市ローマのイメージとメディアの変遷 | 展覧会の開催 | — |

| | | | |
|------------------|---|---|------------------------|
| 8 | ル・コルビュジエとピュリスム | 展覧会及び講演会等の開催、図録の刊行 | ル・コルビュジエ財団 |
| 9 | 林忠正 | 展覧会及び講演会等の開催 | — |
| 10 | 旧松方コレクションを含む松方コレクション全体 | 作品収集、作品及び文献調査、所蔵作品展・企画展、刊行物、講演発表、解説等 | — |
| 11 | 中世末期から 20 世紀初頭の西洋美術 | 作品収集、作品及び文献調査、所蔵作品展・企画展、刊行物、講演発表、解説等 | — |
| 12 | 所蔵版画作品 | 作品収集、作品及び文献調査、所蔵作品展・企画展、刊行物、講演発表、解説等 | — |
| 13 | 美術館教育 | 教育普及プログラムを実施、鑑賞教育教材制作、インターンシップ、ボランティア指導、解説等 | — |
| 14 | ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計 | 教育普及プログラムの実施、文献及び図面調査 | ル・コルビュジエ財団 |
| 15 | 在外松方コレクション資料の学術調査と美術品来歴研究（科研費 基盤B 研究代表者：馬淵明子，平成28年～平成31年） | 作品及び文献調査 | — |
| 16 | 美術作品や歴史資料における彩色の膠着材の同定—複数の分析法からのアプローチ（科研費 基盤C 研究代表者：高嶋美穂，平成28年～平成30年） | 所蔵作品の保存のための基礎資料 | — |
| 17 | 古代ローマ工芸美術の基礎的研究 ～テッラ・シギラタについて～（科研費 国際共同研究加速基金（国際共同研究強化） 研究代表者：向井朋生，平成 28 年～平成 30 年） | 作品及び文献調査 | — |
| 18 | 近現代日本における人形の創作およびその受容に関する研究（科研費 基盤C 研究代表者：吉良智子，平成 28 年～平成 30 年） | 作品及び文献調査 | — |
| 19 | 近現代日本における人形とジェンダー（科研費 特別研究員奨励費 研究代表者：吉良智子，平成 29 年～平成 31 年） | 作品及び文献調査 | — |
| 20 | 国立西洋美術館所蔵作品データベース（科研費 研究成果公開促進費（データベース） 研究代表者：川口雅子，平成 30 年） | 国立西洋美術館所蔵作品データベースの構築、整備 | — |
| 21 | 17 世紀オランダ美術とアジア（科研費 研究成果公開促進費（学術図書） 研究代表者：幸福輝，平成 30 年） | 作品及び文献調査の成果発表 | — |
| オ 国立国際美術館 | | | |
| | 調査研究テーマ | 美術館活動への反映 | 連携機関 |
| 1 | 所蔵作品 | 所蔵作品展の企画構成、作品の収集活動 | — |
| 2 | 現代美術の動向 | 所蔵作品展の企画構成、作品の収集活動 | — |
| 3 | パフォーマンス作品 | 企画展「開館40周年記念展「トラベラー：まだ見ぬ地を踏むために」」を企画構成、開催、図録を発行 | — |
| 4 | 国内外のキュレトリアルリサーチ | 報告書「キュレーター・ミーティング 2016 アート・ネクスト」の編集、発行 | 現代美術センターCCA 北九州，国際交流基金 |
| 5 | 所蔵作品展のキュレーションについて | 企画展「視覚芸術百態:19 のテーマによる 196 の作品」を企画構成、開催、図録を発行 | — |
| 6 | 風景画の現代的意義 | 企画展「プーシキン美術館展——旅するフランス風景画」を企画構成、開催、図録を発行 | 東京都美術館 |
| 7 | 1980 年代日本の美術の研究 | 企画展「ニュー・ウェイブ 現代美術の 80 年代」を企画構成、開催、図録を発行 | — |

| | | | |
|----|-------------------------------|---|-----------------------------|
| 8 | ボルタンスキー | 企画展「クリスチャン・ボルタンスキー - Lifetime」を企画構成、開催、図録を発行 | 国立新美術館、長崎県美術館 |
| 9 | 抽象作品について | 企画展「抽象世界」を企画構成、開催、図録を発行予定 | — |
| 10 | アジア圏におけるタイムベースド・メディア、メディア・アート | 大館美術館（中国・香港）において開催予定（2020年3月頃）のコレクションを活用した展覧会を、国立国際美術館・大館美術館・シンガポール美術館（シンガポール）の3館で共同研究・共同開催予定 | 大館美術館（香港）、シンガポール美術館（シンガポール） |
| 11 | 児童生徒を対象とする鑑賞教育の推進 | 「鑑賞学習を通じた学びを考える会」の開催、大阪府教育センター、大阪市教育センターとの連携 | — |
| 12 | 美術館教育 | 『ジュニア・セルフガイド』の発行、ワークショップ、鑑賞ツアー、各種鑑賞支援プログラムの実施 | — |
| 13 | 現代美術の保存修復 | ロバート・ラウシェンバーグ《至点》の修復・展示 | — |

オ 国立新美術館

| | 調査研究テーマ | 美術館活動への反映 | 連携機関 |
|----|----------------|--|----------------|
| 1 | 日本の現代美術の動向 | 企画展「イケムラレイコ 土と星Our Planet」展を開催した。また「日本現代美術展」（仮称）に向けて準備を進めた。 | — |
| 2 | 海外の現代美術の動向 | 企画展「クリスチャン・ボルタンスキー - Lifetime」展、及び2020年度以降に予定している展覧会に向けて準備を進めた。 | — |
| 3 | 肖像画 | 企画展「ルーヴル美術館展 肖像芸術一人は人をどう表現してきたか」展を開催した。 | ルーヴル美術館 |
| 4 | 荒木飛呂彦 | 企画展「荒木飛呂彦原画展 JOJO 冒険の波紋」を開催した。 | — |
| 5 | ピエール・ボナール | 企画展「オルセー美術館特別企画 ピエール・ボナール展」を開催した。 | オルセー美術館 |
| 6 | 東山魁夷 | 企画展「生誕 110 年 東山魁夷展」を開催した。 | 京都国立近代美術館 |
| 7 | クリスチャン・ボルタンスキー | 企画展「クリスチャン・ボルタンスキー - Lifetime」展に向けて準備を進めた。 | 国立国際美術館、長崎県美術館 |
| 8 | イケムラレイコ | 企画展「イケムラレイコ 土と星 Our Planet」展を開催した。 | バーゼル美術館 |
| 9 | ハイジュエリー研究 | 企画展「カルティエ、時の結晶」展に向けて準備を進めた。 | カルティエ財団 |
| 10 | ドイツ表現主義 | 先々に計画しているドイツ表現主義に関連した展覧会について準備を進めた。 | — |
| 11 | 日本のマンガ、アニメ、ゲーム | 「MANGA⇄TOKYO」展をパリのラ・ヴィレットで開催した。企画展「日本のマンガ、アニメ、ゲーム」展（仮称）に向けて準備を進めた。 | マンガ・アニメ展示促進機構 |
| 12 | 日本のファッションとデザイン | 企画展「日本のファッション展」に向けて準備を進めた。 | 島根県立石見美術館 |
| 13 | 古典と現代 | 企画展「時空を超える日本のアート-古典×現代 2020」展（仮称）に向けて準備を進めた。 | 國華社 |
| 14 | 佐藤可士和 | 企画展「佐藤可士和展」（仮称）に向けて準備を進めた。 | — |
| 15 | 具体と同時代 | 企画展「具体と同時代展」（仮称）に向けて準備を進めた。 | — |

| | | | |
|----|-----------------------------|--|---|
| 16 | 美術館の教育普及事業(ワークショップ, 鑑賞ガイド等) | 企画展ジュニアガイドを制作・配布。夏休みこどもたんけんツアー, 建築ツアー, アーティスト・ワークショップ, 「かようびじゅつかん」等を開催 | — |
| 17 | 日本の近・現代美術資料 | 日本の近・現代美術に関する資料を収集し, 公開に向けた整理を進めた。 | — |
| 18 | 戦後の日本の美術館等における展覧会データの収集及び公開 | 「日本の美術展覧会記録1945-2005」の公開 | — |
| 19 | 美術資料のアーカイブ構築における編成記述方法 | 田中千代関係資料, 秋山画廊関係資料, 瀬木慎一関係資料, 小島善太郎関係資料の整理と編成記述を進めた。 | — |
| 20 | 美術情報の収集・提供システム | 「アートコモンズ」の公開 | — |
| 21 | 美術館におけるデジタル・アーカイブの構築 | 国立美術館美術情報総合検索システム(「ゲートウェイシステム」)の構築, 「ジャパンサーチ」連携の推進 | — |

別表7 展覧会図録における執筆

本稿が国立美術館の実績報告書であることに鑑み, 共同研究・共同発表・共同執筆等における氏名及び職名については, ここでは基本的に国立美術館所属者のもののみを記載することとする。以下同様とする。

| ア 東京国立近代美術館 | | | |
|-------------|--|-----------------|---|
| (本館) | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 展覧会名 |
| 1 | 「生々流転考」, 「コラム1 大観の『奇想天外』」, 「コラム3 生々流転」, 章解説, 作品解説, 作品目録, | 鶴見香織 (主任研究員) | 「生誕150年 横山大観展」 |
| 2 | 「大観とは, 何者か」 「コラム2 下絵, 習作と本画」 「コラム4 皇室と大観」 | 中村麗子 (主任研究員) | 「生誕150年 横山大観展」 |
| 3 | 「変容の場としてのミュージアム」, 作品解説, 作品目録 | 三輪健仁 (主任研究員) | 「ゴードン・マッタ＝クラーク」展 |
| 4 | 論文「アジアにめざめたらーアートが変わる, 世界が変わる1960-1990年代」, 論文「フォーラムとしての絵画」, コラム「未知なる「もの」との出会い」, 「ゼロ次元ー裸が呼び覚ます日本の無意識」, 「松澤宥のビジョンーアートとコミュニケーションと自然の交感」, 「プレー島ー島の時間にふれる旅」, リーフレット章解説, 作品解説 | 鈴木勝雄 (主任研究員) | 「アジアにめざめたらーアートが変わる, 世界が変わる1960-1990年代」展 |
| 5 | 論文「重層的な矛盾を抱えた実験ーホセ・マセダの場合」, コラム「張照堂の作品について」 「記録」について」, リーフレット作品解説 | 榊田倫広 (主任研究員) | 「アジアにめざめたらーアートが変わる, 世界が変わる1960-1990年代」展 |
| 6 | 「人間嫌いのヒューマニストー福沢一郎の今日的意義について」, 章解説, 作品解説, 講演会抄録, 年譜, 文献目録, 出品目録 | 大谷省吾 (美術課長) | 「福沢一郎展 このどうしようもない世界を笑いとばせ」 |
| 7 | 「壁を描く, 壁に描くー福沢一郎とメキシコ」, 講演会抄録, 年譜, 文献目録 | 古舘遼 (研究員) | 「福沢一郎展 このどうしようもない世界を笑いとばせ」 |
| (工芸館) | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 展覧会名 |
| 1 | 「陶磁/ガラス, 工芸/デザインーLinkとしてのインゲヤード・ローマン」 | 中尾優衣 (主任研究員) | インゲヤード・ローマン展 |
| 2 | インゲヤード・ローマンの言葉 (編集) | 野見山桜 (客員研究員) | インゲヤード・ローマン展 |
| 3 | 「イメージコレクターとしての杉浦非水ー図案制作における『資料』の意義」, 章解説 | 中尾優衣 (主任研究員) | イメージコレクター杉浦非水展 |
| 4 | 「非水のアウトプットを見る」 | 野見山桜 (客員研究員) | イメージコレクター杉浦非水展 |
| 5 | 「展覧会ノート『The 備前ー土と炎から生まれる造形美ー』展をめぐって」, 章解説, 作品解説 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | The 備前ー土と炎から生まれる造形美ー |

| | | | |
|--------------------|---|--------------------|---|
| 6 | 用語解説 | 花井久穂 (主任研究員) | The 備前—土と炎から生まれる造形美— |
| イ 京都国立近代美術館 | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 展覧会名 |
| 1 | 「東山魁夷の芸術—描くことは祈ることです」、章解説、作品解説、東山魁夷略年譜 | 小倉実子 (主任研究員) | 生誕 110 年 東山魁夷展 |
| 2 | 作品解説 | 梶岡秀一 (主任研究員) | 没後 50 年 藤田嗣治展 |
| 3 | 「ポストカードと建築家 リンクシュトラーセの建設に遡る建築的思考の分裂」、作品解説、作家解説 | 本橋仁 (特定研究員) | 世紀末ウィーンのグラフィック デザインそして生活の刷新にむけて |
| 4 | 「京都の染織 1960 年代から今日まで」 | 松原龍一 (副館長兼学芸課長) | 京都の染織 1960 年代から今日まで |
| ウ 国立西洋美術館 | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 展覧会名 |
| 1 | 「17 世紀スペインにおける風景画制作史序論」、章解説 (2 章「知識」、5 章「風景」) | 川瀬佑介 (主任研究員) | 日本スペイン外交関係樹立 150 周年記念 プラド美術館展 ベラスケスと絵画の栄光 |
| 2 | 「プラド美術館に魅せられた日本近代画家たち」 | 久保田有寿 (特定研究員) | 日本スペイン外交関係樹立 150 周年記念 プラド美術館展 ベラスケスと絵画の栄光 |
| 3 | 「カピトリノの丘の古代彫刻コレクション——その黎明期」 | 飯塚隆 (主任研究員) | ミケランジェロと理想の身体 |
| 4 | Section Commentaries | 飯塚隆 (主任研究員) | ミケランジェロと理想の身体 |
| 5 | 作家解説 | 新藤淳 (研究員) | ミケランジェロと理想の身体 |
| 6 | 「ルーベンスとイタリアの光——サンタ・マリア・イン・ヴァリチェッラ聖堂 (キエーザ・ヌオーヴァ) 祭壇画における空間と光の描写について」、章解説、作品解説、コラム | 渡辺晋輔 (主任研究員) | ルーベンス展—バロックの誕生 |
| 7 | 「ルーベンスと北方——もうひとつの源泉」、作品解説 | 中田明日佳 (主任研究員) | ルーベンス展—バロックの誕生 |
| 8 | 「ル・コルビュジエとピュリスムの時代」 | 村上博哉 (副館長兼学芸課長) | 国立西洋美術館開館 60 周年記念 ル・コルビュジエ 絵画から建築へ—ピュリスムの時代 |
| エ 国立国際美術館 | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 展覧会名 |
| 1 | 「所蔵作品展について」 | 中西博之 (主任研究員) | 視覚芸術百態:19 のテーマによる 196 の作品 |
| 2 | 「風景画はどこに向かうのか——ゲルハルト・リヒターを手がかりに」、部・章解説及びコラム (第 1 部) | 福元崇志 (研究員) | プーシキン美術館展——旅するフランス風景画 |
| 3 | 「フランス風景画の足取り」 | 山梨俊夫 (館長) | プーシキン美術館展——旅するフランス風景画 |
| 4 | 「現代美術の曲がり角—追憶の 80 年代—」, 「コラム 1 日本美術のアイデンティティをめぐって」, 「コラム 2 サブカルチャーの変容」, 「コラム 3 版画にまつわる時代の様相」, 「コラム 4 現代陶芸からクレイワークへ」, 「コラム 5 関西ニュー・ウェイブ」, 「コラム 6 時代様式としてのインスタレーション」, 作家別略歴 | 安来正博 (主任研究員) | ニュー・ウェイブ 現代美術の 80 年代 |
| 5 | 「クリスチャン・ボルタンスキーと神話」 | 中井康之 (副館長兼学芸課長) | クリスチャン・ボルタンスキー — Lifetime |
| 6 | 作品解説 | 武本彩子 (研究補佐員) | 平成 30 年度独立行政法人国立美術館巡回展 国立国際美術館コレクション: 美術のみかた 自由自在 |

| | | | |
|-----------------|--|------------------|--|
| 7 | 「分からなさの効用」, 作品解説 | 福元崇志 (研究員) | 平成 30 年度独立行政法人国立美術館 巡回展 国立国際美術館コレクション: 美術のみかた 自由自在 |
| 8 | 「見ることをめぐって——自己発見の逍遙」 | 山梨俊夫 (館長) | 平成 30 年度独立行政法人国立美術館 巡回展 国立国際美術館コレクション: 美術のみかた 自由自在 |
| オ 国立新美術館 | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 展覧会名 |
| 1 | インタビュー「齋藤精一に聞く」, (編集), 作家略歴 | 小野寺奈津 (特定研究員) | こいのぼりなう! 須藤玲子×アドリアン・ガルデル×齋藤精一によるインスタレーション |
| 2 | インタビュー「須藤玲子に聞く」「アドリアン・ガルデルに聞く」, (編集) | 長屋光枝 (学芸課長) | こいのぼりなう! 須藤玲子×アドリアン・ガルデル×齋藤精一によるインスタレーション |
| 3 | コラム「嗅ぎタバコ入れの流行とその表象」「肖像と表情—観相学の発展」 | 中江花菜 (研究補佐員) | ルーヴル美術館展 肖像芸術—一人は人をどう表現してきたか |
| 4 | コラム「エリザベート・ルイズ・ヴィジュ・ル・ブラン—描き描かれる画家」「扮装肖像の広がりと変容—古代から 18 世紀フランスまで」 | 久松美奈 (研究補佐員) | ルーヴル美術館展 肖像芸術—一人は人をどう表現してきたか |
| 5 | 「フランス王立絵画彫刻アカデミー (1643—1793) における女性画家と肖像画」, 「権力の表象としての騎馬彫刻—古代からルイ 14 世まで」, 「ヴェネツィアの女性肖像画とファッション」 | 宮島綾子 (主任研究員) | ルーヴル美術館展 肖像芸術—一人は人をどう表現してきたか |
| 6 | 作品解説, ピエール・ボナール年譜, 参考文献 | 高野詩織 (研究補佐員) | オルセー美術館特別企画 ピエール・ボナール展 |
| 7 | 作品解説 | 米田尚輝 (主任研究員) | オルセー美術館特別企画 ピエール・ボナール展 |
| 8 | 「イクムラレイコ論 イメージの生成をつかさどる」 | 長屋光枝 (学芸課長) | イクムラレイコ 土と星 Our Planet |
| 9 | 略歴, 主要参考文献 | 久松美奈 (研究補佐員) | イクムラレイコ 土と星 Our Planet |
| 10 | 作品解説 | 有木宏二 (特定研究員) | トルコ至宝展 チューリップの宮殿 トプカプの美 |
| 11 | 文献目録 | 土方浦歌 (特定研究員) | トルコ至宝展 チューリップの宮殿 トプカプの美 |
| 12 | 「対談 クリスチャン・ボルタンスキー×杉本博司」(翻訳・編集), 作家年譜(翻訳), 日本語参考文献 | 小野寺奈津 (特定研究員) | クリスチャン・ボルタンスキー— Lifetime |
| 13 | 「クリスチャン・ボルタンスキーの作品における顔のイメージについて」, 「対談 クリスチャン・ボルタンスキー×杉本博司」(翻訳・編集) | 山田由佳子 (主任研究員) | クリスチャン・ボルタンスキー— Lifetime |

別表 8 研究紀要における執筆

| | | | | |
|--------------------|---|------------------|---------------------|----------|
| ア 東京国立近代美術館 | | | | |
| (本館) | | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名 | 発行年月日 |
| 1 | [講演記録] 「瀧口修造と瀧口綾子」 | 大谷省吾 (美術課長) | 『東京国立近代美術館研究紀要』23 号 | H31.3.31 |
| 2 | [採録]『日本の家 1945 年以降の建築と暮らし』展 特別記念シンポジウム『建築をなぜ今「見る」「魅せる」』 | 保坂健二郎 (主任研究員) | 『東京国立近代美術館研究紀要』23 号 | H31.3.31 |

| (工芸館) | | | | |
|-----------|---|--------------------------|-------------------------------|-----------|
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名 | 発行年月日 |
| 1. | 「子どもとつくる工芸図鑑」 | 今井陽子 (主任研究員) | 『東京国立近代美術館研究紀要』23号 | H31.3.31 |
| 2. | 「世界のポスター展」(国立近代美術館, 1953年)について | 野見山桜 (客員研究員) | 『東京国立近代美術館研究紀要』23号 | H31.3.31 |
| イ 国立西洋美術館 | | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名 | 発行年月日 |
| 1. | 小さなユディトから見えてくるもの ——国立西洋美術館新収蔵ルカス・クラナハ (父)《ホロフェルネスの首を持つユディト》を めぐる調査報告 | 新藤淳 (主任研究員) | 『国立西洋美術館研究紀要』23号 | H31.3.31 |
| 2. | 《聖ヤコブ伝》(作者, 制作年不詳)に見られる 技法について | 高嶋美穂 (特定研究員) | 『国立西洋美術館研究紀要』23号 | H31.3.31 |
| 3. | Pierre Bonnard et le théâtre : le style infantile partagé avec Ubu Roi d'Alfred Jarry | 袴田紘代 (主任研究員) | 『国立西洋美術館研究紀要』23号 | H31.3.31 |
| ウ 国立新美術館 | | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名 | 発行年月日 |
| 1 | 「フルクサスにおけるジョージ・マチューナスの デザイナー的思考—作家たちとの関係性から」 | 小野寺奈津 (特定研究員) | 『NACT Review 国立新美術館紀要』 第5号 | H30.12.14 |
| 2 | 「戦後日本の野外彫刻展に関する研究:小野田セ メント株式会社による協賛を読み解く」 | 坂口英伸 (アソシエイト フェロー) | 『NACT Review 国立新美術館紀要』 第5号 | H30.12.14 |
| 3 | 「1861年のサロンにおける海景画—ジュール=ア ントワース・カスタニヤリのサロン評を参照軸と して」 | 高野詩織 (研究補佐員) | 『NACT Review 国立新美術館紀要』 第5号 | H30.12.14 |
| 4 | 「田中千代とファッション・ショー—戦後から 1950年代を中心に」What Was Happening at the Fashion Shows in Japan in the 1950s and 60s?—Focusing on Chiyo Tanaka | 本橋弥生 (主任研究員) | 『NACT Review 国立新美術館紀要』 第5号 | H30.12.14 |
| 5 | 「アーティスト・ワークショップ『SKYSCAPES —空をめぐる想像の時間—』実施報告」 | 渡部名祐子 (研究補佐員) | 『NACT Review 国立新美術館紀要』 第5号 | H30.12.14 |

別表9 館ニュースにおける執筆

| ア 東京国立近代美術館 | | | | |
|-------------|--|-----------------|------------|---------|
| (本館) | | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名 | 発行年月日 |
| 1 | 「[新しいコレクション] 野田英夫《都会》」 | 大谷省吾 (美術課長) | 『現代の眼』627号 | H30.4.1 |
| 2 | 「[作品研究] 猪熊弦一郎《〇〇方面鉄道建設》 の修復報告および画題について」 | 古舘遼 (研究員) | 『現代の眼』627号 | H30.4.1 |
| 3 | 作品研究「ハイレッド・センターの「直接行動」つ て何?」 | 鈴木勝雄 (主任研究員) | 『現代の眼』628号 | H30.7.1 |
| 4 | 「「フード」の料理はおいしかった?」 | 三輪健仁 (主任研究員) | 『現代の眼』628号 | H30.7.1 |

| | | | | |
|--------------------|--|------------------|-----------------------|-----------|
| 5 | 「明治の美術,あるいは明治後期の美術」 | 古館遼 (研究員) | 『現代の眼』628号 | H30.7.1 |
| 6 | 「[新しいコレクション]加藤泉《無題》」 | 古館遼 (研究員) | 『現代の眼』628号 | H30.7.1 |
| 7 | 「「物質」をキーワードに瀧口修造と日本の前衛美術について考える」 | 大谷省吾 (美術課長) | 『現代の眼』629号 | H30.10.1 |
| 8 | 「[新しいコレクション]デイヴィッド・スマイス《サークルIV》」 | 保坂健二郎 (主任研究員) | 『現代の眼』629号 | H30.10.1 |
| 9 | 「[新しいコレクション]横山操《ふるさと》」 | 都築千重子 (主任研究員) | 『現代の眼』630号 | H31.1.1 |
| 10 | 「[作品研究]銅版画家池田良二の原風景とアートプロジェクト「落石計画」 | 都築千重子 (主任研究員) | 『現代の眼』630号 | H31.1.1 |
| 11 | 「「遠くへ行きたい」,その先は?」 | 古館遼 (研究員) | 『現代の眼』630号 | H31.1.1 |
| (工芸館) | | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名 | 発行年月日 |
| 1 | [工芸館開館40周年記念イベント報告]「40歳のアーティストトーク」[第1回 11月12日 新里明士氏×中田英寿氏] (構成・文責) | 高橋佑香子 (研究補佐員) | 『現代の眼』627号 | H30.4.1 |
| 2 | [工芸館開館40周年記念イベント報告]「40歳のアーティストトーク」[第2回 11月19日 新里明士氏×須田悦弘氏] (構成・文責) | 野見山桜 (客員研究員) | 『現代の眼』627号 | H30.4.1 |
| 3 | [新しいコレクション]板谷波山《葆光彩磁牡丹文様花瓶》 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | 『現代の眼』627号 | H30.4.1 |
| 4 | [On view] 私の熔接観 [構成・文責] | 今井陽子 (主任研究員) | 『現代の眼』628号 | H30.7.1 |
| 5 | [新しいコレクション]加藤清之《灰陶81-5》 | 野見山桜 (客員研究員) | 『現代の眼』628号 | H30.7.1 |
| 6 | [On view] 生活のレクリエーション (<特集>「インゲヤード・ローマン展」)[後記] | 中尾優衣 (主任研究員) | 『現代の眼』629号 | H30.10.1 |
| 7 | [On view] インゲヤード・ローマン展展示デザインに寄せて (<特集>「インゲヤード・ローマン展」)[構成・翻訳・文責] | 野見山桜 (客員研究員) | 『現代の眼』629号 | H30.10.1 |
| 8 | [新しいコレクション]三代畠春齋《流水文四方釜》 | 成田暢 (特定研究員) | 『現代の眼』629号 | H30.10.1 |
| 9 | 作品研究「パイプとハニワといけばなと—1950年代前半の安原喜明と焼締花挿」 | 花井久穂 (主任研究員) | 『現代の眼』629号 | H30.10.1 |
| 10 | [新しいコレクション]エミール・ガレ《イチジク文聖杯》 | 北村仁美 (主任研究員) | 『現代の眼』630号 | H31.1.1 |
| イ 京都国立近代美術館 | | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名 | 発行年月日 |
| 1 | 森村=ゴッホの変奏 (装) | 牧口千夏 (主任研究員) | 『京都国立近代美術館ニュース視る』495号 | H30.11.12 |
| ウ 国立映画アーカイブ | | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名 | 発行年月日 |
| 1 | 国立映画アーカイブの誕生にあたって | 岡島尚志 (館長) | 『NFAJ ニュースレター』第1号 | H30.4.1 |

| | | | | |
|----|--|--|-------------------|----------|
| 2 | 「企画の見所 1/国立映画アーカイブ開館記念 映画を残す、映画を活かす。映画人による個人的 記録 小型映画で甦る映画人たちの創造と日常」 | 富田美香 (主任研究員) | 『NFAJ ニューズレター』第1号 | H30.4.1 |
| 3 | 「「言いきる」——ポスターに見る黒澤明の至芸」 | 岡田秀則 (主任研究員) | 『NFAJ ニューズレター』第1号 | H30.4.1 |
| 4 | 映画と歴史 | 大澤浄 (主任研究員) | 『NFAJ ニューズレター』第1号 | H30.4.1 |
| 5 | 鈴木美康インタビュー 現像所で培われたタイ ミングマンの目 | 大澤浄 (主任研究員) 大傍正規 (主任研究員) | 『NFAJ ニューズレター』第1号 | H30.4.1 |
| 6 | 映画を「残す」と「活かす」の間 | 岡島尚志 (館長) | 『NFAJ ニューズレター』第2号 | H30.7.1 |
| 7 | フィルム映写を維持するために | 神田麻美 (客員研究員) | 『NFAJ ニューズレター』第2号 | H30.7.1 |
| 8 | 「共有」をテーマにした FIAF 会議と、NFA 見 学の6日間 | 江口浩 (特定研究員) | 『NFAJ ニューズレター』第2号 | H30.7.1 |
| 9 | “大きな映画”の場所『2001年宇宙の旅』70mm フィルム版公開に寄せて | 岡島尚志 (館長) | 『NFAJ ニューズレター』第3号 | H30.10.1 |
| 10 | 木村威夫の思考の軌跡を追う | 濱田尚孝 (特定研究員) | 『NFAJ ニューズレター』第3号 | H30.10.1 |
| 11 | 木村威夫作品の「逸脱」する美術プラン | 紙屋牧子 (特定研究員) | 『NFAJ ニューズレター』第3号 | H30.10.1 |
| 12 | 36年の歳月を経て、『ワン・フロム・ザ・ハート』 劇場公開版を観る。 | 篠儀直子 (客員研究員) | 『NFAJ ニューズレター』第3号 | H30.10.1 |
| 13 | 洋画配給宣伝の変化と東宝東和の1970～80年代 | 佐々木淳 (客員研究員) | 『NFAJ ニューズレター』第3号 | H30.10.1 |
| 14 | 「企画の見所4/ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」 記念特別イベント 製作50周年記念『2001年宇 宙の旅』70mm 版特別上映 シネラマ映画『2001 年宇宙の旅』unrestored 70mm フィルム」 | 富田美香 (主任研究員) | 『NFAJ ニューズレター』第3号 | H30.10.1 |
| 15 | 「緩慢な災禍」という映画フィルム保存の闇 | 岡島尚志 (館長) | 『NFAJ ニューズレター』第4号 | H30.12.1 |
| 16 | ヨーン・ヴェングストルム「特集上映に寄せて」 | 篠儀直子 (客員研究員) | 『NFAJ ニューズレター』第4号 | H30.12.1 |
| 17 | 村川透監督インタビュー「黒澤満さんとの60年」 | 岡田秀則 (主任研究員) 大澤浄 (主任研究員) 佐々木淳 (客員研究員) | 『NFAJ ニューズレター』第4号 | H30.12.1 |
| 18 | 遠藤茂行氏、近藤正岳氏インタビュー「黒澤満さ んから学んだこと」 | 岡田秀則 (主任研究員) 大澤浄 (主任研究員) 佐々木淳 (客員研究員) | 『NFAJ ニューズレター』第4号 | H30.12.1 |
| 19 | 「最古の『忠臣蔵』デジタル復元に至る経緯」 | 三浦和己 (研究員) 入江良郎 (学芸課長) | 『NFAJ ニューズレター』 | H30.12.1 |

| エ 国立西洋美術館 | | | | |
|-----------|--|-------------------------------------|-------------------|-----------|
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名 | 発行年月日 |
| 1 | 企画展「ミケランジェロと理想の身体」 | 飯塚隆 (主任研究員) | 『ZEPHYROS』第75号 | H30.5.20 |
| 2 | 小企画展「西洋版画を視る—エングレーヴィング：ピュランから生まれる精緻な世界」 | 酒井敦子 (特定研究員) 中田明日佳 (主任研究員) | 『ZEPHYROS』第75号 | H30.5.20 |
| 3 | 建築ボランティアとめぐる本館建築ツアー | 寺島洋子 (主任研究員) | 『ZEPHYROS』第75号 | H30.5.20 |
| 4 | 企画展「ルーベンス展—バロックの誕生」 | 渡辺晋輔 (主任研究員) | 『ZEPHYROS』第76号 | H30.8.20 |
| 5 | 小企画展「ローマの景観—そのイメージとメディアの変遷」 | 池田祐子 (主任研究員) | 『ZEPHYROS』第76号 | H30.8.20 |
| 6 | クロード・モネ《睡蓮、柳の反映》の寄贈を賜りました | 陳岡めぐみ (主任研究員) | 『ZEPHYROS』第76号 | H30.8.20 |
| 7 | 報告：2018年度収蔵作品について ルカス・クラナハ（父）《ホロフェルネスの首を持つユディト》 | 新藤淳 (主任研究員) | 『ZEPHYROS』第77号 | H30.11.20 |
| 8 | シリーズ〈寄贈者顕彰〉 第1回 松方幸次郎 | 川瀬佑介 (主任研究員) | 『ZEPHYROS』第77号 | H30.11.20 |
| 9 | 本館建物 Q&A | 福田京 (専門職員) | 『ZEPHYROS』第77号 | H30.11.20 |
| 10 | 企画展「国立西洋美術館開館60周年記念 ル・コルビュジエ 絵画から建築へ—ビュリスムの時代」 | 村上博哉 (副館長兼学芸課長) | 『ZEPHYROS』第78号 | H31.2.20 |
| 11 | 小企画展「林忠正—ジャポニズムを支えたパリの美術商」 | 馬淵明子 (館長) | 『ZEPHYROS』第78号 | H31.2.20 |
| 12 | 国立美術館の所蔵作品検索システムが新しくなりました | 川口雅子 (情報資料室長) | 『ZEPHYROS』第78号 | H31.2.20 |
| オ 国立国際美術館 | | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名 | 発行年月日 |
| 1 | 「追憶の八〇年代(六) サブカルチャーの変容」 | 安來正博 (主任研究員) | 『国立国際美術館ニュース』225号 | H30.4.1 |
| 2 | 「風」 | 橋本梓 (主任研究員) | 『国立国際美術館ニュース』225号 | H30.4.1 |
| 3 | 「館蔵品紹介：アローラ&カルサディーラ 《Lifespan》」 | 林寿美 (客員研究員) | 『国立国際美術館ニュース』225号 | H30.4.1 |
| 4 | 「所蔵作品展の真価」 | 中西博之 (主任研究員) | 『国立国際美術館ニュース』226号 | H30.6.1 |
| 5 | 「追憶の八〇年代(七) 関西ニュー・ウェイブ」 | 安來正博 (主任研究員) | 『国立国際美術館ニュース』226号 | H30.6.1 |
| 6 | 「雷の準備」 | 橋本梓 (主任研究員) | 『国立国際美術館ニュース』226号 | H30.6.1 |
| 7 | 「館蔵品紹介：イリヤ・カバコフ《天使と出会う方法》」 | 山梨俊夫 (館長) | 『国立国際美術館ニュース』226号 | H30.6.1 |

| | | | | |
|----|---|--------------------|-------------------|----------|
| 8 | 「追憶の八〇年代(八) ポストモダンのその後」 | 安來正博 (主任研究員) | 『国立国際美術館ニュース』227号 | H30.8.1 |
| 9 | 「報告:アラナ・クシュニール特別講演会「まだ見ぬ存在:パフォーマンス・アートにおける法律」及びワークショップ「アートと法律におけるエフェメリティについての諸問題」 | 橋本梓 (主任研究員) | 『国立国際美術館ニュース』227号 | H30.8.1 |
| 10 | 「館藏品紹介:山田正亮《Work E.280》」 | 中井康之 (副館長兼学芸課長) | 『国立国際美術館ニュース』227号 | H30.8.1 |
| 11 | 「追憶の八〇年代(九) 三十年後の未来から」 | 安來正博 (主任研究員) | 『国立国際美術館ニュース』228号 | H30.10.1 |
| 12 | 「雷:「落とす」から「待つ」へ」 | 橋本梓 (主任研究員) | 『国立国際美術館ニュース』228号 | H30.10.1 |
| 13 | 「館藏品紹介:ヴォルス《版画集『ヴォルス』より 裸の花》」 | 林寿美 (客員研究員) | 『国立国際美術館ニュース』228号 | H30.10.1 |
| 14 | 「国立国際美術館の八〇年代—「ニュー・ウェイブ 現代美術の80年代」に寄せて」 | 安來正博 (主任研究員) | 『国立国際美術館ニュース』229号 | H30.12.1 |
| 15 | 「雷の10年」 | 橋本梓 (主任研究員) | 『国立国際美術館ニュース』229号 | H30.12.1 |
| 16 | 「館藏品紹介:松井智恵《LABOR-4》」 | 福元崇志 (研究員) | 『国立国際美術館ニュース』229号 | H30.12.1 |
| 17 | 「雷を待ちながら」 | 橋本梓 (主任研究員) | 『国立国際美術館ニュース』230号 | H31.2.1 |
| 18 | 「館藏品紹介:アンディ・ウォーホル《版画集『マリリン』より [9]》」 | 中井康之 (副館長兼学芸課長) | 『国立国際美術館ニュース』230号 | H31.2.1 |

別表10 館外の学術雑誌, 学会等における調査研究成果の発信

| ア 東京国立近代美術館 | | | | | | |
|-------------|-------------------------------------|---------------------|----------------|--------------------------|---------------------|-------------|
| (本館) | | | | | | |
| A. 学会等発表 | | | | | | |
| | タイトル | 学会等名 | 発表者氏名 (職名) | 日付 | 場所 | 聴講者数 (人) |
| 1 | 「なぜ阿部展也は日本近代美術史上かくも重要な存在なのか」 | 阿部展也展 | 大谷省吾 (美術課長) | H30.7.15 | 新潟市美術館 | 39 |
| 2 | 「なぜ福沢一郎は1930年代にあれほどまで若者たちを惹きつけたのか?」 | 福沢一郎生誕120年展 | 大谷省吾 (美術課長) | H30.10.28 | 富岡市立美術博物館・福沢一郎記念美術館 | 60 |
| 3 | 「121年目の福沢一郎」 | 生誕120年記念福沢一郎展シンポジウム | 大谷省吾 (美術課長) | H31.1.19 | 多摩美術大学美術館 | 88 |
| 4 | 「東京国立近代美術館のアーカイブズ資料と夢土画廊資料について」 | 第33回学芸員研修会 | 長名大地 (研究員) | H31.3.22 | 東京国立近代美術館講堂 | 186 |
| 5 | 「五月女哲平展トーク」 | ギャラリーαM主催事業 | 蔵屋美香 (企画課長) | H30.4.7 | ギャラリーαM | 40 |
| 6 | 「没後40年 熊谷守一 生きるよろこび」展記念講演会 | 愛媛県美術館 | 蔵屋美香 (企画課長) | H30.4.14 | 愛媛県美術館講堂 | 70 |
| 7 | 個展「When a Curator Draws」 | XYZ Collective 主催事業 | 蔵屋美香 (企画課長) | H30.6.10 ～ H30.7.8 | XYZ Collective | 300 (通期) |

| | | | | | | |
|----|---|--|------------------|----------------|-----------------------------|-----|
| 8 | 「藤城嘘展トーク」 | ギャラリーαM 主催事業 | 蔵屋美香 (企画課長) | H30.6.16 | ギャラリーα M | 50 |
| 9 | 「水平線効果」展トーク | NICHIDO Contemporary 主 催事業 | 蔵屋美香 (企画課長) | H30.6.23 | NICHIDO Contemporar y | 8 |
| 10 | 「村瀬恭子展トーク」 | ギャラリーαM 主催事業 | 蔵屋美香 (企画課長) | H30.9.1 | ギャラリーα M | 40 |
| 11 | 「中村一美展トーク」 | ギャラリーαM 主催事業 | 蔵屋美香 (企画課長) | H30.10.26 | ギャラリーα M | 50 |
| 12 | 「千葉正也展トーク」 | ギャラリーαM 主催事業 | 蔵屋美香 (企画課長) | H30.11.10 | ギャラリーα M | 50 |
| 13 | 「拡大/縮小するミュージアム」 | 美術評論家連盟主催 2018 年 シンポジウム「事物の権 利, 作品の生」 | 蔵屋美香 (企画課長) | H30.11.11 | 東京藝術大学 | 120 |
| 14 | 「対談 いま, 原爆の図を どう観るか」 | 「丸木美術館主催企画: い のちを観る, いのちを歌う in 広島」 | 蔵屋美香 (企画課長) | H30.11.18 | 広島平和祈念 資料館 | 150 |
| 15 | 「10 年単位でじっくり見る 戦後美術の歴史+絵画のフ ォーマリズム分析を身につ ける」 | THINK SCHOOL | 蔵屋美香 (企画課長) | H30.12.1 | THINK SCHOOL | 20 |
| 16 | 「Museum in Expansion/ Reduction」 | 国際交流基金日米交流キュ ラトリアル・ワークショップ | 蔵屋美香 (企画課長) | H30.12.7 | ミネアポリス 美術館 | 14 |
| 17 | 「地震のあとで: 厄災とコ レクション」 | 森美術館×オックスフォ ード大学 国際シンポジウム 「カタストロフの時代の美 術: アーティストと文化施 設の取り組み」 | 蔵屋美香 (企画課長) | H30.12.15 | アカデミーヒ ルズ | 200 |
| 18 | 「中村一美展トーク」 | ギャラリーαM 主催事業 | 蔵屋美香 (企画課長) | H31.1.26 | ギャラリーα M | 50 |
| 19 | ヌードは, いま。(仮) | 宮城県美術館 | 蔵屋美香 (企画課長) | H31.3.9 | 宮城県美術館 | 70 |
| 20 | 「CURATORIAL ROUNDTABLE・ Awakenings: Art and Society in Asia 1960s- 1990s」 | 国際シンポジウム 「SHIFTING UNDERGROUNDS IN EAST AND SOUTHEAST ASIA」(主催: 国立シンガ ポール大学) | 鈴木勝雄 (主任研究員) | H30.10.26 | 国立シンガポ ール大学 | 70 |
| 21 | 「Rehabilitation of the Narrative in Art」 | 国際シンポジウム 「CURATORIAL ROUNDTABLE・ Awakenings: Art and Society in Asia 1960s- 1990s」(主催: 韓国国立現 代美術館) | 鈴木勝雄 (主任研究員) | H31.1.31 | 韓国国立現代 美術館 | 70 |
| 22 | 分科会「ウェルカム ミュ ージアム! 観光からつなが る」講師 | (公財) 日本博物館協会 | 滝本昌子 (広報室長) | H.30.11.2 9 | 東京文化会館 小ホール | 80 |
| 23 | ギャラリートーク | 落石計画第 11 期「銅版画試 論 II つくる, くちる, つ くる, 井出創太郎+高浜利 也」展 | 都築千重子 (主任研究員) | H30.8.8 | 旧落石無線放 送局(現池田 良二スタジオ) | 30 |
| 24 | 「東京国立近代美術館のコ レクションとコレクション 展」 | さいたま市生涯学習センタ ー 事業企画課 | 鶴見香織 (主任研究員) | H30.11.20 | うらわ美術館 講堂 | 50 |
| 25 | 「美術館に行く, その前に。 横山大観展」 | 日本経済新聞社 | 鶴見香織 (主任研究員) | H30.4.24 | 日本経済新聞 社本社ビル 2 階 | 80 |

| | | | | | | |
|----|---|---|-----------------|------------|------------------------------|-----|
| 26 | 「大観が大観になるまでを大観する 横山大観 日本画の巨匠」 | 北区教育委員会 | 鶴見香織 (主任研究員) | H30.10.16 | 赤羽会館 | 300 |
| 27 | 「Emerging 2018」オープニングトーク | オープニングトーク | 榊田倫広 (主任研究員) | H30.8.25 | トーキョーアーツアンドスペース | 30 |
| 28 | 「Experimenting with Multi-Layered Contradiction: The Case of José Maceda」 | 国際シンポジウム「CURATORIAL ROUNDTABLE・Awakenings: Art and Society in Asia 1960s-1990s」(主催:韓国国立現代美術館) | 榊田倫広 (主任研究員) | H31.1.31 | 韓国国立現代美術館 果川館 | 70 |
| 29 | 「アジアにめざめたら」展とその先 | 日本現代アートサミット | 榊田倫広 (主任研究員) | H31. 3. 21 | 国立新美術館 | 30 |
| 30 | トークイベント「目/口」増田玲×中野泰輔 | ガーディアン・ガーデン「中野泰輔 HYPER/PIP」展トークイベント | 増田玲 (主任研究員) | H31.2.6 | ガーディアン・ガーデン | 30 |
| 31 | 「展覧会の再演について」および討議 | 特別国際シンポジウム『プレイ⇄リプレイ:「時間」を展示する』 | 三輪健仁 (主任研究員) | H30.11.3 | 水戸芸術館 ACM 劇場 | 150 |
| 32 | 「近代美術館における「時間」について」および討議 | かがく字かん 公開研究会 Open Conference「カガクとクウカン/ときどきクモリ」 | 三輪健仁 (主任研究員) | H31.1.27 | 片山津地区会館 テリーナホール | 100 |
| 33 | トーク | アーティスト・トーク 平瀬ミキ (エマージェンシーズ! 036) | 三輪健仁 (主任研究員) | H31.2.9 | NTT インターコミュニケーション・センター [ICC] | 20 |
| 34 | 「横山大観 時代とともに歩んだ画家, その人と芸術」 | 文京区主催「平成 30 年度企画展 新収蔵品展—区民からのおくりもの— 一生誕 150 年・没後 60 年記念 横山大観とぶんきょう」関連講演会 | 中村麗子 (主任研究員) | H31.2.3 | 文京シビックセンタースカイホール | 100 |

B. 雑誌等論文掲載

学術書籍, 研究報告書等の発行

| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 発行者 | 発行年月日 |
|---|-------------------------------------|------------------|---|-----------|
| 1 | 「原註解題 アメリカ現代美術を知る最良の文献案内として」 | 長名大地 (研究員) | ジェイムズ・E. B. プレズリン著(木下哲夫訳)『マーク・ロスコ伝記』(ブックエンド) | H31.1.7 |
| 2 | 『超現実主義の1937年 福沢一郎『シュールレアリズム』を読みなおす』 | 大谷省吾 (美術課長) | みすず書房 | H31.2.25 |
| 3 | 「タブローの行方—1950年代後半の美術の分岐点」 | 鈴木勝雄 (主任研究員) | 『転形期のメディアオロジー: 1950年代日本における芸術・視聴覚メディアの再編成』(仮称), (森話社) | H31. 8 予定 |
| 4 | 「各章解説」「コラム」「作品解説」 | 鶴見香織 (主任研究員) | 古田亮(監修)『もっと知りたい横山大観 生涯と作品』(東京美術) | H30.5.30 |
| 5 | 「無名の顔—辰野登恵子の抽象について」 | 三輪健仁 (主任研究員) | 『辰野登恵子 ON PAPERS A Retrospective 1969-2012』(青幻舎) | H30.11.29 |
| 6 | 「三宅信太郎と新しいアプローチ」 | 保坂健二郎 (主任研究員) | 『I AM HERE アイアムヒア 三宅信太郎作品集』(美術出版社) | H30.8.4 |

| 【査読有り】論文掲載 | | | | |
|------------|---|------------------|---|-----------|
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名(発行者) | 発行年月日 |
| 1 | 「イクムラレイコのトリプティックについて 『文化的翻訳』の観点から」 | 保坂健二郎 (主任研究員) | 『イクムラレイコ 土と星 Our Planet』(求龍堂) | H31.1.25 |
| 【査読無し】論文掲載 | | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名(発行者) | 発行年月日 |
| 1 | 「風景画に出会うとっておきブックガイド」 | 長名大地 (研究員) | 「ブーシキン美術館展 旅するフランス風景画」展図録(東京都美術館) | H30.4 |
| 2 | 「⑦アメリカ亡命期のシュルレアリスム:マックス・エルンストを中心に」(特集 3 RILAS 研究部門「イメージ文化史」主催シンポジウム開催報告 シュルレアリスム美術を考える会 第1回シンポジウム)」 | 長名大地 (研究員) | 『早稲田大学総合人文科学研究センター研究誌 = WASEDA RILAS JOURNAL』 | H30.10 |
| 3 | 「第11回秋季研究集会 第一部研究発表参加報告」 | 長名大地 (研究員) | 『アート・ドキュメンテーション通信』(アート・ドキュメンテーション研究会) | H31.1 |
| 4 | 「美術館図書室 SIG 解題リレー レファレンスブック・ガイド19」 | 長名大地 (研究員) | 『アート・ドキュメンテーション通信』(アート・ドキュメンテーション研究会) | H31.1 |
| 5 | 「青木香保里 境界 XI, 境界 XII」推薦文 | 大谷省吾 (美術課長) | 『第7回東山魁夷記念 日経日本画大賞展』(日本経済新聞社) | H30.5.18 |
| 6 | 「福沢一郎のまなざし」 | 大谷省吾 (美術課長) | 『美術の窓』426号(生活の友社) | H31.2.22 |
| 7 | 「「インビジブルな存在」を可視化するために」 | 大谷省吾 (美術課長) | 『都美セレクショングループ展記録集2018』(東京都美術館) | H31.3.15 |
| 8 | 「絵と、」 | 蔵屋美香 (企画課長) | ホームページ(ギャラリーαM) | H30.4.1 |
| 9 | 「逃げも隠れもせず隠す:五月女哲平の作品について」 | 蔵屋美香 (企画課長) | ホームページ(ギャラリーαM) | H30.4.7 |
| 10 | 「暗闇で像をなでよう:安西剛の《distance》他」 | 蔵屋美香 (企画課長) | 『カゲノカゲノカゲ 安西剛展』カタログ(さいたま市プラザノース) | H30.5.1 |
| 11 | 「荒井経 樹象 二」推薦文 | 鶴見香織 (主任研究員) | 『第7回東山魁夷記念 日経日本画大賞展』(日本経済新聞社) | H30.5.18 |
| 12 | 「白鳥座をつくる:河口龍夫の時間」 | 蔵屋美香 (企画課長) | 『河口龍夫:関係一鉛の郵便』カタログ(Snow Contemporary) | H30.6.15 |
| 13 | 「嘘のウソはほんとかな?:藤城嘘の作品について」 | 蔵屋美香 (企画課長) | ホームページ(ギャラリーαM) | H30.6.16 |
| 14 | 「対談 藤田を現在に接続することは可能か」 | 蔵屋美香 (企画課長) | 『美術手帖』2018年8月号増刊(美術出版社) | H30.8.30 |
| 15 | 「今日、この目をつぶる:村瀬恭子の作品について」 | 蔵屋美香 (企画課長) | ホームページ(ギャラリーαM) | H30.9.1 |
| 16 | 「なぜこんなにも藤田は好かれるのか? 『没後50年 藤田嗣治展』『1940's フジタ・トリビュート展』」 | 蔵屋美香 (企画課長) | 美術手帖 WEB版(美術出版社) | H30.9.13 |
| 17 | 「絵になる男:千葉正也の作品について」 | 蔵屋美香 (企画課長) | ホームページ(ギャラリーαM) | H30.11.10 |
| 18 | 「2018年展覧会ベスト3」 | 蔵屋美香 (企画課長) | 美術手帖 WEB版(美術出版社) | H30.12.29 |
| 19 | 「地すべり, 期すべし:中村一美の作品について」 | 蔵屋美香 (企画課長) | ホームページ(ギャラリーαM) | H30.1.26 |
| 20 | 「北の階段, 南の階段:栗本百合子さんと表慶館」 | 蔵屋美香 (企画課長) | 『栗本百合子:光の溜まる器と皿』(See Saw Gallery) | H30.2.2 |

| | | | | |
|---|---|------------------|--|------------------------------------|
| 21 | 「暗闇からフクロウ」 | 蔵屋美香 (企画課長) | ホームページ (ギャラリー α M) | H30.3.11 |
| 22 | 「[明日の星たち 番外編] 齊藤里香 境界を越えて響きあう, 多様な形象の共鳴」 | 都築千重子 (主任研究員) | 『月刊美術』No.519 (実業 の日本社) | H30.12 月 号 (H30.11.20 発売) |
| 23 | 「変容と持続—海霧に抱かれて『落石になる』」 | 都築千重子 (主任研究員) | 『落石計画第11期 銅版画 試論Ⅱ つくる, くちる, つ くる, 井出創太郎+高浜利 也』図録 (落石計画実行委員 会) 図録 | H31.3.25 |
| 24 | 審査講評 | 都築千重子 (主任研究員) | 『第24回鹿沼市立川上澄生 美術館木版画大賞』図録 (鹿 沼市立川上澄生美術館) | H31.3.7 |
| 25 | 「特別リポート 世界の美術館で起きていること」 | 保坂健二郎 (主任研究員) | 『藝術新潮』831号 (新潮社) | H31.2.25 |
| 26 | 「Tokyo Futures」 Event Report | 榊田倫広 (主任研究員) | 『Tate Research Centre: Asia』 | H30.4.17 |
| 27 | 「観光客を招待する—美術館における展覧会の現状と葛藤 と展望」 | 榊田倫広 (主任研究員) | 『Fashion Talks...』第8号 (公益財団法人 京都服飾 文化研究財団) | H30.10.1 |
| 28 | 「展評」 | 榊田倫広 (主任研究員) | 「Emerging 2018」(トーキ ョーアーツアンドスペース) | H31.1.11 |
| その他 (研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, ウェブサイト等) の発表 | | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名 (発行者) | 発行年月日 |
| 1 | 「近代美術の眼 パウル・クレー《花ひらく木をめぐる抽 象》」 | 岩田ゆず子 (研究補佐員) | 『読売新聞』 (都内版) | H31.2.8 |
| 2 | 第51回情報・資料研究会会合報告 | 長名大地 (研究員) | 全国美術館会議ホームペー ジ | H30.7.31 |
| 3 | 「近代美術の眼 瀧口修造《デカルコマニー》」 | 大谷省吾 (美術課長) | 『読売新聞』 (都内版) | H30.7.13 |
| 4 | 「近代美術の眼 横山操《ウォール街》」 | 都築千重子 (主任研究員) | 『読売新聞』 (都内版) | H.30.10.12 |
| 5 | 「近代美術の眼 池田良二《再生される扉》」 | 都築千重子 (主任研究員) | 『読売新聞』 (都内版) | H.31.3.8 |
| 6 | 生誕150年横山大観展から「白衣観音 魅力ある印象的な表 情」 | 鶴見香織 (主任研究員) | 『毎日新聞』 | H30.4.24 |
| 7 | 生誕150年横山大観展から「彗星 奇抜な主題と定番技法」 | 鶴見香織 (主任研究員) | 『毎日新聞』 | H30.4.25 |
| 8 | 生誕150年横山大観展から「霊峰十趣のうち春 センス抜群 単純化の妙」 | 鶴見香織 (主任研究員) | 『毎日新聞』 | H30.4.26 |
| 9 | 生誕150年横山大観展から「生々流転 永遠の循環 畢生の 作」 | 鶴見香織 (主任研究員) | 『毎日新聞』 | H30.4.27 |
| 10 | 生誕150年横山大観展から「夜桜 日本の心 世界にアピー ル」 | 鶴見香織 (主任研究員) | 『毎日新聞』 | H30.5.2 |
| 11 | 生誕150年横山大観展から「紅葉 絢爛豪華な晩年の大作」 | 鶴見香織 (主任研究員) | 『毎日新聞』 | H30.5.3 |
| 12 | 生誕150年横山大観展「生々流転 自然の巡り ひそやかに」 | 鶴見香織 (主任研究員) | 『毎日新聞』 | H30.5.12 |
| 13 | Art「国民的画家の実力 生誕110年 東山魁夷展」 | 鶴見香織 (主任研究員) | 『ミセス』766号 (学校法人 文化学園文化出版局) | H30.9.7 |
| 14 | 「近代美術の眼 川端龍子《輸送船団海南島出発》」 | 鶴見香織 (主任研究員) | 『読売新聞』 (都内版) | H30.11.9 |
| 15 | イチオシ作家2019「鏑木清方 美人画好きの方々へ, これが 『美人画の真打』です」 | 鶴見香織 (主任研究員) | 『月刊美術』520号 (実業の 日本社) | H30.12.20 |
| 16 | 「近代美術の眼 和田三造《南風》」 | 古舘遼 (研究員) | 『読売新聞』 (都内版) | H30.5.11 |

| | | | | | | |
|----------|--|--|-------------------------|-----------|------------------------|-------------|
| 17 | 「近代美術の眼 猪熊弦一郎《〇〇方面鉄道建設》」 | 古舘遼 (研究員) | 『読売新聞』(都内版) | H30.9.14 | | |
| 18 | 「近代美術の眼 デイヴィッド・スミス《サークルⅣ》」 | 保坂健二郎 (主任研究員) | 『読売新聞』(都内版) | H30.6.8 | | |
| 19 | 「座談会: アートとブロックチェーンの未来 齊藤賢爾×施井泰平×保坂健二郎」 | 保坂健二郎 (主任研究員) | 『美術手帖』1073号(美術出版社) | H30.12.7 | | |
| 20 | 「平出隆×青木淳: 遊歩の先に見えてくるもの」 | 保坂健二郎 (主任研究員) | 『藝術新潮』(新潮社)829号 | H30.12.25 | | |
| 21 | アートダイアリー 052「「アジアにめざめたら: アートが変わる, 世界が変わる 1960-1990年代」展が開幕しました」 | 榊田倫広 (主任研究員) | 「文化庁広報誌 ぶんかる」(文化庁)(Web) | H30.11.22 | | |
| 22 | 「近代美術の眼 北野謙《「our face」より 滋賀県近江高校野球部員42人を重ねた肖像》」 | 増田玲 (主任研究員) | 『読売新聞』(都内版) | H30.4.13 | | |
| 23 | 「ぎやらりいモール 東京国立近代美術館「ゴードン・マッタ＝クラーク展」から「スプリッティング」」 | 三輪健仁 (主任研究員) | 『読売新聞』夕刊 | H30.7.10 | | |
| 24 | 「近代美術の眼 佐伯祐三《ガス灯と広告》」 | 三輪健仁 (主任研究員) | 『読売新聞』(都内版) | H30.12.14 | | |
| (工芸館) | | | | | | |
| A. 学会等発表 | | | | | | |
| | タイトル | 学会等名 | 発表者氏名 (職名) | 日付 | 場所 | 聴講者数 (人) |
| 1 | 「漆器で愉しむ京(みやこ)の文化」 | 「うるしの彩り―漆黒と金銀が織りなす美の世界」展記念講演会 | 中尾優衣 (主任研究員) | H30.6.9 | 泉屋博古館分館 | 49 |
| 2 | 「美濃陶芸の現在と未来をみる」 | 「桃山から現代へ 志野, 織部 伝統継承展」関連イベント | 唐澤昌宏 (工芸課長) | H30.6.16 | そごう美術館展示室 | 70 |
| 3 | 「つくり手の言葉から陶芸(工芸)を考える」 | 多治見市陶磁器意匠研究所公開特別講義 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | H30.6.17 | 多治見市陶磁器意匠研究所講義棟 2F 講義室 | 60 |
| 4 | シンポジウム「『碗・盃・わん』の形を考える」 | 「わんの形 2」展関連イベント | 唐澤昌宏 (工芸課長) | H30.6.17 | 多治見市文化工房 ギャラリーヴォイス | 120 |
| 5 | 東京国立近代美術館移転連携事業「近代工芸のススメ」オープニング・ギャラリートーク | 輪島市, 東京国立近代美術館 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | H30.7.21 | 石川県輪島漆芸美術館展示室 | 100 |
| 6 | 「日本工芸の現在(いま)を考える」 | 東京国立近代美術館工芸館名品展等実行委員会(石川県・金沢市・東京国立近代美術館) | 唐澤昌宏 (工芸課長) | H30.7.22 | 石川県輪島漆芸美術館講堂 | 40 |
| 7 | 「日本の近現代工芸の歩みから現在を考える」 | 「東京国立近代美術館工芸館名品展 多彩なる近現代工芸の煌めき」展関連講演会 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | H30.8.4 | 江別市エラミックアートセンター研修室 | 35 |
| 8 | 「日本工芸の海外発信に向けて」 | 日本工芸会 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | H30.8.18 | 東京国立近代美術館講堂 | 150 |
| 9 | 「東京国立近代美術館工芸館移転連携事業 か・た・ちをめぐる冒険」オープニングトーク | 小松市立本陣記念美術館 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | H30.9.29 | 小松市立本陣記念美術館展示室 | 53 |
| 10 | 「出品作家と出品作品について」 | 日本×ファエンツァ 姉妹都市・国際陶芸展・陶芸学校交流の軌跡展 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | H30.10.5 | ファエンツァ国際陶芸美術館講堂 | 31 |
| 11 | 「東京国立近代美術館工芸館名品展 多彩なる近現代工芸の煌めき」オープニング・ギャラリートーク | 「東京国立近代美術館工芸館名品展 多彩なる近現代工芸の煌めき」展関連イベント | 中尾優衣 (主任研究員) | H30.10.6 | まなびあテラス 東根市美術館 | 20 |
| 12 | 「鉄釉を極めた陶芸家―石黒宗麿の世界―」 | 「没後 50 年 文人陶芸家石黒宗麿」展関連講演会 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | H30.10.14 | 射水市新湊博物館 | 68 |

| | | | | | | |
|----|--|--|-----------------|-----------|---|----|
| 13 | 「個人作家(陶芸家)としての芽生えと『乾比根会』」 | 「川喜田半泥子と乾比根会ー豊蔵・休和・問うよう陶友たちとの桃山復興ー」開催記念講演会 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | H30.10.20 | 三重県立美術館講堂 | 61 |
| 14 | 「日本の近現代工芸の歩みから現在を考える」 | 「東京国立近代美術館工芸館名品展 多彩なる近現代工芸の煌めき」展関連講演会 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | H30.11.3 | まなびあテラス 講座室 | 30 |
| 15 | 「東京国立近代美術館工芸館移転連携事業 茶の湯の道具 MODERN & CLASSIC」スペシャル・ギャラリートーク | 金沢市立中村記念美術館[(公財)金沢文化振興財団],「東京国立近代美術館工芸館名品展」等実行委員会(石川県・金沢市・東京国立近代美術館) | 唐澤昌宏 (工芸課長) | H30.11.10 | 金沢市立中村記念美術館展示室 | 37 |
| 16 | 東京国立近代美術館工芸館名品展「いろどりとすがた ガラス・染織・人形・金工から」ギャラリートーク | 東京国立近代美術館工芸館名品展等実行委員会(石川県・金沢市・東京国立近代美術館) | 唐澤昌宏 (工芸課長) | H30.11.24 | 石川県立美術館第5展示室 | 30 |
| 17 | 東京国立近代美術館工芸館名品展「いろどりとすがた ガラス・染織・人形・金工から」出品作家三代畠春斎アーティストトーク | 東京国立近代美術館工芸館名品展等実行委員会(石川県・金沢市・東京国立近代美術館) | 唐澤昌宏 (工芸課長) | H30.12.9 | 石川県立美術館第5展示室 | 20 |
| 18 | 東京国立近代美術館工芸館名品展「いろどりとすがた ガラス・染織・人形・金工から」ギャラリートーク | 東京国立近代美術館工芸館名品展等実行委員会(石川県・金沢市・東京国立近代美術館) | 唐澤昌宏 (工芸課長) | H30.12.24 | 石川県立美術館第5展示室 | 25 |
| 19 | 「日本の近現代工芸の歩みから現在を考える」 | 「東京国立近代美術館工芸館名品展 多彩なる近現代工芸の煌めき」展関連講演会 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | H30.12.22 | 瀬戸市文化センター文化交流館 22 会議室 | 38 |
| 20 | 「つくり手の言葉から工芸を考える」 | 広島大学教育ビジョン研究センター(EVRI)定例セミナー講演会 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | H31.2.1 | 広島大学大学院教育学研究科 B101 | 41 |
| 21 | 「近現代の美濃陶芸ー写しから創作へ」 | 「近現代の美濃陶芸 古典復興からの展開」展関連企画 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | H31.3.10 | 岐阜県現代陶芸美術館プロジェクトルーム | 35 |
| 22 | 「つくり手の言葉から工芸を考える」 | 日本工芸会中国支部研究会 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | H31.3.15 | 岡山県天神山文化プラザ第1会議室 | 35 |
| 23 | 「青瓷ー中島宏が追い求めたやきもの」 | 「人間国宝 中島宏展ー永遠の青磁ー」展記念講演会 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | H31.3.16 | 佐賀県立美術館画廊 | 45 |
| 24 | 「文化財修復の現状と近年の問題点ー《十二の鷹》を中心にー」 | 東京文化財研究所主催研究会 | 北村仁美 (主任研究員) | H30.11.22 | 東京文化財研究所地下1階セミナー室 | 60 |
| 25 | 「陶の表現四人展」ギャラリートーク | 銀座和光 | 花井久穂 (主任研究員) | H31.2.16 | 和光ホール | 60 |
| 26 | 「Inside Out: Contemporary Japanese Design」 | Maryland Institute College of Art 主催レクチャー | 野見山桜 (客員研究員) | H30.10.30 | Fred Lazarus IV Center, Maryland Institute College of Art | 60 |
| 27 | 「Representing Graphic Design in Japan」 | Herb Lubalin Study Center 主催シンポジウム | 野見山桜 (客員研究員) | H30.11.7 | Rose Auditorium, The Cooper Union | 95 |

| B. 雑誌等論文掲載 | | | | |
|---------------------------------------|---|-----------------|---|----------|
| 学術書籍, 研究報告書等の発行 | | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 発行者 | 発行年月日 |
| 1. | 「瀬戸陶芸の黎明期における富本憲吉の作陶」 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | 『愛知県史のしおり』(愛知県総務部法務文書課県史編さん室) | H30.9 |
| 2. | 「『白瓷』『練彩』『青瓷』—伊藤秀人の作品から見えてくるもの」 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | 『陶説』第786号(日本陶磁協会) | H30.9.1 |
| 3. | 「The 備前—土と炎から生まれる造形美—」 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | 『陶説』第791号(日本陶磁協会) | H31.2.1 |
| 4. | 「雑誌にみる近代京都の美術工芸—黒田天外の『日本美術と工芸』をめぐる」 | 中尾優衣 (主任研究員) | 並木誠士(編)『近代京都の美術工芸—制作・流通・鑑賞—』(思文閣出版) | H31.3.29 |
| 5. | 「3Dプリンタ時代の工芸家像」 | 北村仁美 (主任研究員) | 『a+a 美学研究』(大阪大学大学院文学研究科 美学研究室) | H31.3.31 |
| 【査読無し】論文掲載 | | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名(発行者) | 発行年月日 |
| 1 | 「想いの造形—津金日人夢の『青瓷』」 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | 「—三彩・白磁・青瓷—加藤清和・庄村久喜・津金日人夢展」図録(アトリエ ヒロ) | H30.4 |
| 2 | 対談「鈴木志野の造形美 鈴木藏×唐澤昌宏」 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | 「人間国宝 鈴木藏展」図録(三越伊勢丹) | H30.4 |
| 3 | 「『今』を映し出す陶の表現—石橋裕史の『彩刻磁』」 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | 「石橋裕史展」図録(そごう西武) | H30.4 |
| 4 | 「中里浩子の陶造形—植物的なるもの」 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | 「中里浩子展」図録(ギャリリ プス) | H30.4 |
| 5 | 「桃山陶から現代へ—美濃陶芸の歩みと“今”, そして未来」 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | 「桃山から現代へ 志野, 織部 伝統の継承展」図録(そごう美術館) | H30.6 |
| 6 | 「中田一於の作陶—『釉裏銀彩』を極める」 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | 「中田一於展」図録(そごう西武) | H30.6 |
| 7 | 「想いの造形—津金日人夢の『青瓷』」 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | 「津金日人夢作陶展」図録(三越伊勢丹) | H30.7 |
| 8 | 「中村信喬の人形—深層の芸術—」 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | 「中村信喬個展『TIME TRAVELER』」図録(三越伊勢丹) | H30.9 |
| 9 | 「日本×ファエンツァ—陶芸文化交流によせて」 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | 「日本×ファエンツァ 姉妹都市・国際陶芸展・陶芸学校 交流の軌跡展」図録(ファエンツァ国際陶芸美術館) | H30.10 |
| 10 | 「岩下幹氏の陶芸コレクション展『珠玉の近代陶芸』に寄せて」 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | 「珠玉の近代陶芸—TKK 岩下幹コレクション—」展図録(株式会社まめいく) | H30.11 |
| 11 | 「青瓷—中島宏が追い求めたやきもの」 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | 「人間国宝 中島宏展—永遠の青磁—」図録(サガテレビ, 佐賀県) | H31.3 |
| その他(研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, ウェブサイト等)の発表 | | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名(発行者) | 発行年月日 |
| 1 | 「審査批評」受賞作品解説: 山根陽子《絨織着物「好文木」》, 松浦弘美《ほら細織菱紹生絹着物「いにしへの小道」》, 佐故龍平《南鐙打出捻り茶器》」 | 今井陽子 (主任研究員) | 「第61回日本伝統工芸中国支部展」カタログ(日本工芸会中国支部) | H30.8.3 |
| 2 | 「受賞作品解説: 藤田美智子《木芯桐塑胡粉「雲錦」》」 | 今井陽子 (主任研究員) | 「第65回日本伝統工芸展」カタログ(日本工芸会) | H31.2.20 |

| | | | | |
|---|-------------------------------------|-----------------|-------------------------------------|-----------|
| 3 | 「『やきもの』って何だろう」「色絵」 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | 『淡交テキスト やきものを知る 12 のステップ』1(株式会社淡交社) | H31.1.1 |
| 4 | 「窯と燃料」「焼締」 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | 『淡交テキスト やきものを知る 12 のステップ』2(株式会社淡交社) | H31.2.1 |
| 5 | 「『釉薬』って何だろう」「青磁」 | 唐澤昌宏 (工芸課長) | 『淡交テキスト やきものを知る 12 のステップ』3(株式会社淡交社) | H31.3.1 |
| 6 | 日本・スウェーデン外交関係樹立 150 周年 インゲヤード・ローマン展 | 中尾優衣 (主任研究員) | 「文化庁広報誌 ぶんかる」(文化庁) (Web) | H30.9.25 |
| 7 | 図案の時代 | 野見山桜 (客員研究員) | 「文化庁広報誌 ぶんかる」(文化庁) (Web) | H30.12.18 |
| 8 | 「インタビュー 今、九谷焼に何が起きているのか」 | 花井久穂 (主任研究員) | 「九谷モダン」(芸術新聞社) | H31.3.10 |

イ 京都国立近代美術館

A. 学会等発表

| | タイトル | 学会等名 | 発表者氏名 (職名) | 日付 | 場所 | 聴講者数 (人) |
|----|--|---------------------------------------|-----------------|----------|--------------------|-------------|
| 1 | 〈若沖と並ぶ画家〉鶴亭の足跡と交友について | KU-ORCAS 国際シンポジウム「大坂画壇と京・大坂の文化ネットワーク」 | 平井啓修 (研究員) | H30.7.28 | 関西大学 | 43 |
| 2 | 特別対談 絹谷幸二氏／平井啓修氏 | 「絹谷幸二 色彩とイメージの旅」展 | 平井啓修 (研究員) | H30.12.8 | 北海道立近代美術館講堂 | 230 |
| 3 | シンポジウム「ファッション批評は可能か？」 | 表象文化論学会 | 牧口千夏 (主任研究員) | H30.7.7 | 神戸大学 | 100 |
| 4 | 感覚をひらく事業について | 大分県公立美術館・博物館職員研修会 | 牧口千夏 (主任研究員) | H31.3.18 | iichiko 総合文化センター | 20 |
| 5 | 「感覚をひらく—新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業について」 | 第 51 回 全国美術館会議教育普及部会合 | 松山沙樹 (特定研究員) | H30.11.6 | 東京都美術館 アートスタディールーム | 60 |
| 6 | 感覚をひらく事業について | 大分県公立美術館・博物館職員研修会 | 松山沙樹 (特定研究員) | H31.3.18 | iichiko 総合文化センター | 20 |
| 7 | 地方銀行の製糸金融と繭担保倉庫の発生 明治二九年竣工 旧本庄商業銀行煉瓦倉庫建設過程からみる地域産業発達の近代的特質 | 文化資源学会 | 本橋仁 (特定研究員) | H30.12.8 | 東京大学 | 30 |
| 8 | 建築資料的価値を持った映像資料の発見と活用方法の研究 —NHK 教育「テレビの旅」を事例として— | 日本建築学会 | 本橋仁 (特定研究員) | H30.9.6 | 東北大学 | 60 |
| 9 | 分離派建築会と建築における「田園的なもの」(司会) | 分離派 100 年研究会 | 本橋仁 (特定研究員) | H30.6.16 | 京都大学 | 100 |
| 10 | ディスカッション・シリーズ 第 2 回「次世代で悩む！—受け継ぎたい“建築の日本”」 | 森美術館主催、建築の日本展 関連イベント | 本橋仁 (特定研究員) | H30.6.10 | 森美術館 | 80 |
| 11 | 「絵に見る忘れもの 日本の美意識」 | 京都新聞 日本人の忘れもの 知恵会議フォーラム 2018 | 柳原正樹 (館長) | H30.5.21 | 京都国立近代美術館講堂 | 119 |
| 12 | 「美術(びじゅつ) 四方山話(よもやまばなし)」 | 「日本モダンの精華 京都国立近代美術館コレクション」展トークイベント | 柳原正樹 (館長) | H30.9.21 | 大分県立美術館 2 階研修室 | 80 |

B. 雑誌等論文掲載

学術書籍、研究報告書等の発行

| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名(発行者) | 発行年月日 |
|---|--------------------|-----------------|-----------|----------|
| 1 | 『百年の泉—便器が芸術になるとき—』 | 牧口千夏 (主任研究員) | リクシル出版 | H30.4.25 |

| 【査読有り】論文掲載 | | | |
|---|--|-----------------|--|
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名(発行者) 発行年月日 |
| 1 | 保存運動の経過と残された記録 資料に関する考察 -旧帝国ホテルの解体から移築に関する研究(その2)- | 本橋仁 (特定研究員) | 日本建築学会技術報告集 = AIJ journal of technology and design 25(59) pp.473-476 H31.2 |
| 【査読無し】論文掲載 | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名(発行者) 発行年月日 |
| 1 | 「伊予の美術史における郷土性としての周縁性」 | 梶岡秀一 (主任研究員) | 『美術フォーラム 21』37号 (醍醐書房) H30.5.30 |
| 2 | 「伊藤五百亀の生誕 100年と郷里の先輩芸術家たち」 | 梶岡秀一 (主任研究員) | 『彫刻家 伊藤五百亀 作品集』(五百亀記念館) H30.9.1 |
| 3 | 京都洋画壇における田村宗立の功績 | 平井啓修 (研究員) | 南丹市立文化博物館 H30.10.25 |
| 4 | [資料紹介] 鶴亭《梅に叭々鳥図》(町立久万美術館蔵) | 平井啓修 (研究員) | 『美術フォーラム 21』第38号 H30.11.30 |
| 5 | 建築の工芸性はマーブルのように漂う | 本橋仁 (特定研究員) | 「建築の日本展 その遺伝子のもたらすもの」展図録 (森美術館) H30.9 |
| 6 | プロジェクト解説 (村野藤吾「佳水園」全8件) | 本橋仁 (特定研究員) | 「建築の日本展 その遺伝子のもたらすもの」展図録 (森美術館) H30.9 |
| 7 | 小屋の上に、大屋根をかける | 本橋仁 (特定研究員) | TOTO 通信 H30.4 |
| 8 | 家をつくる図面 第9回 変わりつづける住まいの計画 スカイハウス 設計 菊竹清訓 菊竹紀枝 | 本橋仁 (特定研究員) | 新建築社 住宅特集 H30.4 |
| 9 | 学校としてのバウハウス、その日本への展開 | 本橋仁 (特定研究員) | YKK 窓研究所 H31.2 |
| 10 | 「風の美学」 | 柳原正樹 (館長) | 花鳥風月 こころに響く美の世界 光ミュージアムの名品より展 図録 (富山県水墨美術館) H30.9 |
| 11 | 美術力—葡萄酒のごとく— | 柳原正樹 (館長) | 愉しきかな! 人生一老当益 壯の画人たち—展 図録(碧南市藤井達吉現代美術館) H30.10.30 |
| その他 (研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, ウェブサイト等) の発表 | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名(発行者) 発行年月日 |
| 1 | 生誕 110年 東山魁夷展 | 小倉美子 (主任研究員) | 「文化庁広報誌 ぶんかる」(文化庁) (Web) H30.8.13 |
| 2 | 「奇抜, 大胆 巨匠の核心 生誕 150年 横山大観 展」 | 梶岡秀一 (主任研究員) | 『京都市民報』2837号 (京都市民報社) H30.6.3 |
| 3 | 「横山大観展 作品紹介① 実験精神が健在」 | 梶岡秀一 (主任研究員) | 『毎日新聞』(毎日新聞大阪本社) H30.6.16 |
| 4 | 「横山大観展 作品紹介② 海外で自信回復」 | 梶岡秀一 (主任研究員) | 『毎日新聞』(毎日新聞大阪本社) H30.6.18 |
| 5 | 「横山大観展 作品紹介③ 琳派風とドラマ性」 | 梶岡秀一 (主任研究員) | 『毎日新聞』(毎日新聞大阪本社) H30.6.19 |
| 6 | 「横山大観展 作品紹介④ 40メートルの壮大な最高傑作」 | 梶岡秀一 (主任研究員) | 『毎日新聞』(毎日新聞大阪本社) H30.6.21 |
| 7 | 「横山大観展 作品紹介⑤ 未来への祈り込め」 | 梶岡秀一 (主任研究員) | 『毎日新聞』(毎日新聞大阪本社) H30.6.25 |
| 8 | 新人作家紹介「渡會保浩」 | 大長智広 (研究員) | 『美術の窓』416号 (生活の友社) H30.4.20 |
| 9 | 書評『京焼 伝統と革新』 | 大長智広 (研究員) | 『週刊 京都市民報』(京都市民報社) H30.9.30 |

| | | | | |
|----|------------------------------------|----------------|---|------------------------|
| 10 | 進化し続ける画家の深奥にある想い | 平井啓修 (研究員) | 『新美術新聞』No.1490 (美術年鑑社) | H30.12.1 ・11 合併号 |
| 11 | 世紀末ウィーンのグラフィック デザインそして生活の刷新にむけて | 本橋仁 (特定研究員) | 「文化庁広報誌 ぶんかる」 (文化庁) (Web) | H30.2.14 |
| 12 | 紙魚になれ! | 本橋仁 (特定研究員) | 建築資料研究社 住宅建築 | H30.2 |
| 13 | 展覧会によせて 一石に思いを刻む | 柳原正樹 (館長) | 絹谷幸太-石の記憶-展 図録(NUKAGAGALLERY) | H30.4.1 |
| 14 | 三軌会 70 回記念展によせて—彫刻と工芸— | 柳原正樹 (館長) | 三軌会 70 周年 会報 作品評 (三軌会) | H30.7 |
| 15 | 展覧会によせて 一作陶に思いを託す— | 柳原正樹 (館長) | 高島屋美術部創設 110 年記 念文化功労者 今井政之米寿 展 図録 (高島屋美術部) | H30.9 |
| 16 | 展覧会によせて | 柳原正樹 (館長) | 矢橋 頌太郎 展 SHOTARO YABASHI—頭 上漫々— HP, DM 宣伝文 (名古屋画廊) | H30.10 |
| 17 | 工芸美術創工会 30 周年に よせて | 柳原正樹 (館長) | 工芸美術創工会 30 周年記 念展 図録 (工芸美術創工 会) | H30.11.1 |
| 18 | 展覧会によせて 一次なる扉を開く— | 柳原正樹 (館長) | 篠田守男「Tension and Compression」展 図録 (テヅカヤマギャラリー) | H30.11 |
| 19 | 出版によせて | 柳原正樹 (館長) | 「集積-あるふあべつとのか たちたち」 玉本奈々著(青 海社) | H31.1.1 |

ウ 国立映画アーカイブ

A. 学会等発表

| | タイトル | 学会等名 | 発表者氏名 (職名) | 日付 | 場所 | 聴講者数 (人) |
|---|--|---|-----------------|----------|-----------------|-------------|
| 1 | 「地域における映画フィルムの保存と活用」 | 地域映像上映「映像の仙台史」 | 大澤浄 (主任研究員) | H30.4.29 | せんだいメディアテーク | 93 |
| 2 | 「大学における映像アーカイブ教育について」 | 日本映像アーキビストの会 | 岡田秀則 (主任研究員) | H30.6.16 | 國學院大學 | 30 |
| 3 | 映画『ファントマ』について | アンスティチュ・フランセ 東京 | 岡田秀則 (主任研究員) | H30.7.14 | アンスティチュ・フランセ 東京 | 50 |
| 4 | 「フィルムアーカイブの眼で見た映画～その過去・現在・未来」 | 全国映連 映画大学 | 岡田秀則 (主任研究員) | H30.7.15 | 全労連会館 | 70 |
| 5 | 基調講演「国立映画アーカイブの発足と今後の展望」 | 第 13 回映画の復元と保存に関するワークショップ | 入江良郎 (学芸課長) | H30.8.25 | 京都府京都文化博物館 | 150 |
| 6 | 大阪朝日新聞懸賞映画『二つの玉』(1926年)をめぐる | 科学研究費研究課題「『朝日会館』の子供を対象とした文化活動の検証及び記録化と、社会教育への影響研究」(基盤研究 C/代表者:山本美紀)主催の研究会 | 紙屋牧子 (特定研究員) | H30.9.2 | 東京大学 | 5 |
| 7 | 「フィルムセンターから国立映画アーカイブへ: 転換期の映画保存事業」 | 三田図書館・情報学会 | 入江良郎 (学芸課長) | H30.9.15 | 慶應義塾大学 | 30 |
| 8 | 天皇・皇族の身体の可視化/不可視化について:大正期から昭和初期の映画を手がかりに | 第 69 回美学会全国大会 | 紙屋牧子 (特定研究員) | H30.10.7 | 関西大学 | 50 |

| | | | | | | |
|----|--|--|------------------------------------|-----------|---|----|
| 9 | 梅屋庄吉と『日本南極探検』一受け継がれる映画遺産 | 梅屋庄吉生誕 150 周年・明治 150 年記念企画展「映画界の風雲児 梅屋庄吉」関連講演会「映画起業家としての梅屋庄吉」 | 大傍正規 (主任研究員) | H30.11.17 | 長崎県歴史博物館 | 50 |
| 10 | 戦前・戦時期の大阪朝日会館の映画上映について | 科学研究費研究課題「『朝日会館』を巡る文化活動の記録化とその歴史的影響の分析」(基盤研究 C/代表者: 山上揚平)主催のシンポジウム「朝日会館と京阪神モダニズム 戦前・戦中・戦後」 | 紙屋牧子 (特定研究員) | H30.12. 3 | 大阪大学 | 70 |
| 11 | Les coulours Agfa d'Ozu | « 100 ans de cinéma japonais – La magie du 4K à travers les grands classiques » dans le cadre de Japonismes 2018 | 大傍正規 (主任研究員) | H30.12.7 | Maison de la culture du Japon à Paris | 50 |
| 12 | エノケンと戦前期モダニズム | 早稲田大学演劇博物館演劇映像学連携研究拠点 公募研究「栗原重一旧蔵楽譜を中心とした楽士・楽団研究」(研究代表者: 中野正昭)主催の公開研究会「『エノケンの楽団と舞台・映画・レコード』 | 紙屋牧子 (特定研究員) | H31.1. 30 | 早稲田大学 | 60 |
| 13 | 京都映画ノンフィルム資料アーカイブ シンポジウム | 京都映画ノンフィルム資料アーカイブ | 岡田秀則 (主任研究員) | H31.2.6 | 京都大学楽友会館 | 50 |
| 14 | Activities of National Film Archive of Japan | Mekong-Japan Exchange Year 2019 “Film Archivists Special Lecture-Preserving Our Film Heritage for the Future-” | 西川亜希 (特定研究員) | H31.2.16 | Film Development Centre, Yangon (Myanmar) | 40 |
| 15 | Christian Representation during the Occupation Era with a focus on Gate of Flesh | Kinema Club XVIII | 紙屋牧子 (特定研究員) | H31.2. 24 | イエール大学 | 50 |
| 16 | Restoring Two-Colour Film and Early Fuji Colour Film: Towards a More Material Approach to Colour Grading | The Fourth International Conference, Colour in Film | 大傍正規 (主任研究員) 大関勝久 (研究補佐員) | H31.2.26 | BFI Southbank(London) | 50 |
| 17 | 「岩佐寿弥―ドキュメンタリーの彼岸を見た人」 | 第 17 回中之島映像劇場 | 岡田秀則 (主任研究員) | H31.3.23 | 国立国際美術館 | 89 |
| 18 | 国立映画アーカイブ所蔵ノンフィルム資料の保存・公開事業 | 「芸術と対話しつつ生きる価値を創造するプロジェクト事業」研究会 (京都大学人文科学研究所) | 紙屋牧子 (特定研究員) | H31.3. 25 | 京都大学 | 15 |

B. 雑誌等論文掲載

【査読有り】論文掲載

| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名 (発行者) | 発行年月日 |
|---|--|--|--|----------|
| 1 | アニメーション映画のオンライン公開 ―「日本アニメーション映画クラシックス」における取り組み― | 三浦和己 (研究員) 木村智哉 (明治学院大学) 岡本直佐 (特定研究員) | 『コンピュータ&エデュケーション』VOL.44 (コンピュータ利用教育学会) | H30.6.1 |
| 2 | 最初期の「皇室映画」に関する考察: 隠される／晒される身体 | 紙屋牧子 (特定研究員) | 『映像学』第 100 号 (日本映像学会) | H30.7.25 |

| 【査読無し】論文掲載 | | | | | | |
|---------------------------------------|---|--|---|-----------|---------------------------------|-------------|
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名(発行者) | 発行年月日 | | |
| 1 | フィルムセンターから国立映画アーカイブへ ～映画の保存活動とデジタル時代の取り組み～ | 入江良郎 (学芸課長) 三浦和己 (研究員) 岡本直佐 (特定研究員) | 『専門図書館』292号(専門 図書館協議会) | H30.11.25 | | |
| 2 | Les couleurs Agfa d'Ozu | 大傍正規 (主任研究員) | 100 ans de cinéma japonais(Éditions de La Martinière) | H30.10月 | | |
| 3 | 書評「日本におけるフィルムアーカイブ活動史」 | 岡田秀則 (主任研究員) | 『映像学』第101号(日本 映像学会) | H31.1.25 | | |
| その他(研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, ウェブサイト等)の発表 | | | | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名(発行者) | 発行年月日 | | |
| 1 | アートダイアリー 045「国立映画アーカイブ開館記念 映 画を残す, 映画を活かす。」 | 富田美香 (主任研究員) | 「文化庁広報誌 ふんかる」 (文化庁) (Web) | H30.4.8 | | |
| 2 | 「国立美術館の映画専門機関『国立映画アーカイブ』」 | 富田美香 (主任研究員) | 『カレントアウェアネス- E』No.345, 国立国会図書 館 | H30.4.19 | | |
| 3 | 「活動写真渡来 120年前の映画体験」 | 入江良郎 (学芸課長) | 『まわる映写機 めぐる人 生』パンフレット(森田恵子) | H30.9月 | | |
| 4 | 「こども映画館の新たな展開」 | 碓井千鶴 (特定研究員) | 「教育美術」2018年11月 号(教育美術振興会) | H30.11.1 | | |
| 5 | 「映画雑誌は未来を見据えれば王道はない」映画史研究家・ 本地陽彦インタビュー | 入江良郎 (学芸課長) | 『ジャックと豆の木』6号 (エデュイットジャパン) | H30.11.1 | | |
| 6 | 「映画ポスターのなかの女性美—アンナ・カリーナの場合」 | 岡田秀則 (主任研究員) | 『美術の窓』423号(生活の 友社) | H30.11.20 | | |
| 7 | 「「ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」記念特別イベント 製 作50周年記念『2001年宇宙の旅』70mm版特別上映」報 告」 | 富田美香 (主任研究員) | 『録音』(日本映画テレビ録 音協会) | H31.3.25 | | |
| 8 | 「小津安二郎における絵画とデザイン」 | 岡田秀則 (主任研究員) | 『小津安二郎 大全』(朝日 新聞出版) | H31-3.27 | | |
| ウ 国立西洋美術館 | | | | | | |
| A. 学会等発表 | | | | | | |
| | タイトル | 学会等名 | 発表者氏名 (職名) | 日付 | 場所 | 聴講者数 (人) |
| 1 | 国際シンポジウム 「bauhaus imaginista: Correspondence With 文化 圏を超えた交流—20世紀の インド・日本・ドイツにおけ る美術・デザイン教育をめ ぐって」パネリスト | 主催: ゲーテ・インスティ テュート, バウハウス協会 ドイツ・ベルリン・ヴァイマ ール | 池田祐子 (主任研究員) | H30.8.5 | ゲーテ・イン スティテュ ート東京・ホ ール | 65 |
| 2 | 講演会「世紀末ウィーンと グラフィック—芸術の総合 と民主化の試み」 | 主催: 京都国立近代美術 館 | 池田祐子 (主任研究員) | H31.1.19 | 京都国立近代 美術館1階講 堂 | 80 |
| 3 | 「Current Status and Future Prospects of The Art Library Consortium (ALC) of Japan」 | 8 th International Conference of Art Libraries | 川口雅子 (主任研究員) | H30.10.5 | アムステルダ ム国立美術 館 | 130 |

| | | | | | | |
|----|--|--|--------------------|-----------|--------------------------|-----|
| 4 | 「日本の展覧会カタログ論文の国際的な可視性を高めるための取り組み——『東京文化財研究所美術文献目録』のOCLCへの提供」 | アート・ドキュメンテーション学会 第11回秋季研究集会 | 川口雅子 (主任研究員) | H30.10.13 | お茶の水女子大学 | 100 |
| 5 | 「国立西洋美術館 研究資料センター」 | 図書館総合展フォーラム「ミュージアムの未来と専門図書館」 | 川口雅子 (主任研究員) | H30.10.31 | パシフィコ横浜 | 200 |
| 6 | 「問題の所在：欧米先進諸国の状況」 | 第66回全国博物館大会分科会3「世界とつながるコレクション情報」 | 川口雅子 (主任研究員) | H30.11.29 | 国立西洋美術館講堂 | 70 |
| 7 | 「海外事例に学ぶ美術アーカイブズ検索手段のあり方」 | 平成30年度 全国美術館会議 第33回学芸員研修会「美術館のアーカイブズ資料の可視化とさらなる活用に向けて」 | 川口雅子 (主任研究員) | H31.3.22 | 東京国立近代美術館 | 186 |
| 8 | 「ブラド美術館展 ベラスケスと絵画の栄光」企画説明 | スペイン・ラテンアメリカ美術史研究会シンポジウム「黄金世紀のスペイン美術」 | 川瀬佑介 (主任研究員) | H30.4.28 | 国立西洋美術館講堂 | 80 |
| 9 | 光と影：スペイン美術の魅力 | オールソフィアンズフェスティバル基調講演 | 川瀬佑介 (主任研究員) | H30.5.25 | 上智大学ソフィアタワー5階 502 教室 | 100 |
| 10 | 女性と人形制作—上村露子とその活動の再解釈 | 日本人形玩具学会 | 吉良智子 (リサーチフェロー) | H30.6.23 | 早稲田大学 | 100 |
| 11 | 「人形」は「女の子」のものなのか：人形をめぐる近現代史 | 立教大学ジェンダーフォーラム | 吉良智子 (リサーチフェロー) | H30.7.23 | 立教大学 | 30 |
| 12 | 「トーヴェ・ヤンソンの1930年代後半から40年代の絵画に見られるアンリ・マティスの影響」 | フィンランドセンター主催「トーヴェ・ヤンソン会議」 | 久保田有寿 (特定研究員) | H30.11.21 | 明治記念館, 鳳凰の間 | 180 |
| 13 | Rembrandt in Japan / Rembrandt on Japan | Netherlandish Art and the World | 幸福輝 (客員研究員) | H30.10.25 | Utrecht University | 40 |
| 14 | 「13世紀後半 北フランス制作『ラテン語ウルガータ訳聖書写本』—中世フランスの掌中の聖書—」 | 第25回(2018年度)関西学院大学図書館学術資料講演会 | 駒田亜紀子 (客員研究員) | H30.11.30 | 関西学院大学西宮上ヶ原キャンパス大学図書館ホール | 50 |
| 15 | 石造菩薩頭部彩色の自然科学的調査 | 日本文化財科学会 | 高嶋美穂 (特定研究員) | H30.7.6 | 奈良女子大学 | 300 |
| 16 | 「多様な主体との連携による教育活動」 | 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター | 寺島洋子 (主任研究員) | H30.12.13 | 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター | 32 |
| 17 | 「西洋美術コレクションを作った二人の明治人 林忠正と松方幸次郎」 | 日本女子大学生涯学習センター2018年度前期特別講演会 | 馬淵明子 (館長) | H30.4.15 | 日本女子大学目白キャンパス | 100 |
| 18 | 「ジャポニズムを生んだ浮世絵版画, 絵本, 型紙」 | 「融合の視界アジアとヨーロッパ版画名品展」国際シンポジウム | 馬淵明子 (館長) | H30.6.16 | 上海大学美術学院国際会議中心 | 200 |
| 19 | 「北斎とジャポニズム HOKUSAI が西洋に与えた衝撃」 | 墨田区すずかけひろば講演会 | 馬淵明子 (館長) | H30.9.29 | すみだ女性センターホール | 160 |
| 20 | 「ジャポニズムは「女性的」か」 | ジャポニズム学会 | 馬淵明子 (館長) | H30.10.6 | 拓殖大学文京キャンパス | 100 |
| 21 | 「「美術館の裏側」と「松方コレクション」」 | 最高裁判所特別講演会 | 馬淵明子 (館長) | H30.10.10 | 最高裁判所 | 50 |

| | | | | | | |
|-------------------|---|--|--|------------|--------------|----|
| 22 | Etude sur la céramique romaine de la collection Aubert-Buès | Rencontre avec le public à la suite du vernissage d'exposition | 向井朋生 (リサーチフェロー) | H30.12.1 | オート・アルプ県立博物館 | 20 |
| B. 雑誌等論文掲載 | | | | | | |
| 学術書籍, 研究報告書等の発行 | | | | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名 (発行者) | 発行年月日 | | |
| 1 | 「ジョルジュ・ド・ラ・トゥールの失われた原作に基づく《聖アレクシウス》の遺体の発見について」 | 秋元優季 (研究補佐員) | 近世美術研究会(編)『イメージ制作の場と環境—西洋近世・近代美術史における画像学と美術理論』(中央公論美術出版) | H30.11.30 | | |
| 2 | 「あるべき」女兒用人形とは何か——「妊娠」した女兒用人形をめぐって」 | 吉良智子 (リサーチフェロー) | 『〈妊婦〉アート論 孕む身体を奪取する』 青弓社 | H30.1.30 | | |
| 3 | 『17世紀オランダ美術と〈アジア〉』 | 幸福輝 (客員研究員) | 中央公論美術出版 | H30.11.30 | | |
| 4 | 「ギャラリー・トーク コピーとオリジナル」 | 陳岡めぐみ (主任研究員) | 集英社 | H30.4.18 | | |
| 5 | 「ギャラリー・トーク 展覧会の誕生と変遷」 | 陳岡めぐみ (主任研究員) | 集英社 | H30.5.20 | | |
| 6 | 「ヤン・ファン・ケッセル(父) およびエラスムス・クウェリヌス作《アジア》(ミュンヘン, アルテ・ピナコテーク) —アジアの寓意表現の特徴とアジアへのまなざし」 | 中田明日佳 (主任研究員) | 幸福輝編『17世紀オランダ美術と〈アジア〉』(中央公論美術出版) | H.30.11.30 | | |
| 7 | 「ギャラリー・トーク 描かれたものを読み解く」 | 渡辺晋輔 (主任研究員) | 集英社 | H30.6.20 | | |
| 【査読有り】論文掲載 | | | | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名 (発行者) | 発行年月日 | | |
| 1 | A novel LC-MS method using collagen marker peptides for species identification of glue applicable to samples with multiple animal origins | 高嶋美穂 (特定研究員) | HeritageScience (Springer Nature) | H30.7.16 | | |
| 2 | クフ王第2の船出土遺物の有機物質の分析 | 高嶋美穂 (特定研究員) | 『昌平エジプト考古学会紀要』7号(東日本国際大学) | H31.3 | | |
| 3 | 国立西洋美術館本館の活用方策について | 福田京 (専門職員) | 『文化財建造物研究—保存と修理』4号(文化財建造物保存修理研究会) | H31.3 | | |
| 【査読無し】論文掲載 | | | | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名 (発行者) | 発行年月日 | | |
| 1 | 翻訳・編集 | 池田祐子 (主任研究員) | 『バウハウスへの応答 bauhausimaginista:Corresponding With』 会場配布パンフレット(京都国立近代美術館) | H30.8 | | |
| 2 | 「世紀末ウィーンのグラフィックデザインそして生活の刷新にむけて」 | 池田祐子 (主任研究員) | 『京都国立近代美術館所蔵世紀末ウィーンのグラフィックデザインそして生活の刷新にむけて』展図録(京都国立近代美術館) | H31.1 | | |
| 3 | 作家解説・翻訳・編集 | 池田祐子 (主任研究員) | 『京都国立近代美術館所蔵世紀末ウィーンのグラフィックデザインそして生活の刷新にむけて』展図録(京都国立近代美術館) | H31.1 | | |
| 4 | 「仏蘭久淳子の世界—パリに吹いた一陣の風」 | 馬淵明子 (館長) | 「仏蘭久淳子」展リーフレット(吉井画廊) | H30.5.21 | | |
| 5 | 「北斎とジャポニスム」 | 馬淵明子 (館長) | 『文化学研究』第27号(日本女子大学文化学会) | H30.6.23 | | |

| | | | | | | |
|---------------------------------------|--|----------------------------------|--------------------------------|-----------|-----------------------|-------------|
| 6 | 「ジャポニスム展 1988-2017年」 | 馬淵明子 (館長) | 『ジャポニスム研究』第38号(ジャポニスム学会) | H30.12.17 | | |
| 7 | 「ジャポニスムは女性的か」 | 馬淵明子 (館長) | 『ジャポニスム研究』第38号別冊(ジャポニスム学会) | H31.3.31 | | |
| その他(研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, ウェブサイト等)の発表 | | | | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名(発行者) | 発行年月日 | | |
| 1 | 「ミケランジェロと理想の身体」 | 飯塚隆 (主任研究員) | 『うへの』710号(上野のれん会) | H30.6 | | |
| 2 | 「ミケランジェロと理想の身体」展 | 飯塚隆 (主任研究員) | 「文化庁広報誌 ぶんかる」(文化庁)(Web) | H30.7.24 | | |
| 3 | ぎやらりいモール | 飯塚隆 (主任研究員) | 読売新聞夕刊 | H30.8.14 | | |
| 4 | 「ローマの景観—そのイメージとメディアの変遷」 | 池田祐子 (主任研究員) | 『うへの』716号(上野のれん会) | H30.12 | | |
| 5 | 「日本の美術情報国際発信の夜明け: 美術作品や文献をめぐる3つのプロジェクト」 | 川口雅子 (主任研究員) | 「アートスケープ」(DNP)(Web) | H31.1.15 | | |
| 6 | 「情報・資料研究部会」 | 川口雅子 (主任研究員) | 『ZENBI 全国美術館会議機関誌』15号(全国美術館会議) | H31.1.31 | | |
| 7 | フェルメール会議 | 川瀬佑介 (主任研究員) | フェルメール会議(双葉社) | H30.10.2 | | |
| 8 | 「マール画廊と20世紀の画家たち—美術雑誌『デリエール・ミロワール』を中心に」 | 久保田有寿 (特定研究員) | 『うへの』709号(上野のれん会) | H30.5.1 | | |
| 9 | 「「かもしれない」を生き直すベルソナ—ポスト真実の時代に」(「アンディ・ホープ1930」展レビュー) | 新藤淳 (研究員) | Web版『美術手帖』(美術出版社) | H30.4.30 | | |
| 10 | 「ペインタリーな家族的類似—ムンクと現代絵画」 | 新藤淳 (主任研究員) | 『美術手帖』2018年10号増刊(美術出版社) | H30.10.15 | | |
| 11 | 「平成ならざる平面たちは—2度目の選考所感」 | 新藤淳 (主任研究員) | 『シェル美術賞2018』(昭和シェル石油) | H30.12.12 | | |
| 12 | 「発見された大画面「睡蓮」」 | 馬淵明子 (館長) | 『美術の窓』No.417(生活の友社) | H30.6.20 | | |
| 13 | 「ルーベンス展—バロックの誕生」 | 渡辺晋輔 (主任研究員) | 『BM/美術の杜』No.47(美術の杜出版株式会社) | H30.8.24 | | |
| 14 | 「ルーベンス展—バロックの誕生」 | 渡辺晋輔 (主任研究員) | 『うへの』714号(上野のれん会) | H30.10.1 | | |
| 15 | 「知れば知るほど、面白い。「ルーベンス展」を攻略する。」 | 渡辺晋輔 (主任研究員) | 『クロワッサン』10月25日号, No.983 | H30.10.10 | | |
| 16 | 「ルーベンス展—バロックの誕生」 | 渡辺晋輔 (主任研究員) | 「文化庁広報誌 ぶんかる」(文化庁)(Web) | H30.10.26 | | |
| 17 | 「これだけは見ておきたいルーベンス10選」 | 渡辺晋輔 (主任研究員) | 『芸術新潮』11月号(新潮社) | H30.11.25 | | |
| 18 | 「アントウェルペンの画家が、ヨーロッパの巨匠になるまで」 | 渡辺晋輔 (主任研究員) | 『芸術新潮』11月号(新潮社) | H30.11.25 | | |
| 19 | 「イタリアを胸に、求めた理想」 | 渡辺晋輔 (主任研究員) | 朝日新聞夕刊 | H30.11.29 | | |
| オ 国立国際美術館 | | | | | | |
| A. 学会等発表 | | | | | | |
| | タイトル | 学会等名 | 発表者氏名 (職名) | 日付 | 場所 | 聴講者数 (人) |
| 1 | 「世界とつながるコレクション情報—国立国際美術館の事例」 | 第66回日本博物館大会分科会3「世界とつながるコレクション情報」 | 植松由佳 (主任研究員) | H30.11.29 | 国立西洋美術館講堂 | 70 |
| 2 | ベク・スンウ×植松由佳トークイベント | 「Volatile Judgement」展トークセッション | 植松由佳 (主任研究員) | H30.7.14 | アンダースロー | 20 |
| 3 | Seung-Woo Back Talk event | 「Seung-Woo Back」展トーク | 植松由佳 (主任研究員) | H30.9.17 | Gana Art Hannam (ソウル) | 30 |

| | | | | | | |
|----|---------------------|--|-----------------|-----------|-------------|-----|
| 4 | 「デモクラート 7年の歩みとその遺産」 | 「コレクションを核に 関西ゆかりのデモクラートの作家たち 泉茂・山中嘉一・吉田利次・吉原英雄」展講演会 | 安來正博 (主任研究員) | H30.8.25 | BB プラザ美術館 | 50 |
| 5 | 「風景画の誕生と崩壊」 | 「ブーシキン美術館展——旅するフランス風景画」記念講演会 | 山梨俊夫 (館長) | H30.5.12 | 東京都美術館 | 130 |
| 6 | 「美術館と地域活性化」 | 公益社団法人関西経済連合会評議員会講演会 | 山梨俊夫 (館長) | H30.7.9 | リーガロイヤル NCB | 70 |
| 7 | 「片岡球子の奔放な世界」 | 秋季特別展「没後 10年 片岡球子 情熱の日本画」展記念講演会 | 山梨俊夫 (館長) | H30.10.14 | 井原市民会館 | 40 |
| 8 | 「世界とつながるコレクション情報」 | 第 66 回全国博物館大会分科会 3「世界とつながるコレクション情報」 | 山梨俊夫 (館長) | H30.11.29 | 国立西洋美術館 | 70 |
| 9 | 国立国際美術館館長による特別講演会 | 平成 30 年度独立行政法人国立美術館巡回展「国立国際美術館コレクション：美術のみかた 自由自在」特別講演会 | 山梨俊夫 (館長) | H31.1.12 | 福岡県立美術館 | 37 |
| 10 | 「見ることをめぐって」 | 平成 30 年度独立行政法人国立美術館巡回展「国立国際美術館コレクション：美術のみかた 自由自在」記念講演会 | 山梨俊夫 (館長) | H31.2.16 | 豊橋市美術博物館 | 72 |

B. 雑誌等論文掲載

学術書籍、研究報告書等の発行

| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名 (発行者) | 発行年月日 |
|---|---------------------|--------------------|----------------------------------|----------|
| 1 | 「吉岡千尋と「ミーマーシス」の煌めき」 | 中井康之 (副館長兼学芸課長) | 『吉岡千尋 ミーマーシス』 (アートコートギャラリー) | H30.7.1 |
| 2 | 『絵画の身振り』 | 山梨俊夫 (館長) | ブリュッケ | H30.11.1 |

【査読無し】論文掲載

| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名 (発行者) | 発行年月日 |
|---|---------------------------------|--------------------|--|-----------|
| 1 | 「《表面から表面へ》その生成の論理」 | 中井康之 (副館長兼学芸課長) | 「小清水漸「視覚と身体と物質の刹那」展リーフレット (ギャラリーヤマキファインアート) | H30.7 |
| 2 | 「金淵奎 (キム・ヨンギュ) の世界観 (コスモス) と氣象」 | 中井康之 (副館長兼学芸課長) | 「金淵奎」展図録『ボタニカル・メモリー (植物の記憶) : 金淵奎の芸術』 (戸村美術) | H30.10.15 |
| 3 | 「田中真吾」 | 福元崇志 (研究員) | 「VOCA 展 2019 現代美術の展望—新しい平面の作家たち」図録 (上野の森美術館) | H31.3 |
| 4 | 「未然の軌跡 川島慶樹の創作遍歴」 | 安來正博 (主任研究員) | 「川島慶樹 「Twiggy Project」」展リーフレット (アートコートギャラリー) | H30.5.1 |
| 5 | 「『現場で使える 美術著作権ガイド』改訂版を準備中」 | 山梨俊夫 (館長) | 『ZENBI 全国美術館会議機関誌』15号 (全国美術館会議) | H31.1.31 |

その他 (研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, ウェブサイト等) の発表

| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名 (発行者) | 発行年月日 |
|---|----------------------------|--------------------|-------------------------|----------|
| 1 | 「「パフォーマンス・アート」—その表現と体験の深化」 | 中井康之 (副館長兼学芸課長) | 「アートスケープ」 (大日本印刷) (Web) | H30.7.15 |

| | | | | |
|---|--|--------------------|--|-----------|
| 2 | 「「芸術作品」について」 | 中井康之 (副館長兼学芸課長) | 「アーツスケープ」(大日本印刷) (Web) | H30.12.15 |
| 3 | アートダイアリー 047「テーマ別に所蔵作品を見る」 | 中西博之 (主任研究員) | 「文化庁広報誌 ぶんかる」(文化庁) (Web) | H30.6.20 |
| 4 | 「自分語りの文法」 | 福元崇志 (研究員) | 「小川直樹」展 展覧会テキスト (O Gallery eyes) (Web) | H30.4.16 |
| 5 | 「稲垣元則の素描：断片の向こうにあるもの」 | 福元崇志 (研究員) | 『大阪日日新聞』 | H30.5.29 |
| 6 | 「林勇気の映像作品《another world・windows》：見通せない窓から何が見えてくるか」 | 福元崇志 (研究員) | 『大阪日日新聞』 | H30.8.28 |
| 7 | 「語りかける物たちの世界」 | 安來正博 (主任研究員) | 『版画芸術』160号(阿部出版) | H30.6.1 |
| 8 | アートダイアリー 054「「ニュー・ウェイブ 現代美術の80年代」展」 | 安來正博 (主任研究員) | 「文化庁広報誌 ぶんかる」(文化庁) (Web) | H31.1.16 |

カ 国立新美術館

A. 学会等発表

| | タイトル | 学会等名 | 発表者氏名 (職名) | 日付 | 場所 | 聴講者数 (人) |
|----|--|---|----------------------|-----------|------------------------------|-------------|
| 1 | 「セメント美術の教室」 | 東大教室 2018 夏 | 坂口英伸 (アソシエイトフェロー) | H30.8.22 | インターメディアテク | 80 |
| 2 | 「小野田セメントが協賛した戦後日本の野外彫刻展」 | 屋外彫刻調査保存研究会 | 坂口英伸 (アソシエイトフェロー) | H31.3.10 | 武蔵野美術大学 | 30 |
| 3 | 「第二帝政期の海景画におけるオランダ趣味について：ジュル＝アントワーン・カスタニャリのサロン評」 | 日仏美術学会 | 高野詩織 (研究補佐員) | H31.3.3 | 日仏会館 | 30 |
| 4 | 「全国美術館会議情報・資料研究部会によるアーカイブズ資料所在調査の実施について ―その目的と可能性、および課題」 | 2018 年度アート・ドキュメンテーション学会第 11 回秋季研究集会 | 谷口英理 (特定研究員) | H30.10.13 | お茶の水女子大学 | 94 |
| 5 | 「121 年目の福沢一郎」 | 生誕 120 年記念福沢一郎展シンポジウム | 谷口英理 (特定研究員) | H31.1.19 | 多摩美術大学美術館 | 88 |
| 6 | 「映画資料の保存・修復における今後の展望」(パネリスト) | セミナーシンポジウム「映画ノンフィルム資料の価値とは？」 | 谷口英理 (特定研究員) | H31.2.6 | 京都大学 | 52 |
| 7 | 「“資料群”としての整理・記述方法と所在情報の発信 ―『アーカイブズ資料所在調査』の実施に向けて」 | 全国美術館会議 第 33 回学芸員研修会「美術館のアーカイブズ資料の可視化とさらなる活用に向けて」 | 谷口英理 (特定研究員) | H31.3.22 | 東京国立近代美術館 | 186 |
| 8 | 適応型階段関数系による展開を用いた絵画画像の色変化ベクトルによる特徴分析の予備的試行 | 日本色彩学会画像色彩研究会平成 30 年度研究発表会 | 室屋泰三 (主任研究員) | H31.3.16 | 国立新美術館 | 13 |
| 9 | 「田中千代とファッション・ショー」 | 服飾美学会 | 本橋弥生 (主任研究員) | H30.11.3 | 栄メンバーズオフィス 3 階 セミナー室 C (名古屋) | 30 |
| 10 | 「SFMOMA のリニューアルについて」 | 全国美術館会議 第 51 回教育普及研究部会 | 吉澤菜摘 (主任研究員) | H30.11.6 | 東京都美術館 | 60 |
| 11 | 「新たなナイトライフの魅力をつくるナイトミュージアムの試み」 | 一般社団法人日本照明工業会、日本経済新聞社主催「ライティング・フェア 2019」セミナー | 吉澤菜摘 (主任研究員) | H31.3.6 | 東京国際展示場 | 30 |

| B. 雑誌等論文掲載 | | | | |
|---------------------------------------|---|----------------------|--|-----------|
| 学術書籍、研究報告書等の発行 | | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名(発行者) | 発行年月日 |
| 1 | 『超現実主義の1937年 福沢一郎『シュールレアリズム』を読みなおす』 | 谷口英理 (特定研究員) | みすず書房 | H31.2.25 |
| 【査読有り】論文掲載 | | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名(発行者) | 発行年月日 |
| 1 | 「長谷川三郎における内在化された〈写真〉—主に一九三六～四〇年の制作、言説に関する考察—」 | 谷口英理 (特定研究員) | 『美術史』185冊 | H30.10.31 |
| 2 | 「入江明日香展によせて」 | 真住貴子 (主任研究員) | 『入江明日香展』図録(アート・ベンチャー・オフィス・ショウ) | H30.9 |
| 3 | 「美術館のまなびのこれから」 | 真住貴子 (主任研究員) | 『美術教育の森』展図録(美術教育研究会企画実行委員会) | H30.12.24 |
| 【査読無し】論文掲載 | | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名(発行者) | 発行年月日 |
| 1 | 「水先案内人としての文化資源学」 | 坂口英伸 (アソシエイトフェロー) | 『文化資源学』第16号(文化資源学会) | H31.6 |
| 2 | 「〈資料紹介〉テロール男爵の『古きフランスのピトレスクでロマンティックな旅』」 | 高野詩織 (研究補佐員) | 『川崎市市民ミュージアム紀要』第27集(川崎市市民ミュージアム) | H31.3 |
| 3 | 作品解説10点【翻訳】 | 中江花菜 (研究補佐員) | 渡辺晋輔(編)『ルーベンス展 バロックの誕生』展覧会図録, 国立西洋美術館 | H30.10.16 |
| 4 | 「Artist Statement」【翻訳】 | 土方浦歌 (特定研究員) | Hideki IINUMA, Solo Show at Vigilius Mountain Resort, Merano, Italy | H30.9 |
| 5 | 「Yuichiro Tamura」 | 米田尚輝 (主任研究員) | 『Asia Pacific Breweries Foundation Signature Art Prize 2018』(Singapore Art Museum) | H30.5 |
| その他(研究志向の薄い機関紙, 美術雑誌, 新聞, ウェブサイト等)の発表 | | | | |
| | タイトル | 執筆者氏名 (職名) | 掲載誌名(発行者) | 発行年月日 |
| 1 | 「セメント美術を語る⑩ セメント美術工作研究会」 | 坂口英伸 (アソシエイトフェロー) | 『コンクリート新聞』第2446号(コンクリート新聞社) | H30.4.19 |
| 2 | 「セメント美術を語る⑪ 野外彫刻展」 | 坂口英伸 (アソシエイトフェロー) | 『コンクリート新聞』第2449号(コンクリート新聞社) | H30.5.17 |
| 3 | 「セメント美術を語る⑫ セメント美術の現在と未来」 | 坂口英伸 (アソシエイトフェロー) | 『コンクリート新聞』第2454号(コンクリート新聞社) | H30.6.21 |
| 4 | 「奇人の佛」 | 坂口英伸 (アソシエイトフェロー) | 木下直之を全ぶ集める (ギャラリーエークウッド) | H30.8.7 |
| 5 | 「道具を敬い 道具に惹かれる」 | 澤田将哉 (研究補佐員) | 『道具学会 News』66号(道具学会) | H30.11.18 |
| 6 | 「第5分科会 美術館が地域とつながる仕組み」 | 澤田将哉 (研究補佐員) | 『全国美術館会議 第32回学芸員研修会報告書「社会状況の多様化に美術館はどう向き合うか」』(全国美術館会議) | H31.3.31 |

| | | | | |
|----|--|-----------------|--|-----------|
| 7 | 「こいのぼりなう！ 須藤玲子×アドリアン・ガルデール×齋藤精一によるインスタレーション」 | 長屋光枝 (学芸課長) | 『文化庁広報誌 ぶんかる』 (文化庁) (Web) | H30.5.21 |
| 8 | 「ポスト-もの派-以降は終わらない？ 彫刻論の連続と展開」 | 土方浦歌 (特定研究員) | 『芸術批評誌 REAR42号』 | H30.10.30 |
| 9 | 「近代芸術再発見 11 中尾彰」 | 真住貴子 (主任研究員) | 碧い風 Vol.95(中国電力株式会社エネギア総合研究所) | H31.3.1 |
| 10 | 「謎とき美術鑑賞 ヴェロネーゼ『女性の肖像』 通称『美しきナーニ』」 | 宮島綾子 (主任研究員) | 『一個人』212号(KKベストセラーズ) | H30.4.9 |
| 11 | 「おとなの美術部 ルーヴル美術館展」 | 宮島綾子 (主任研究員) | 『大人のおしゃれ手帖』6月号(宝島社) | H30.5.7 |
| 12 | 「ぎやらりいモール エリザベート・ルイーゼ・ヴィジェ・ル・ブラン『エカチェリーナ・ヴァシリエヴナ・スカヴロンスキー伯爵夫人の肖像』」 | 宮島綾子 (主任研究員) | 『読売新聞』(夕刊) | H30.7.31 |
| 13 | 「夏の教育普及プログラム」 | 吉澤菜摘 (主任研究員) | 『教育美術』第913号(公益財団法人教育美術振興会) | H30.7.1 |
| 14 | 「ミュージアムのじぶんさがし」(第8回) | 吉澤菜摘 (主任研究員) | 『ミュゼ』122号(アム・プロモーション) | H30.12.25 |
| 15 | 「第5分科会 美術館が地域とつながる仕組み」 | 吉澤菜摘 (主任研究員) | 『全国美術館会議 第32回学芸員研修会報告書「社会状況の多様化に美術館はどう向き合うか」』(全国美術館会議) | H31.3.31 |
| 16 | 「千原真実」「清水総二」「中野由紀子」 | 米田尚輝 (主任研究員) | 『Emerging 2018』(トーキョーアーツアンドスペース) | H31.1.11 |

別表 11 所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催

| ア 東京国立近代美術館 | | | |
|------------------|---|-------|----------------|
| (工芸館) | | | |
| セミナー・シンポジウム名 | 第12回工芸作品鑑賞研究会 | 開催年月日 | 平成30年6月16日(土) |
| 場所 | 東京国立近代美術館工芸館「こどもとおとなのアツアツ工芸館」会場 | 聴講者数 | 50人 |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | 成田暢(東京国立近代美術館工芸課特定研究員), 今井陽子(東京国立近代美術館工芸課主任研究員), 西岡梢(東京国立近代美術館工芸課研究補佐員) | | |
| 内容 | 加熱と加圧の効果という視点から, 金工作品の特色と作家の創意について講演した。また, 所蔵作品展「こどもとおとなのアツアツ工芸館」出品作を中心に, 児童生徒の発達段階に応じた工芸鑑賞の可能性について, 言語活動への展開という視点から検証した。 | | |
| セミナー・シンポジウム名 | 五感で楽しむ鑑賞会「詩人探偵」 | 開催年月日 | 平成30年9月1日(土) |
| 場所 | 江別市セラミックアートセンター | 聴講者数 | 20人 |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | 今井陽子(東京国立近代美術館工芸課主任研究員), 西岡梢(東京国立近代美術館工芸課研究補佐員) | | |
| 内容 | 東京国立近代美術館工芸館名品展「多彩なる近現代工芸の煌めき」の関連事業として, 印象分析と言語活動への展開を実践的に検証した。 | | |
| セミナー・シンポジウム名 | 工芸鑑賞の試み「タッチ&トーク」 | 開催年月日 | 平成30年10月21日(日) |
| 場所 | 東根市公益文化施設「まなびアテラス」 | 聴講者数 | 20人 |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | 今井陽子(東京国立近代美術館工芸課主任研究員), 西岡梢(東京国立近代美術館工芸課研究補佐員) | | |
| 内容 | 東京国立近代美術館工芸館名品展「多彩なる近現代工芸の煌めき」の関連事業として, 当館の鑑賞プログラムである「タッチ&トーク」と「詩人探偵」を組み合わせ, 蝕知による鑑賞の可能性や印象の分析方と言語活動への展開を実践的に検証した。 | | |

| | | | |
|--------------------|--|-------|---------------|
| セミナー・シンポジウム名 | 工芸鑑賞の試み「タッチ&トーク」 | 開催年月日 | 平成30年12月2日(土) |
| 場所 | 石川県立美術館 | 聴講者数 | 10人 |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | 西岡梢(東京国立近代美術館工芸課研究補佐員) | | |
| 内容 | 工芸課石川県移転連携事業として実施した、東京国立近代美術館工芸館名品展「いろどりとすがた ガラス・染織・人形・金工から」の関連事業として、当館の鑑賞プログラムである「タッチ&トーク」と「詩人探偵」を組み合わせ、蝕知による鑑賞の可能性や印象の分析方と言語活動への展開を実践的に検証した | | |
| セミナー・シンポジウム名 | 工芸鑑賞の試み「タッチ&トーク」 | 開催年月日 | 平成31年2月2日(土) |
| 場所 | 瀬戸市美術館 | 聴講者数 | 20人 |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | 今井陽子(東京国立近代美術館工芸課主任研究員)、西岡梢(東京国立近代美術館工芸課研究補佐員) | | |
| 内容 | 東京国立近代美術館工芸館名品展「多彩なる近現代工芸の煌めき」の関連事業として、印象分析と言語活動への展開を実践的に検証した。 | | |
| イ 国立映画アーカイブ | | | |
| セミナー・シンポジウム名 | NFAJ アーカイブセミナー | 開催年月日 | 平成30年9月22日(土) |
| 場所 | 国立映画アーカイブ 小ホール | 聴講者数 | 48人 |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | <p>ボーンデジタル映画の保存にむけて：学生映画・大学篇 登壇者：齊藤裕人(日本大学芸術学部映画学科教授)、若林大介(日本映画大学専任講師)、横山昌吾(東京藝術大学大学院映像研究科 助教)、平田竜馬(東京藝術大学大学院映像研究科 非常勤講師)、三浦和己(国立映画アーカイブ 映画室 研究員) 司会：元村直樹(国立映画アーカイブ 教育・事業展開室 客員研究員)</p> | | |
| 内容 | ボーンデジタル映画をいかに残していけるか、芸術系大学で行われている対応策を紹介し、現状の方法や問題について意見交換とディスカッションを行った。 | | |
| セミナー・シンポジウム名 | NFAJ アーカイブセミナー No. 2 | 開催年月日 | 平成31年1月10日(木) |
| 場所 | 国立映画アーカイブ 小ホール | 聴講者数 | 72人 |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | <p>パースペクタ・ステレオフォニック・サウンドを聴く—その特徴と再生について— 登壇者：多良政司(映画録音技師、元・株式会社東宝スタジオサービス ポストプロ部担当)、平井宏侑(映画録音技師、元・東宝株式会社 映像事業部次長)、森本桂一郎(株式会社東京現像所 映像部 アーカイブ2課 サウンドコーディネーター) 司会：三浦和己(国立映画アーカイブ 映画室 研究員)</p> | | |
| 内容 | パースペクタ・ステレオフォニック・サウンドの概要、当時の制作・受容についてと、当館所蔵プリントからパースペクタ・ステレオフォニック・サウンドの音を再生し、その特徴等をディスカッションした。 | | |

別表12 シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築

| | | | |
|--------------------|--|-------|---------------|
| ア 東京国立近代美術館 | | | |
| (本館) | | | |
| セミナー・シンポジウム名 | 1970年前後、都市と芸術—ゴードン・マッタ=クラークを起点に | 開催年月日 | 平成30年8月25日(土) |
| 場所 | 東京国立近代美術館講堂 | 聴講者数 | 90人 |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | <p>登壇者：池野純子(京都造形芸術大学大学院芸術研究科准教授)、沢山遼(美術批評家)、成相肇(東京ステーションギャラリー学芸員) コメンテーター：平野千枝子(山梨大学大学院総合研究部准教授) 司会：三輪健仁(東京国立近代美術館主任研究員)</p> | | |
| 内容 | <p>展覧会「ゴードン・マッタ=クラーク展」の関連イベントとして、「1970年前後、都市と芸術—ゴードン・マッタ=クラークを起点に」と題したシンポジウムを開催した。</p> | | |

| | | | |
|-------------------|---|-------|-----------------------|
| セミナー・シンポジウム名 | 越境する中華圏の文化と社会 —中国, 香港, 台湾 | 開催年月日 | 平成 30 年 12 月 8 日 (土) |
| 場所 | 東京国立近代美術館講堂 | 聴講者数 | 53 人 |
| 講師・パネリスト等の氏名 (職名) | 倉田徹 (立教大学教授), 林ひふみ (明治大学教授) | | |
| 内容 | 展覧会「アジアにめざめたら: アートが変わる, 世界が変わる 1960-1990 年代」の関連イベントとして, 「越境する中華圏の文化と社会 —中国, 香港, 台湾」と題したレクチャーを開催した。 | | |
| セミナー・シンポジウム名 | 光州事件と 80 年代民衆美術—韓国 | 開催年月日 | 平成 30 年 12 月 22 日 (土) |
| 場所 | 東京国立近代美術館講堂 | 聴講者数 | 64 人 |
| 講師・パネリスト等の氏名 (職名) | 真鍋祐子 (東京大学東洋文化研究所教授) | | |
| 内容 | 展覧会「アジアにめざめたら: アートが変わる, 世界が変わる 1960-1990 年代」の関連イベントとして, 「光州事件と 80 年代民衆美術—韓国」と題したレクチャーを開催した。 | | |
| セミナー・シンポジウム名 | 東南アジアの民衆演劇運動とマレーシア現代演劇: ファイブ・アーツ・センターの活動から | 開催年月日 | 平成 30 年 12 月 23 日 (日) |
| 場所 | 東京国立近代美術館講堂 | 聴講者数 | 80 人 |
| 講師・パネリスト等の氏名 (職名) | 滝口健 (ドラマトウルグ, 翻訳家) | | |
| 内容 | 展覧会「アジアにめざめたら: アートが変わる, 世界が変わる 1960-1990 年代」の関連イベントとして, 「越境する中華圏の文化と社会 —中国, 香港, 台湾」と題したレクチャーを開催した。 | | |
| セミナー・シンポジウム名 | アジアのアヴァンギャルドをネットワーク化する: 『アジアにめざめたら』展をてがかりに | 開催年月日 | 平成 30 年 10 月 13 日 (土) |
| 場所 | 東京国立近代美術館講堂 | 聴講者数 | 50 人 |
| 講師・パネリスト等の氏名 (職名) | 展覧会担当者: 鈴木勝雄 (東京国立近代美術館), 梶田倫広 (東京国立近代美術館), ペ・ミョンジ (韓国国立現代美術館), セン・ユージン (ナショナル・ギャラリー・シンガポール) アメリカからの参加者: サラ・クライエヴスキー (ポートランド美術館), ナンシー・リム (サンフランシスコ近代美術館), ロリー・パデケン (サンノゼ美術館), アン・ファイキョン (グッゲンハイム美術館) アジアからの参加者: サイモン・スーン (マラヤ大学) | | |
| 内容 | 展覧会「アジアにめざめたら: アートが変わる, 世界が変わる 1960-1990 年代」の関連イベントとして, 「アジアのアヴァンギャルドをネットワーク化する: 『アジアにめざめたら』展をてがかりに」と題したシンポジウムを開催した。 | | |
| (工芸館) | | | |
| セミナー・シンポジウム名 | 講演会&ディスカッション「海外から見た日本文化の魅力」 | 開催年月日 | 平成 30 年 8 月 18 日 (土) |
| 場所 | 東京国立近代美術館 講堂 | 聴講者数 | 150 人 |
| 講師・パネリスト等の氏名 (職名) | 司会: 室瀬和美 (重要無形文化財「蒔絵」保持者) パネリスト: 内田篤呉 (MOA 美術館 館長), 唐澤昌宏 (東京国立近代美術館 工芸課長), 十四代今泉今右衛門 (重要無形文化財「色絵磁器」保持者), ルパート・フォークナー (ヴィクトリア・アンド・アルバート美術館 東洋部日本美術担当主任学芸員) | | |
| 内容 | 日本工芸会が「文化庁外国人芸術家・文化財専門家招へい事業」の補助金を受け, ルパート・フォークナー氏を招聘し, 東京国立近代美術館との共催で, 第一部 基調講演「英国から見た日本文化の魅力」(講師: ルパート・フォークナー氏), 第二部 ディスカッション「日本工芸の海外発信に向けて」を開催した。 | | |
| セミナー・シンポジウム名 | トークセッション「インゲヤード・ローマンとデザイン」 | 開催年月日 | 平成 30 年 12 月 1 日 (土) |
| 場所 | 東京国立近代美術館 講堂 | 聴講者数 | 74 人 |
| 講師・パネリスト等の氏名 (職名) | 登壇者: 深澤直人 (プロダクトデザイナー), 太田美幸 (一橋大学大学院社会学研究科教授) | | |

| | | | |
|--------------------|--|-------|---------------|
| 内容 | 展覧会「インゲヤード・ローマン展」の関連イベントとして、デザイナーの深澤直人氏と一橋大学教授の太田美幸氏を迎え、インゲヤード・ローマンを軸として、デザインと社会の関わりについてトークセッションを実施した。 | | |
| イ 京都国立近代美術館 | | | |
| セミナー・シンポジウム名 | レクチャー&ディスカッション「バウハウスと日本」 | 開催年月日 | 平成30年8月12日(日) |
| 場所 | 1階 講堂 | 聴講者数 | 100人 |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | 講師：梅宮弘光(神戸大学教授)，ヘレナ・チャプコヴァー(Curatorial Researcher: Corresponding With/ Bauhaus imaginista) | | |
| 内容 | 展覧会「バウハウスへの応答」の関連イベントとして、ヘレナ・チャプコヴァー氏と神戸大学教授の梅宮弘光氏を講師に迎え、レクチャーとディスカッションを実施した。 | | |
| セミナー・シンポジウム名 | 講演会「シャンティニクタンから建築とデザインを考え、学び、作る」 | 開催年月日 | 平成30年9月22日(土) |
| 場所 | 1階 講堂 | 聴講者数 | 100人 |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | 講師：佐藤研吾(In-Field Studio/ 歓藍社) | | |
| 内容 | 展覧会「バウハウスへの応答」の関連イベントとして、In-Field Studio/ 歓藍社の佐藤研吾氏を講師に迎え、講演会を実施した。 | | |
| セミナー・シンポジウム名 | レクチャー「グラフィック表現の背後にあるもの―世紀末の印刷―」 | 開催年月日 | 平成31年2月2日(土) |
| 場所 | 1階 講堂 | 聴講者数 | 52人 |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | 講師：寺本美奈子(グラフィックデザイン・キュレーター/武蔵野美術大学非常勤講師) | | |
| 内容 | 展覧会「世紀末ウィーンのグラフィック～デザインそして生活の刷新にむけて～」の関連イベントとして、グラフィックデザイン・キュレーター/武蔵野美術大学非常勤講師の寺本美奈子氏を講師に迎え、レクチャーを実施した。 | | |
| セミナー・シンポジウム名 | 感覚をひらく―新たな美術鑑賞プログラム創造推進事業 トーク&ディスカッション「美術館のあたりまえてって？」 | 開催年月日 | 平成31年3月12日(火) |
| 場所 | 京都国立近代美術館 1階講堂 | 聴講者数 | 79人 |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | 講師：高嶺格(美術家・秋田公立美術大学准教授)，光島貴之(美術家・鍼灸師)，広瀬浩二郎(国立民族学博物館准教授) | | |
| 内容 | 仙台・秋田で視覚障害者が観客をガイドする展覧会を企画した美術家の高嶺格氏を招き、「障害のある方と共働すること」「当たり前を問い直す場のつくりかた」をテーマに、ご講演いただいた。また事業の2年間の実践を振り返り、今後の展開についても考えを深めた。 | | |
| ウ 国立映画アーカイブ | | | |
| セミナー・シンポジウム名 | 「トーキー以降のスウェーデン映画史～モランデルからトロエルまで」 | 開催年月日 | 平成30年12月8日(土) |
| 場所 | 国立映画アーカイブ長瀬記念ホール OZU | 聴講者数 | 138人 |
| 講師・パネリスト等の氏名(職名) | 講師：カイサ・ヘードストルム(スウェーデン映画協会映画遺産部) | | |
| 内容 | 企画上映「日本・スウェーデン外交関係樹立150周年 スウェーデン映画への招待」で、上映作品の歴史的背景や作品の特色について解説。 | | |
| エ 国立西洋美術館 | | | |
| セミナー・シンポジウム名 | 学術シンポジウム 17世紀オランダの画家とアート・マーケット | 開催年月日 | 平成31年3月3日(日) |
| 場所 | 国立西洋美術館講堂 | 聴講者数 | 120人 |

| | | | |
|------------------|---|-------|----------------|
| 講師・パネリスト等の氏名（職名） | 小林頼子（目白大学教授），ピット・バックル（ヨルダーンズ / ヴァン・ダイク板絵プロジェクト古文書研究員），エルナ・コック（アムステルダム大学研究員），青野純子（九州大学准教授） | | |
| 内容 | 園府寺司（大阪大学）を研究代表者とする美術史家グループが科学研究費基盤A(西洋近世・近代美術における市場・流通・画商の地政経済史的研究)の助成を得て取り組んできたアート・マーケットの歴史的展開について，17世紀オランダに焦点をあてた講演および討論を行った。 | | |
| オ 国立国際美術館 | | | |
| セミナー・シンポジウム名 | プレミアム・フライデー「アート／メディア—四次元の読書」レクチャー | 開催年月日 | 平成30年4月27日（金） |
| 場所 | 国立国際美術館 講堂 | 聴講者数 | 31人 |
| 講師・パネリスト等の氏名（職名） | 吉岡洋（京都大学こころの未来研究センター特定教授） | | |
| 内容 | 「アート／メディア—四次元の読書」第3期のテーマである「コマ—回転と重力」に関連し，「球体と回転」「回転による神秘体験」「生物と回転機構」「車輪（Wheel）のシンボリズム」「大団円—回転と終末」という5つのテーマからお話しされた。 | | |
| セミナー・シンポジウム名 | まだ見ぬ存在：パフォーマンス・アートにおける法律 | 開催年月日 | 平成30年5月1日（火） |
| 場所 | 国立国際美術館 講堂 | 聴講者数 | 92人 |
| 講師・パネリスト等の氏名（職名） | アラナ・クシュニール（インディペンデント・キュレーター／法律家，オーストラリア） | | |
| 内容 | 企画展「開館40周年記念展『トラベラー：まだ見ぬ地を踏むために』」に関連した特別講演会。同展から多数のパフォーマンス作家たちを例に挙げ，法律原則や法がパフォーマンスという芸術実践にいかにか影響するかについて講演された。 | | |
| セミナー・シンポジウム名 | プーシキン美術館と珠玉のコレクション | 開催年月日 | 平成30年7月21日（土） |
| 場所 | 国立国際美術館 講堂 | 聴講者数 | 144人 |
| 講師・パネリスト等の氏名（職名） | イリーナ・バカノワ（プーシキン美術館副館長） | | |
| 内容 | 企画展「プーシキン美術館展——旅するフランス風景画」に関連した記念講演会。同館の歴史や，今回来日したコレクションの内容についてお話しされた。 | | |
| セミナー・シンポジウム名 | ヴォワイアンが見た／ヴォワイアンを見た：私的ビデオ・フィルム・アート | 開催年月日 | 平成30年11月10日（土） |
| 場所 | 国立国際美術館 講堂 | 聴講者数 | 92人 |
| 講師・パネリスト等の氏名（職名） | 今井祝雄（美術家） | | |
| 内容 | 企画展「ニュー・ウェイブ 現代美術の80年代」の関連企画である第16回中之島映像劇場「関西の見者たち：ヴォワイアン・シネマテークの痕跡」のプログラムの一環として開催された特別講演。1983年から1996年まで関西を中心に活動した映画作家集団「ヴォワイアン・シネマテーク」について，美術家の立場から，当時その活動について感じていたことについてお話しいただいた。 | | |
| セミナー・シンポジウム名 | ヴォワイアンの上映活動 | 開催年月日 | 平成30年11月11日（日） |
| 場所 | 国立国際美術館 講堂 | 聴講者数 | 78人 |
| 講師・パネリスト等の氏名（職名） | 登壇者：平田正孝，小池照男，櫻井篤史（以上，元ヴォワイアン・メンバー），とちぎあきら（フィルムアーキビスト） 司会進行：田中晋平（国立国際美術館 客員研究員） | | |
| 内容 | 企画展「ニュー・ウェイブ 現代美術の80年代」の関連企画である第16回中之島映像劇場「関西の見者たち：ヴォワイアン・シネマテークの痕跡」のプログラムの一環として開催されたシンポジウム。「ヴォワイアン・シネマテーク」について元メンバーを中心に当時の上映活動を振り返った。 | | |
| セミナー・シンポジウム名 | 怪物劇場：近年のオーストラリア現代美術 | 開催年月日 | 平成30年12月7日（金） |
| 場所 | 国立国際美術館 講堂 | 聴講者数 | 22人 |

| | | | |
|------------------|--|-------|------------------|
| 講師・パネリスト等の氏名（職名） | リー・ロブ（南オーストラリア州立美術館キュレーター） | | |
| 内容 | 日豪学芸員交流により平成30年度招聘したリー・ロブ氏による特別講演会。氏が近年企画した展覧会の紹介を中心に、オーストラリアにおける現代美術や美術館等について講演された。 | | |
| セミナー・シンポジウム名 | アートはこんなにヤワコいー80年代は別格だね | 開催年月日 | 平成30年12月23日（日・祝） |
| 場所 | 国立国際美術館 講堂 | 聴講者数 | 53人 |
| 講師・パネリスト等の氏名（職名） | 篠原資明（高松市美術館館長） | | |
| 内容 | 企画展「ニュー・ウェイブ 現代美術の80年代」に関連した講演会として、同時期に「高松市美術館開館30周年記念『起点としての80年代』」展（平成30年11月3日～12月16日）を開催していた高松市美術館の館長・篠原資明氏に1980年代を中心に日本の美術について哲学・美学の観点も交えながらお話しいただいた。 | | |
| セミナー・シンポジウム名 | 岩佐寿弥—ドキュメンタリーの彼岸を見た人「叛軍」シリーズを中心に | 開催年月日 | 平成31年3月23日（土） |
| 場所 | 国立国際美術館 講堂 | 聴講者数 | 89人 |
| 講師・パネリスト等の氏名（職名） | 岡田秀則（国立映画アーカイブ主任研究員） | | |
| 内容 | 第17回中之島映像劇場「回想の岩佐寿弥」のプログラムの一環として開催された特別講演。共催者である国立映画アーカイブの岡田秀則主任研究員より、フィクションとドキュメンタリーの境界を自在に飛び越えた異端の映像作家・岩佐寿弥について、講演直後上映された《叛軍》シリーズ4作品を中心にお話しいただいた。 | | |
| カ 国立新美術館 | | | |
| セミナー・シンポジウム名 | ビエール・ボナール展開催記念シンポジウム「ボナール、ナビ派、日本」 | 開催年月日 | 平成30年10月21日（日） |
| 場所 | 国立新美術館 3階講堂 | 聴講者数 | 120人 |
| 講師・パネリスト等の氏名（職名） | 登壇者：三浦篤（東京大学教授）、宮崎克己（昭和音楽大学教授）、平石昌子（新潟県立近代美術館学芸課長代理）、杉山菜穂子（三菱一号館美術館学芸員）、高階秀爾（大原美術館館長） | | |
| 内容 | ボナールに対するジャポニズムの影響、ボナールの日本受容、ならびにナビ派の日本受容を中心にしたプレゼンテーションとそれを踏まえたディスカッションが行われた。 | | |
| セミナー・シンポジウム名 | 美術館をかえようーその役割と展開 | 開催年月日 | 平成30年11月1日（木） |
| 場所 | 国立新美術館 3階講堂 | 聴講者数 | 143人 |
| 講師・パネリスト等の氏名（職名） | 登壇者：アクセル・リュウガー（ファン・ゴッホ美術館館長）、ニール・ベネズラ（サンフランシスコ近代美術館館長）、アドリアン・ドンゼルマン（ファン・ゴッホ美術館 マネー・ジグ・ディレクター）、蓑豊（兵庫県立美術館館長）、園寿寺司（大阪大学文学研究科教授（西洋美術史/アート・メディア論）） 司会：青木保（国立新美術館館長） | | |
| 内容 | 欧米を代表する2つの美術館館長の改革事例等を紹介した基調講演をもとに、パネルディスカッションで日本の専門家も交えて、これからの美術館のあるべき姿について討論を行った。 | | |
| セミナー・シンポジウム名 | 文化庁主催シンポジウム “芸術資産「評価」による次世代への継承・美術館に期待される役割” | 開催年月日 | 平成30年11月30日（金） |
| 場所 | 国立新美術館 3階講堂 | 聴講者数 | 191人 |
| 講師・パネリスト等の氏名（職名） | 登壇者：青柳正規（東京大学名誉教授、山梨県立美術館館長、前文化庁長官）、柴山桂太（京都大学大学院人間・環境学研究科准教授）、加治屋健司（東京大学大学院総合文化研究科准教授）、田根剛（建築家）、名和晃平（彫刻家） | | |
| 内容 | 日本国内における、特に近代以降の美術品について、その価値を守り、高めていく必要と可能性について、美術館関係者・美術家・美術史家・コレクターらが討論を行った。（文化庁委託による「アート市場活性化事業」） | | |

| | | | |
|-------------------|---|-------|------------------------|
| セミナー・シンポジウム名 | 文化庁主催シンポジウム 芸術資産をいかに未来に継承発展させるかーコレクター文化育成のための法律・制度設計の具体的提言ー | 開催年月日 | 平成 31 年 3 月 16 日 (土) |
| 場所 | 国立新美術館 3 階講堂 | 聴講者数 | 119 人 |
| 講師・パネリスト等の氏名 (職名) | キーンノートスピーチ, 司会: 園府寺司 (大阪大学大学院文学研究科 文学部 教授) パネルディスカッション: 池上裕子 (神戸大学大学院国際文化学研究科 准教授), 岩井希久子 (絵画保存修復家 (IWAI ART 保存修復研究所)), 鴻池朋子 (現代アーティスト), 小松隼也 (弁護士 (長島・大野・常松法律事務所), コレクター), 建畠哲 (埼玉県立近代美術館 館長) | | |
| 内容 | 国際的な美術の発信の前提となる国内の美術品の保存と修復をはじめとする美術界が抱える問題について, 法整備や具体例を提示しつつ啓発した。(文化庁委託による「アート市場活性化事業」) | | |
| セミナー・シンポジウム名 | 文化庁主催事業 日本現代アートサミット (JCAS) 2019 トランス/ナショナル: グローバル化以降の現代美術を語る【キーンノートレクチャー①】 | 開催年月日 | 平成 31 年 3 月 19 日 (火) |
| 場所 | 六本木アカデミーヒルズ | 聴講者数 | 149 人 |
| 講師・パネリスト等の氏名 (職名) | 公開キーンノートレクチャー: アレクサンドラ・モンロー (ソロモン・R・グッゲンハイム美術館 アジア美術部門サムソン上級キュレーター/グローバル美術部門上級アドバイザー, グッゲンハイム・アブダビ・プロジェクト キュレトリアル部門暫定ディレクター) モデレーター: 片岡真実 (森美術館副館長兼チーフ・キュレーター) | | |
| 内容 | これまでの日本現代美術の海外展開において大きな役割を果たしてきたキュレーターによるトークシリーズ第 1 弾。自身の活動を振り返る。(文化庁委託による「アート市場活性化事業」) | | |
| セミナー・シンポジウム名 | 文化庁主催事業 日本現代アートサミット (JCAS) 2019 トランス/ナショナル: グローバル化以降の現代美術を語る【キーンノートレクチャー②】 | 開催年月日 | 平成 31 年 3 月 21 日 (木・祝) |
| 場所 | 国立新美術館 3 階講堂 | 聴講者数 | 120 人 |
| 講師・パネリスト等の氏名 (職名) | 公開キーンノート・レクチャー: デヴィッド・エリオット (紅専廠 Redtory Museum of Contemporary Art (RMCA) 副館長兼シニアキュレーター) モデレーター: 林道郎 (上智大学国際教養学部教授) | | |
| 内容 | これまでの日本現代美術の海外展開において大きな役割を果たしてきたキュレーターによるトークシリーズ第 2 弾。自身の活動を振り返る。(文化庁委託による「アート市場活性化事業」) | | |

独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について

I 役員報酬等について

1 役員報酬についての基本方針に関する事項

① 役員報酬の支給水準の設定についての考え方

国立美術館は、美術館を設置して、美術(映画を含む)に関する作品その他資料を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、これに関連する調査及び研究並びに教育及び普及の事業等を行うことにより、芸術その他の文化の振興を図ることを目的としている。

そうした組織の中で、理事長は、法人全体の活動を総括する一方で、我が国における芸術文化の創造と発展、国民の美的感性の育成を使命とし、美術振興の中心拠点として、高いマネジメント能力やリーダーシップに加え、高度な専門性が求められる。

理事においてもこれら多岐に渡る業務を遂行する理事長の職務を補佐するにあたり、相当の能力と専門性が求められる。

以上により役員報酬の設定にあたっては、国家公務員の指定職、文化分野の保存・活用等を図ることを主要な業務とする他法人の長を参考とした。

② 平成30年度における役員報酬についての業績反映のさせ方(業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

独立行政法人国立美術館役員報酬規則により、役員に支給される報酬のうち、期末特別手当においては、文部科学大臣が行う業績評価、役員としての業務に対する貢献度等を総合的に勘案して理事長が決定する評価に基づき、期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができるものとしている。平成30年度においては、業績に反映するほどの特に顕著な業績や失態がなかったと判断し、役員報酬の増減は行わなかった。

③ 役員報酬基準の内容及び平成30年度における改定内容

法人の長

役員報酬支給基準は、月額及び期末特別手当から構成されている。月額については、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、俸給月額(965,000円)及び地域手当(俸給月額の10%)の月額並びに俸給月額及び地域手当の月額に100分の20を乗じて得た額並びに俸給月額に100分の25を乗じて得た額の合計額に、6月に支給する場合においては100分の157.5、12月に支給する場合においては100分の177.5を乗じて得た額としている。また、文部科学大臣が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができることとしている。

平成30年度においては、国家公務員の給与改定の状況を踏まえた改定として、期末特別手当支給率の引き上げ(年間0.05ヶ月分)を実施した。

理事

役員報酬支給基準は、法人の長と同様である。月額については、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、俸給月額(761,000円)及び地域手当(東京都特別区20%)の月額並びに俸給月額及び地域手当の月額に100分の20を乗じて得た額並びに俸給月額に100分の25を乗じて得た額の合計額に、6月に支給する場合においては100分の157.5、12月に支給する場合においては100分の177.5を乗じて得た額としている。また、文部科学大臣が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができることとしている。

平成30年度においては、国家公務員の給与改定の状況を踏まえた改定として、期末特別手当支給率の引き上げ(年間0.05ヶ月分)を実施した。

理事(非常勤)

独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、非常勤役員手当として月額120,000円としている。平成30年度においては、理事(非常勤)の月当たりの勤務状況を踏まえて手当額の引き上げを実施した。

監事(非常勤)

独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、非常勤役員手当として月額120,000円としている。平成30年度においては、監事(非常勤)の月当たりの勤務状況を踏まえて手当額の引き上げを実施した。

2 役員の報酬等の支給状況

| 役名 | 平成30年度年間報酬等の総額 | | | | 就任・退任の状況 | | 前職 |
|--------------|----------------|--------------|-------------|--|----------|--|----|
| | 報酬(給与) | 賞与 | その他(内容) | 就任 | 退任 | | |
| 法人の長 | 千円 18,510 | 千円 11,580 | 千円 5,075 | 千円 1,158 (地域手当) 145 (通勤手当) 552 (単身赴任手当) | H29.4.1 | | |
| A理事 | 千円 15,481 | 千円 9,132 | 千円 4,308 | 千円 1,826 (地域手当) 215 (通勤手当) | H29.4.1 | | ◇ |
| B理事 (非常勤) | 千円 1,440 | 千円 1,440 | 千円 0 | 千円 0 () | H29.4.1 | | |
| C理事 (非常勤) | 千円 1,440 | 千円 1,440 | 千円 0 | 千円 0 () | H30.4.1 | | |
| A監事 (非常勤) | 千円 1,440 | 千円 1,440 | 千円 0 | 千円 0 () | | | |
| B監事 (非常勤) | 千円 1,440 | 千円 1,440 | 千円 0 | 千円 0 () | | | |

注1:「その他」欄には手当等が支給されている場合は、例えば通勤手当の総額を記入する。

注2:「前職」欄には、役員の前職の種類別に以下の記号を付す。

退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄

3 役員の報酬水準の妥当性について

【法人の検証結果】

法人の長

国立美術館は、美術館を設置して、美術(映画を含む。)に関する作品その他資料を収集し、保管して公衆の観覧に供するとともに、これに関連する調査及び研究並びに教育及び普及の事業等を行うことにより、芸術その他の文化の振興を図ることを目的としている。

そうした組織の中で、理事長は、法人全体の活動を総括する一方で、我が国における芸術文化の創造と発展、国民の美的感性の育成を使命とし、美術振興の中心拠点として、高いマネジメント能力やリーダーシップに加え、高度な専門性が求められる。

また、理事長の年間報酬額は、事務次官の年間給与額(2,327万円)と比較してもそれを下回っており、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人の長の年間報酬額(約1,800万円)とほぼ同水準となっており、こうした職務内容の特性や他法人等との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

理事

理事の職務においては、上記理事長の多岐に渡る業務を補佐するにあたり、相当の専門性を求めている。また、文化分野の保存・活用等を図ることを主要な業務とする他法人の理事の年間報酬額(約1,500万円)とほぼ同水準となっており、こうした職務内容の特性や他法人等との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

理事(非常勤)

理事(非常勤)については、国家公務員における指定職俸給表1号俸相当をベースに、業務内容、想定勤務日数、勤務状況等を総合的に勘案し算出している。また、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人の監事(非常勤)の報酬額との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

監事(非常勤)

監事(非常勤)については、国家公務員における指定職俸給表1号俸相当をベースに、業務内容、想定勤務日数、勤務状況等を総合的に勘案し算出している。また、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする他法人の監事(非常勤)の報酬額との比較を踏まえると、報酬水準は妥当であると考えられる。

【主務大臣の検証結果】

職務内容の特性や国家公務員指定職適用官職、文化分野の保存・活用を図ることを主要な業務とする法人、民間企業との比較などを考慮すると、役員報酬水準は妥当であると考えられる。

4 役員の退職手当の支給状況(平成30年度中に退職手当を支給された退職者の状況)

| 区分 | 支給額(総額) | 法人での在職期間 | 退職年月日 | 業績勘案率 | 前職 |
|-------------|------------|----------|-------|-------|----|
| 法人の長 | 千円 該当なし | 年 月 | | | |
| 理事 | 千円 該当なし | 年 月 | | | |
| 理事 (非常勤) | 千円 該当なし | 年 月 | | | |
| 監事 (非常勤) | 千円 該当なし | 年 月 | | | |

注:「前職」欄には、退職者の役員時の前職の種類別に以下の記号を付す。
退職公務員「*」、役員出向者「◇」、独立行政法人等の退職者「※」、退職公務員でその後独立行政法人等の退職者「*※」、該当がない場合は空欄

5 退職手当の水準の妥当性について

【主務大臣の判断理由等】

| 区分 | 判断理由 |
|-------------|-------|
| 法人の長 | 該当者なし |
| 理事 | 該当者なし |
| 理事 (非常勤) | 該当者なし |
| 監事 (非常勤) | 該当者なし |

注:「判断理由」欄には、法人の業績、担当業務の業績及び個人的な業績の検討結果を含め、業績勘案率及び退職手当支給額の決定に到った理由等を具体的に記入する。

6 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

当法人においては、期末特別手当について、独立行政法人国立美術館役員報酬規則に則り、文部科学大臣が行う業績評価の結果を勘案して、前項の規定による期末特別手当の額の100分の10の範囲内で、これを増額し、又は減額した額とすることができることとしている。

II 職員給与について

1 職員給与についての基本方針に関する事項

① 職員給与の支給水準の設定等についての考え方

独立行政法人通則法第50条の10第3項に基づき、業務の実績を考慮し、かつ、社会一般情勢(国家公務員の給与水準)に適合するよう、学歴、試験、経験及び職務の責任の度合いを基に給与水準を決定している。

② 職員の発揮した能率又は職員の勤務成績の給与への反映方法についての考え方(業績給の仕組み及び導入実績を含む。)

勤務評定等の結果を踏まえた勤務成績を考慮し、昇格、昇給の実施及び勤勉手当の成績率の決定を行っている。

[能率、勤務成績が反映される給与の内容]

| 給与種目 | 制度の内容 |
|-------------------|--|
| 俸給月額 (昇格) | 従事する職務に応じ、かつ、総合的な能力の評価により1級上位の級に昇格させることができる。 |
| 俸給月額 (昇給) | 昇給期間における勤務成績等に応じて、上位の号俸に昇給させることができる。 |
| 賞与: 勤勉手当 (査定分) | 基準日以前6箇月以内の期間における、勤務成績に応じて決定される支給割合(成績率)に基づき支給される。 |

③ 給与制度の内容及び平成30年度における主な改定内容

独立行政法人国立美術館職員給与規則に則り、俸給及び諸手当(扶養手当、地域手当、住居手当、通勤手当、単身赴任手当、超過勤務手当、休日出勤手当、夜勤手当、管理職手当、主任研究員手当、期末手当及び勤勉手当)としている。
期末手当については、期末手当基準額(俸給+扶養手当+地域手当+役職段階別加算額+管理職加算額)に6月に支給する場合においては100分の122.5、12月に支給する場合においては100分の137.5を乗じ、さらに基準日以前6箇月以内の期間におけるその者の在職期間に応じた割合を乗じて得た額としている。
勤勉手当については、勤勉手当基準額(俸給+地域手当+役職段階別加算額+管理職加算額)に勤勉手当の支給基準に従って定める割合を乗じて得た額としている。
また、平成30年度においては国家公務員の給与改定に準拠し、①人事院勧告による官民較差等の状況を踏まえ、俸給水準を平均0.2%引き上げ(平成31年2月期において平成30年4月に遡及して引き上げを実施)、②勤勉手当支給率の引き上げ(年間0.05ヶ月分)、③扶養手当額の改定等を実施した。

2 職員給与の支給状況

① 職種別支給状況

| 区分 | 人員 | 平均年齢 | 平成30年度の年間給与額(平均) | | | |
|---------|---------|-----------|------------------|--------------|-----------|-------------|
| | | | 総額 | うち所定内 | | うち賞与 |
| | | | | うち通勤手当 | | |
| 常勤職員 | 人 88 | 歳 44.1 | 千円 7,853 | 千円 5,804 | 千円 156 | 千円 2,049 |
| 事務・技術 | 人 38 | 歳 39.9 | 千円 6,260 | 千円 4,613 | 千円 180 | 千円 1,647 |
| 研究職種 | 人 50 | 歳 47.4 | 千円 9,063 | 千円 6,709 | 千円 138 | 千円 2,354 |
| 技能・労務職種 | 人 - | 歳 - | 千円 - | 千円 - | 千円 - | 千円 - |
| 任期付職員 | 人 3 | 歳 68.5 | 千円 16,488 | 千円 12,194 | 千円 93 | 千円 4,294 |
| 指定職種 | 人 3 | 歳 68.5 | 千円 16,488 | 千円 12,194 | 千円 93 | 千円 4,294 |
| 非常勤職員 | 人 21 | 歳 40.6 | 千円 5,056 | 千円 4,763 | 千円 153 | 千円 293 |
| 事務・技術 | 人 11 | 歳 43.8 | 千円 4,155 | 千円 3,596 | 千円 159 | 千円 559 |
| 研究職種 | 人 10 | 歳 37.1 | 千円 6,046 | 千円 6,046 | 千円 147 | 千円 0 |

注1:

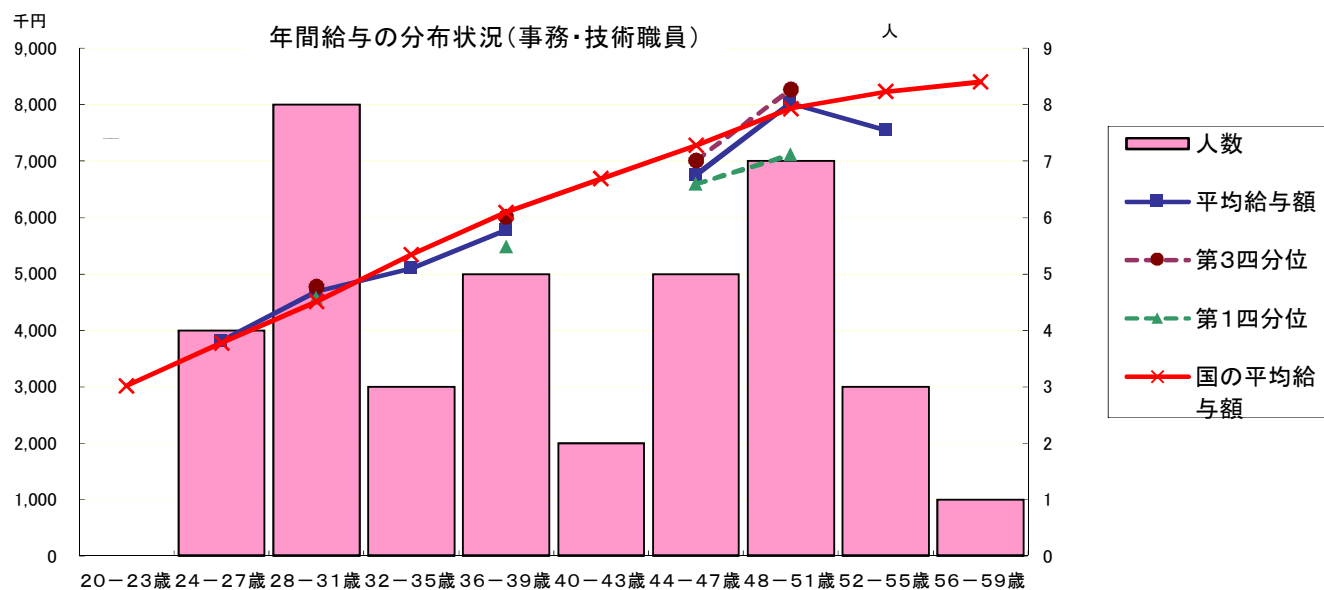
常勤職員については、在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。

注2: 技能・労務職種とは、守衛の業務、又は映写技術に関する業務に従事する職種をいう。

注3: 技能・労務職種の該当者は2人以下の為、当該個人に関する情報が特定されるおそれのあることから、職種のみ記載している。

注4: 常勤職員、任期付職員、非常勤職員のうち医療職種(病院医師)、医療職種(病院看護師)及び教育職種(高等専門学校教員)、在外職員並びに再任用職員については、該当する者がいないため欄を省略した。

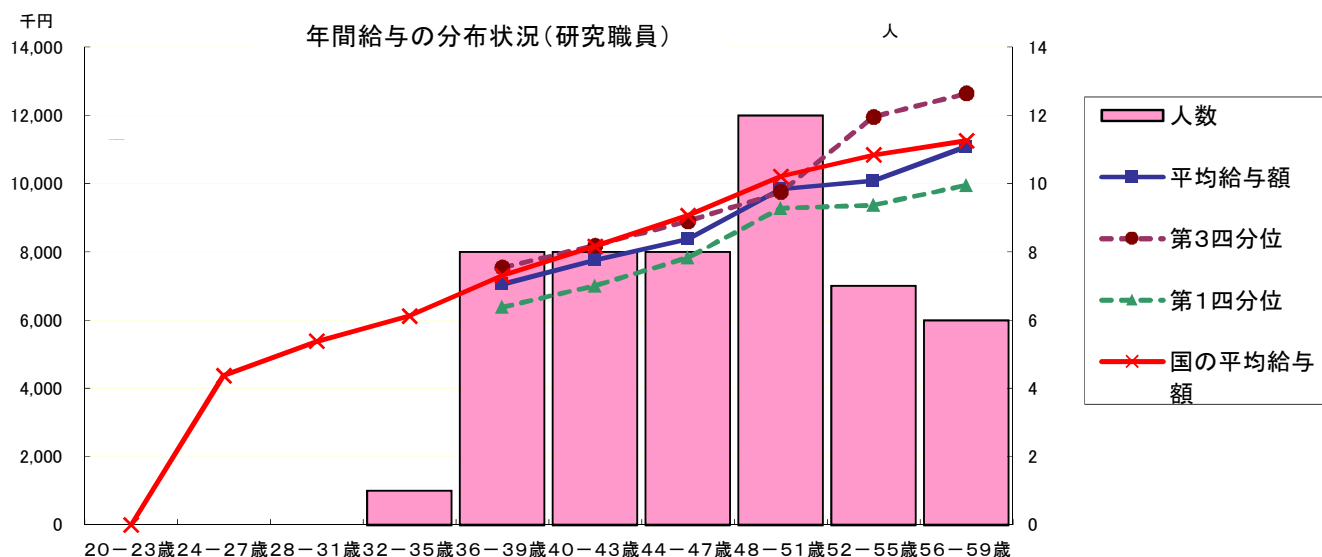
② 年齢別年間給与の分布状況(事務・技術職員／研究職員)〔在外職員、任期付職員及び再任用職員を除く。以下、④まで同じ。〕



注1: ①の年間給与額から通勤手当を除いた状況である。以下、④まで同じ。

注2: 年齢40-43歳及び56歳-59歳の該当者については2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、年間給与の平均額及び第1・第3四分位を表示していない。

注3: 年齢24-27歳、32-35歳及び52-55歳の該当者については4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、第1・第3四分位を表示していない。



注: 年齢32-35歳の該当者については2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、年間給与の平均額及び第1・第3四分位を表示していない。

③ 職位別年間給与の分布状況(事務・技術職員／研究職員)

(事務・技術職員)

| 分布状況を示すグループ | 人員 | 平均年齢 | 年間給与額 | | |
|-------------|----|------|-------|-------|-------|
| | | | 平均 | 最高～最低 | |
| | 人 | 歳 | 千円 | 千円 | 千円 |
| 代表的職位 | | | | | |
| 本部部長 | 1 | - | - | - | - |
| 本部課長 | 1 | - | - | - | - |
| 本部室長 | 1 | - | - | - | - |
| 本部係長 | 4 | 44.0 | 6,614 | - | - |
| 本部係員 | 5 | 29.1 | 4,569 | 4,783 | 3,890 |
| 地方課長 | 1 | - | - | - | - |
| 地方室長 | 4 | 50.0 | 7,284 | - | - |
| 地方係長 | 10 | 45.0 | 6,577 | 7,891 | 5,465 |
| 地方主任 | 3 | 35.8 | 5,292 | - | - |
| 地方係員 | 8 | 28.8 | 4,355 | 4,894 | 3,702 |

注1: 本部係長、地方室長、地方主任の該当者は4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、最高～最低を記載していない。

注2: 本部部長、本部課長、本部室長、地方課長の該当者は2人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、平均年齢以下の項目を記載していない。

(研究職員)

| 分布状況を示すグループ | 人員 | 平均年齢 | 年間給与額 | | |
|-------------|----|------|--------|--------|-------|
| | | | 平均 | 最高～最低 | |
| | 人 | 歳 | 千円 | 千円 | 千円 |
| 代表的職位 | | | | | |
| 副館長 | 3 | 58.5 | 12,358 | - | - |
| 学芸課長 | 6 | 52.2 | 11,293 | 12,372 | 9,958 |
| 主任研究員 | 37 | 46.5 | 8,572 | 10,014 | 6,379 |
| 研究員 | 4 | 40.0 | 6,055 | - | - |

注1: 副館長、研究員の該当者は4人以下のため、当該個人に関する情報が特定されるおそれがあることから、最高～最低を記載していない。

④ 賞与(平成30年度)における査定部分の比率(事務・技術職員／研究職員)

(事務・技術職員)

| 区分 | | 夏季(6月) | 冬季(12月) | 計 |
|------|---------------------|-----------|-----------|-----------|
| 管理職員 | 一律支給分(期末相当) | % | % | % |
| | 査定支給分(勤勉相当) (平均) | % | % | % |
| | 最高～最低 | ~ | % | ~ |
| 一般職員 | 一律支給分(期末相当) | % | % | % |
| | 査定支給分(勤勉相当) (平均) | 58.0 | 59.0 | 58.5 |
| | 最高～最低 | 42.0 | 41.0 | 41.5 |
| | 最高～最低 | 44.6~39.8 | 45.5~37.6 | 45.1~39.1 |

注: 事務・技術職員の管理職員は2人以下のため、記載していない。

(研究職員)

| 区分 | | 夏季(6月) | 冬季(12月) | 計 |
|------|---------------------|----------------|----------------|----------------|
| 管理職員 | 一律支給分(期末相当) | % 49.2 | % 51.4 | % 50.4 |
| | 査定支給分(勤勉相当) (平均) | % 50.8 | % 48.6 | % 49.6 |
| | 最高～最低 | % 50.8～50.8 | % 48.6～48.6 | % 49.7～49.6 |
| 一般職員 | 一律支給分(期末相当) | % 57.5 | % 59.2 | % 58.4 |
| | 査定支給分(勤勉相当) (平均) | % 42.5 | % 40.8 | % 41.6 |
| | 最高～最低 | % 47.3～39.5 | % 45.5～38.6 | % 44.5～39.3 |

3 給与水準の妥当性の検証等

事務・技術職員

| 項目 | 内容 |
|-------------------------|--|
| 対国家公務員 指数の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・年齢勘案 97.9 ・年齢・地域勘案 88.5 ・年齢・学歴勘案 97.1 ・年齢・地域・学歴勘案 88.4 |
| 国に比べて給与水準が 高くなっている理由 | 該当なし |
| 給与水準の妥当性の 検証 | <p>【国からの財政支出について】 支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 82.8% (国からの財政支出額 9,349百万円、支出予算の総額 11,294百万円：平成30年度予算) 累積欠損額 0円(平成30年度決算) 支出総額に占める給与・報酬等支給額の割合 7.5% (支出総額(平成30年度決算ベース) 13,034,149千円、給与・報酬等支出総額 978,610千円) 管理職の割合 2.6%(常勤職員数38名中1名) 大卒以上の割合 78.9%(常勤職員数38名中30名) (法人の検証結果) 俸給表、諸手当等の給与体系は国家公務員に準拠しており、国からの財政支出の割合は大きいものの、対国家公務員指数(年齢勘案)は国を2.1ポイント下回っており、平成30年度の事務職員の給与水準は適切なものであると認識している。 (主務大臣の検証結果) 給与水準の比較指標では国家公務員の水準未満となっていること等から給与水準は適正であるとする。引き続き適正な給与水準の維持に努めていただきたい。</p> |
| 講ずる措置 | 引き続き適正な給与水準の維持に努める。 |

研究職員

| 項目 | 内容 |
|-------------------------|---|
| 対国家公務員 指数の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・年齢勘案 95.3 ・年齢・地域勘案 94.0 ・年齢・学歴勘案 94.8 ・年齢・地域・学歴勘案 93.7 |
| 国に比べて給与水準が 高くなっている理由 | 該当なし |
| 給与水準の妥当性の 検証 | <p>【国からの財政支出について】</p> <p>支出予算の総額に占める国からの財政支出の割合 82.8% (国からの財政支出額 9,349百万円、支出予算の総額 11,294百万円:平成30年度予算)</p> <p>累積欠損額 0円(平成30年度決算)</p> <p>支出総額に占める給与・報酬等支給額の割合 7.5% (支出総額(平成30年度決算ベース) 13,034,149千円、給与・報酬等支出総額 978,610千円)</p> <p>管理職の割合 6.0%(常勤職員数50名中3名)</p> <p>大卒以上の割合 100%(常勤職員数50名中50名)</p> <p>(法人の検証結果)</p> <p>俸給表、諸手当等の給与体系は国家公務員に準拠しており、国からの財政支出の割合は大きいものの、対国家公務員指数(年齢勘案)は国を4.7ポイント下回っており、平成30年度の研究職員の給与水準は適切なものであると認識している。</p> <p>(主務大臣の検証結果)</p> <p>給与水準の比較指標では国家公務員の水準未満となっていること等から給与水準は適正であると考え、引き続き適正な給与水準の維持に努めていきたい。</p> |
| 講ずる措置 | 引き続き適正な給与水準の維持に努める。 |

4 モデル給与

(扶養親族がない場合)

- 22歳(大卒初任給)
月額 180,700円 年間給与 2,687,000円
- 35歳(本部主任)
月額 317,640円 年間給与 5,190,000円
- 50歳(本部室長)
月額 443,880円 年間給与 7,445,000円

※扶養親族がいる場合には、扶養手当(配偶者6,500円、子1人につき10,000円)を支給

5 業績給の仕組み及び導入に関する考え方

昇格、昇給の実施及び勤勉手当の成績率の判定については、規則に基づく勤務の評定、または業務において特に優秀な成績を修めた職員の勤務成績を考慮している。

III 総人件費について

| 区 分 | 平成29年度 | 平成30年度 |
|---------------------|-----------------|-----------------|
| 給与、報酬等支給総額 (A) | 千円 961,379 | 千円 978,610 |
| 退職手当支給額 (B) | 千円 48,506 | 千円 62,137 |
| 非常勤役員等給与 (C) | 千円 474,297 | 千円 515,028 |
| 福利厚生費 (D) | 千円 205,032 | 千円 219,167 |
| 最広義人件費 (A+B+C+D) | 千円 1,689,214 | 千円 1,774,942 |

注: 中期目標管理法及び国立研究開発法人については中期目標期間又は中長期目標期間の開始年度分から当年度分までを記載する。行政執行法人については当年度分を記載する。

総人件費について参考となる事項

① 人事院勧告を踏まえた俸給水準及び勤勉手当支給率の引き上げ等の影響により「給与、報酬等支給総額」は対前年度比1.9%増となった。また、上記の他、法人内組織新設に伴う非常勤職員の人員増等による「非常勤職員等給与」(前年度比8.4%)の増加、これに伴う社会保険料額等による「福利厚生費」(前年度比6.9%)の増加、並びに定年退職者の増加に伴う「退職手当支給額」の増加(前年度比28.1%)により、「最広義人件費」は対前年度比5.1%増となった。

② 「公務員の給与改定に関する取扱いについて」(平成29年11月17日閣議決定)に基づき、平成30年1月から以下の措置を講じた。
役員に関する講じた措置の概要: 国家公務員の退職手当において行われた調整率の改定と同様の措置を講じ、退職手当額の算出に用いる支給率の引き下げを行った。
職員に関する講じた措置の概要: 国家公務員の退職手当において行われた調整率の改定と同様の措置を講じ、退職手当額を算出する際に用いる支給率の引き下げを行った。

IV その他

特になし。